



ホスピタリティツーリズム専門学校
情報公開資料

－授業科目一覧－

学校法人トラベルジャーナル学園

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(観光科観光コース)

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
	ショートホームルーム	28					
講義	ホスピタリティ・SDGs研究	30					
講義	業界英会話	60					
講義	キャリアガイダンス	60					
講義	ビジネスプレゼンテーション(BTS)	60					
講義	中国語/韓国語	60					
講義	旅行業法	30	○	30	☆	30	
講義	地域創成デザイン	120	○	120	☆	30	
講義	デジタルマーケティング	90	○	90			
講義	イベントプランニング	90	○	90	☆	30	
講義	観光企業研究	30	○	30	☆	30	
講義	国内観光プランニング	90	○	90			
講義	キャリアガイダンスⅡ(筆記試験対策)	30					
講義	PCスキル	90					
講義	セールスオペレーション	60	○	60			
講義	リテールマーケティング	60	○	60			
講義	海外観光実務	60	○	60			
講義	ビジネスマナー	60					
講義	IRツーリズム	30	○	30			
講義	インバウンドツーリズム	30	○	30			
実習	企業実習	120					
講義	旅行業約款	30	○	30	☆	30	
講義	JR運賃料金	30	○	30			
講義	国内観光地理	30	○	30			
講義	国内実務対策	30	○	30	☆	30	
実技	予約端末オペレーション	30	○	30			
講義	海外観光地理	90	○	90			
講義	海外観光プランニング	60	○	60			
実技	観光プロモーション	90	○	90			
講義	ツーリズム研究	30	○	30			
	入学オリエンテーション	12					
	ホスピタリティ入学研修	18					
	後期始業ホームルーム	4					
	卒業式前ホームルーム	4					
総授業時数		1,680 (1,746)		1,110		180	
		1,397					

※総授業時数は科目・区分が講義や実技、実習に該当しないものを除いた合計数。()内の時間は該当しないものを含めた合計数

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(観光科クルーズコース)

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
講義	ショートホームルーム	28					
	ホスピタリティ・SDGs研究	30					
講義	業界英会話	60					
講義	キャリアガイダンス	60					
講義	ビジネスプレゼンテーション(BTS)	60					
講義	中国語/韓国語	60					
講義	旅行業法	30	○	30	☆	30	
講義	地域創成デザイン	120	○	120			
講義	デジタルマーケティング	90	○	90			
講義	イベントプランニング	90	○	90	☆	30	
講義	観光企業研究	30	○	30	☆	30	
講義	国内観光プランニング	90	○	90			
講義	キャリアガイダンスⅡ(筆記試験対策)	30					
講義	PCスキル	90					
講義	セールスオペレーション	60	○	60			
講義	リテールマーケティング	60	○	60			
講義	海外観光実務	60	○	60			
講義	ビジネスマナー	60					
講義	IRツーリズム	30	○	30			
講義	インバウンドツーリズム	30	○	30			
実習	企業実習	120					
講義	クルーズ基礎知識	60	○	60	☆	30	
講義	クルーズイングリッシュ	60					
実技	クルーズ接客演習	60	○	60	☆	30	
講義	クルーズ寄港地地理	120	○	120	☆	30	
講義	クルーズ商品知識	30	○	30			
実技	クルーズ料飲演習	60	○	60			
講義	カジノ基礎知識	30	○	30			
	入学オリエンテーション	12					
	ホスピタリティ入学研修	18					
	後期始業ホームルーム	4					
	卒業式前ホームルーム	4					
総授業時数		1,680 (1,746)		1,050		180	
		1,397					

※総授業時数は科目・区分が講義や実技、実習に該当しないものを除いた合計数。()内の時間は該当しないものを含めた合計数。

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(ホテル科ホテルコース)

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
講義	ショートホームルーム	28					
	ホスピタリティ・SDGs研究	30					
講義	業界英会話	60					
講義	キャリアガイダンス	60					
講義	ビジネスプレゼンテーション(BTS)	60					
講義	Conversational English	120					
講義	TOEIC L&R	60					
講義	HOTEL ENGLISH	60	○	60	☆	30	
講義	第2言語(選択科目/中国語・韓国語)	60					
実技	接客手話	60					
講義	SPI対策	60					
講義	インターンシップトレーニング	30	○	30			
講義	ホテル業界研究	30	○	30	☆	30	
実技	チームビルディング	60	○	60			
実技	マナー・プロトコール	30	○	30	☆	30	
実技	ホテルワークセッション	30	○	30			
演習	フロントオペレーションⅡ	60	○	60			
講義	レストランプロデュース	30	○	30			
講義	ITビジネス	60	○	60			
講義	インバウンド研究	30	○	30			
実技	卒業制作	30	○	30			
演習	フロントオペレーション	60	○	60			
演習	レストランオペレーション	120	○	120	☆	30	
講義	ホテル料飲知識	90	○	90	☆	30	
講義	ホテル産業知識	60	○	60	☆	30	
講義	フロントオペレーションⅢ	30	○	30			
演習	料飲エキスパート演習	60	○	60			
実習	企業実習	240					
	入学オリエンテーション	12					
	ホスピタリティ入学研修	18					
	後期始業ホームルーム	4					
	卒業式前ホームルーム	4					
総授業時数		1,680 (1,746)		870		180	
		1,397					

※総授業時数は科目・区分が講義や実技、演習、実習に該当しないものを除いた合計数。()内の時間は該当しないものを含めた

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(ホテル科クルーズコース)

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
講義	ショートホームルーム	28					
	ホスピタリティ・SDGs研究	30					
講義	業界英会話	60					
講義	キャリアガイダンス	60					
講義	ビジネスプレゼンテーション(BTS)	60					
講義	Conversational English	120					
講義	TOEIC L&R	60					
講義	HOTEL ENGLISH	60	○	60	☆	30	
講義	第2言語(選択科目/中国語・韓国語)	60					
実技	接客手話	60					
講義	SPI対策	60					
講義	インターンシップトレーニング	30	○	30			
講義	ホテル業界研究	30	○	30	☆	30	
実技	チームビルディング	60	○	60			
実技	マナー・プロトコール	30	○	30	☆	30	
実技	ホテルワークセッション	30	○	30			
演習	フロントオペレーションⅡ	60	○	60			
講義	レストランプロデュース	30	○	30			
講義	ITビジネス	60	○	60			
講義	インバウンド研究	30	○	30			
実技	卒業制作	30	○	30			
講義	クルーズ基礎知識	60	○	60	☆	30	
講義	クルーズイングリッシュ	60					
実技	クルーズ接客演習	60	○	60	☆	30	
講義	クルーズ寄港地地理	120	○	120	☆	30	
講義	クルーズ商品知識	30	○	30			
実技	クルーズ料飲演習	60	○	60			
講義	カジノ基礎知識	30	○	30			
実習	企業実習	240					
	入学オリエンテーション	12					
	ホスピタリティ入学研修	18					
	後期始業ホームルーム	4					
	卒業式前ホームルーム	4					
総授業時数		1,680 (1,746)		810		180	
		1,397					

※総授業時数は科目・区分が講義や実技、演習、実習に該当しないものを除いた合計数。()内の時間は該当しないものを含めた合

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(テーマパーク科)

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
講義	ショートホームルーム	28					
	ホスピタリティ・SDGs研究	30					
講義	業界英会話	60					
講義	キャリアガイダンス	60					
講義	ビジネスプレゼンテーション(BTS)	60					
講義	ゲストオペレーション(基礎)	60	○	60	☆	30	
講義	ゲストオペレーション(応用)	60	○	60			
講義	TDR/USJ研究	60	○	60	☆	30	
講義	テーマパークレジャー産業知識	60	○	60			
講義	ゲスト安全対応力	60	○	60	☆	30	
実技	オーナーシップトレーニング	120	○	120	☆	30	
実技	ワークアウト&ダンス	120	○	120	☆	30	
実技	パフォーマンストレーニング	60	○	60	☆	30	
実技	表現トレーニング(基礎)	60	○	60			
実技	表現トレーニング(応用)	60	○	60			
実技	サービス接遇	30	○	30			
講義	テーマパーク手話	90	○	90			
実技	キャラクタートレーニング	30	○	30			
講義	業界英会話(応用)	60					
講義	業界中国語	60					
講義	異文化理解	30					
講義	ライフプランニング	30					
実技	イベントプロモーション	60	○	60			
実技	キッズ/シニアアプローチ	60	○	60			
講義	メンタルヘルスケア	30					
講義	テーマパーク観光地理	30	○	30			
講義	ビジネスマナー	60					
講義	言語表現トレーニング	60					
実習	企業実習	120					
	入学オリエンテーション	12					
	ホスピタリティ入学研修	18					
	後期始業ホームルーム	4					
	卒業式前ホームルーム	4					
総授業時数		1,680 (1,746)		1,020		180	
		1,397					

※総授業時数は科目・区分が講義や実技、実習に該当しないものを除いた合計数。()内の時間は該当しないものを含めた合計数

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(総合英語科英語コース)

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
	ショートホームルーム	28					
講義	ホスピタリティ・SDGs研究	30					
講義	業界英会話	60					
講義	キャリアガイダンス	60					
講義	ビジネスプレゼンテーション(BTS)	60					
講義	TOEIC L&R	120					
講義	Conversational English	120					
講義	Multicultural Studies	30					
講義	Listening & Reading	60					
講義	CORE English Writing	120					
講義	Language Toolkit	30					
講義	CORE English Speaking	120					
講義	Speech & Presentation	90					
講義	Career English II	60					
講義	English Research	60					
講義	English Discussion & Debate	60					
講義	English Through Entertainment II	60					
講義	Second Foreign Language	60					
実習	企業実習	60					
講義	Pronunciation Training	60					
講義	Survival English	60					
講義	English Through Entertainment I	60					
講義	World Geography	120					
講義	Japanese Culture	60					
講義	TOEIC S&W	60					
	入学オリエンテーション	12					
	ホスピタリティ入学研修	18					
	後期始業ホームルーム	4					
	卒業式前ホームルーム	4					
総授業時数		1,680 (1,746)		0		0	
		1,397					

※総授業時数は科目・区分が講義や実技、実習に該当しないものを除いた合計数。()内の時間は該当しないものを含めた合計数)

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(総合英語科クルーズコース)

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
	ショートホームルーム	28					
講義	ホスピタリティ・SDGs研究	30					
講義	業界英会話	60					
講義	キャリアガイダンス	60					
講義	ビジネスプレゼンテーション(BTS)	60					
講義	TOEIC L&R	120					
講義	Conversational English	120					
講義	Multicultural Studies	30					
講義	Listening & Reading	60					
講義	CORE English Writing	120					
講義	Language Toolkit	30					
講義	CORE English Speaking	120					
講義	Speech & Presentation	90					
講義	Career English II	60					
講義	English Research	60					
講義	English Discussion & Debate	60					
講義	English Through Entertainment II	60					
講義	Second Foreign Language	60					
実習	企業実習	60					
講義	クルーズ基礎知識	60	○	60	☆	30	
講義	クルーズイングリッシュ	60					
実技	クルーズ接客演習	60	○	60	☆	30	
講義	クルーズ寄港地地理	120	○	120	☆	60	
講義	クルーズ商品知識	30	○	30	☆	30	
実技	クルーズ料飲演習	60	○	60	☆	30	
講義	カジノ基礎知識	30	○	30			
	入学オリエンテーション	12					
	ホスピタリティ入学研修	18					
	後期始業ホームルーム	4					
	卒業式前ホームルーム	4					
総授業時数		1,680 (1,746)		360		180	
		1,397					

※総授業時数は科目・区分が講義や実技、実習に該当しないものを除いた合計数。(()内の時間は該当しないものを含めた合計数)

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(エアライン科キャビンアテンダントコース)

科目 区分	授 業 科 目	授業 時間数	うち 実務教員によ る授業	授業 時間数	うち シラバス添付	授業 時間数	備考
	ショートホームルーム	28					
講義	ホスピタリティ・SDGs研究	30					
講義	業界英会話	60	○	60	☆	30	
講義	キャリアガイダンス	60					
講義	ビジネスプレゼンテーション(BTS)	60					
講義	Conversational English	120					
講義	TOEIC L&R	120					
講義	TOEIC Training	60					
講義	TOEIC Reading	60					
講義	TOEIC Listening	60					
講義	Listening Training	60					
講義	Reading Training	60					
講義	World Geography	60					
講義	Japanese Culture	60					
講義	業界中国語/業界韓国語	60					
講義	ワールドリサーチ	90	○	90			
実技	キャビンアテンダント実務	120	○	120	☆	60	
講義	航空業界研究 (1年後期3コース合同)	60	○	60	☆	30	
講義	キャリアガイダンスII	60					
講義	デジタルマーケティング	60					
講義	おもてなし手話	60					
講義	ビジネスマナー	60	○	60			
講義	時事研究	30	○	30			
講義	航空保安	30	○	30	☆	30	
講義	エアラインエキスパート (3コース合同)	30	○	30	☆	30	
講義	メンタルヘルスマネジメント	30					
講義	航空運賃料金	30	○	30			
講義	卒業制作 (3コース合同)	30	○	30			
実習	エアポートジョブトレ	60					
	入学オリエンテーション	12					
	ホスピタリティ入学研修	18					
	後期始業ホームルーム	4					
	卒業式前ホームルーム	4					
総授業時数		1,680 (1,746)		540		180	
		1,397					

※総授業時数は科目・区分が講義や実技、実習に該当しないものを除いた合計数。()内の時間は該当しないものを含めた合計数

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(エアライン科グランドスタッフコース)

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
講義	ショートホームルーム	28					
	ホスピタリティ・SDGs研究	30					
講義	業界英会話	60	○	60	☆	30	
講義	キャリアガイダンス	60					
講義	ビジネスプレゼンテーション(BTS)	60					
講義	Conversational English	120					
講義	TOEIC L&R	120					
講義	TOEIC Training	60					
講義	TOEIC Reading	60					
講義	TOEIC Listening	60					
講義	Listening Training	60					
講義	Reading Training	60					
講義	World Geography	60					
講義	Japanese Culture	60					
講義	業界中国語/業界韓国語	60					
講義	ワールドリサーチ	90	○	90			
実技	グランドスタッフ実務	120	○	120	☆	60	
講義	航空業界研究(1年後期3コース合同)	60	○	60	☆	30	
講義	キャリアガイダンスII	60					
講義	デジタルマーケティング	60					
講義	おもてなし手話	60					
講義	ビジネスマナー	60	○	60			
講義	時事研究	30	○	30			
講義	航空保安	30	○	30	☆	30	
講義	エアラインエキスパート(3科合同)	30	○	30	☆	30	
講義	メンタルヘルスマネジメント	30					
講義	航空運賃料金	30	○	30			
講義	卒業制作(3科合同)	30	○	30			
実習	エアポートジョブトレ	60					
	入学オリエンテーション	12					
	ホスピタリティ入学研修	18					
	後期始業ホームルーム	4					
	卒業式前ホームルーム	4					
総授業時数		1,680 (1,746)		540		180	
		1,397					

※総授業時数は科目・区分が講義や実技、実習に該当しないものを除いた合計数。()内の時間は該当しないものを含めた合計数

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(エアライン科エアポートオペレーションコース)

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
	ショートホームルーム	28					
講義	ホスピタリティ・SDGs研究	30					
講義	業界英会話	60					
講義	キャリアガイダンス	60					
講義	ビジネスプレゼンテーション(BTS)	60					
実技	ランプハンドリング実務	180	○	180			
講義	ワールドリサーチ	90	○	90			
講義	航空業界研究(1年後期3コース合同)	60	○	60	☆	30	
講義	国際航空貨物取扱士 運賃	60	○	60	☆	30	
講義	国際航空貨物取扱士 知識	60	○	60	☆	30	
講義	国際航空貨物取扱士 対策	30	○	30			
講義	カーゴサービス	30	○	30			
講義	キャリアガイダンスⅡ	60					
講義	Conversational English	60					
講義	TOEIC	60					
講義	危険物航空輸送	30	○	30	☆	30	
講義	航空保安	30	○	30	☆	30	
講義	エアラインエキスパート(3コース合同)	30	○	30			
講義	危険予知トレーニング	60	○	60			
講義	カーゴハンドリング	60	○	60	☆	30	
講義	空港規則	60	○	60			
講義	デジタルマーケティング	60					
講義	ビジネスマナー	60	○	60			
講義	航空機概論	60	○	60			
講義	時事研究	60	○	60			
講義	メンタルヘルスマネジメント	30					
講義	ロードコントロール	30	○	30			
講義	卒業制作(3コース合同)	30	○	30			
実習	エアポートジョブトレ	180					
	入学オリエンテーション	12					
	ホスピタリティ入学研修	18					
	後期始業ホームルーム	4					
	卒業式前ホームルーム	4					
総授業時数		1,680 (1,746)		1,020		180	
		1,397					

※総授業時数は科目・区分が講義や実技、実習に該当しないものを除いた合計数。()内の時間は該当しないものを含めた合計数)

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(鉄道科)

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 実技 実技 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 実技 講義 実技 実技 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 実習	シヨートホームルーム	28					
	ホスピタリティ・SDGs研究	30					
	業界英会話	60					
	キャリアガイダンス	60					
	ビジネスプレゼンテーション(BTS)	60					
	キャリアガイダンスⅡ	120					
	業界中国語	30					
	おもてなし手話	30					
	適性検査/一般常識	60					
	文字表現	30					
	コミュニケーショントレーニング	30	○	30	☆	30	
	鉄道接遇	30	○	30			
	パッセンジャーオペレーション	30	○	30			
	観光列車	30	○	30			
	クルーサービス	30	○	30			
	マナープロトコール	30	○	30	☆	30	
	駅係員実務	30	○	30	☆	30	
	運賃料金	60	○	60			
	営業規則	30	○	30	☆	30	
	駅務輸送	30	○	30			
	車掌実務	30	○	30			
	運転法規	30	○	30			
	運転士実務	30	○	30			
	運転訓練	30	○	30			
	指令実務	30	○	30			
	技術基礎	30	○	30	☆	30	
	鉄道電気	30	○	30			
	鉄道車両	30	○	30			
	鉄道設備	30	○	30			
	路線地理	30	○	30			
	鉄道概論	30	○	30	☆	30	
	鉄道企業	120	○	120			
	事業計画	60	○	60			
	ジョブトレ	360					
	入学オリエンテーション	12					
	ホスピタリティ入学研修	18					
後期始業ホームルーム	4						
卒業式前ホームルーム	4						
総授業時数		1,680 (1,746)		840		180	
		1,397					

※総授業時数は科目・区分が講義や実技、実習に該当しないものを除いた合計数。()内の時間は該当しないものを含めた合計数

ホスピタリティツーリズム専門学校 情報公開資料

—理事名簿—

学校法人トラベルジャーナル学園

《学校法人トラベルジャーナル学園 理事一覧》

(理事長)

理事長 森谷 博 (学) トラベルジャーナル学園 理事長

(専務理事)

専務理事 岸本 信夫 (学) トラベルジャーナル学園 東京本部 本部長

(常務理事)

常務理事 高田 直樹 (学) トラベルジャーナル学園 大阪本部 本部長

(理事)

理事 内菌 幸一 (学) トラベルジャーナル学園
ホスピタリティツーリズム専門学校校長
東京ブライダル専門学校校長

理事 大内 明男 (学) トラベルジャーナル学園 大阪本部 総務部長

理事 宮崎 智恵 (学) トラベルジャーナル学園 東京本部 教務部長

理事 森谷 隼人 (学) トラベルジャーナル学園 シアトル本部 所属

理事 岩瀬 賢治 株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ 代表取締役社長

理事 西尾 忠男 株式会社ジャルパック 代表取締役会長



ホスピタリティツーリズム専門学校
情報公開資料

—シラバス—

学校法人トラベルジャーナル学園

授業計画書

学部	屋	年次	1	学科	観光科			コース	観光コース		
クラス			A	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				旅行業法				講師名	久保田 紘太郎		
担当講師の実務経験				○	実務経歴	旅行会社にて国内・海外・クルーズ等の販売に従事 総合旅行業務取扱管理者、クルーズ・コンサルタント					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
国内旅行業務取扱管理者の科目である旅行業法について学び、管理者試験の突破を目指す。						授業形式：講義および実技等 法律の仕組みや内容について単元ごとに座学形式にて学び、各単元ごとに小テストを実施しながら法律の知識を身に着ける。					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/17	オリエンテーション 旅行業法第1条～第6条及び関連施行規則	授業の意義目的、シラバス、評価方法、追試説明目的から登録の拒否までを解説し、練習問題に取り組み。	講義							
2	4/24	旅行業法第6条の2～第8条及び 関連施行規則	登録の有効期間から営業保証金の額等を解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
3	5/8	旅行業法第9条～第11条の3及び 関連施行規則	営業保証金の追加の供託等から旅行業務取扱管理者試験までを解説し、練習問題に取り組み。前回までの復習講義を行う。	講義	10						
4	5/15	旅行業法第12条～第12条の3及び 関連施行規則	料金の掲示から標準旅行業約款までを解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
5	5/22	旅行業法第12条の4～第12条の5及び 関連施行規則	取引条件の説明から書面の交付までを解説し、練習問題に取り組み	講義	10						
6	5/29	旅行業法第12条の5の2～第12条の9及び 関連施行規則	旅行業務取扱管理者の証明書の提示から標識の掲示までを解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
7	6/5	旅行業法第12条の10～第14条及び関連施行規則（12条の12～28を除く）	企画旅行の円滑な実施のための措置から名義利用の禁止までを解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
8	6/12	旅行業法第14条の2～第15条及び 関連施行規則	企画旅行を実施する旅行者の代理から事業の廃止までを解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
9	6/19	旅行業法第15条の2～第22条の7及び 関連施行規則	旅行者代理業の登録の失効から旅行者登録簿の閲覧及び苦情の解決をポイントに解説する。	講義	10						
10	6/26	旅行業法第22条の8～第34条及び 関連施行規則①	弁済業務補償金の供託及び保証社員の旅行業約款の記載事項を中心に解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
11	7/3	旅行業法第22条の8～第34条及び 関連施行規則②	弁済業務補償金の供託及び保証社員の旅行業約款の記載事項を中心に解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
12	7/10	フィードバック	総復習。成績フィードバック	講義							
13	9/4	特別授業	特別授業								
14	9/11	特別授業	特別授業								
追試詳細				達成度評価	使用教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠者が対象 ・ 試験当日17:20までに授業担当へ連絡（欠席理由および追試を受けたい旨を連絡） ・ 上記期限までに連絡がない場合は、原則として受験は不可 				申請サイト	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下						
				申請サイト 利用不可 授業担当へ 直接相談の こと							


授業計画書

学部	屋	年次	1	学科	観光科			コース				
クラス			A	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修		
科目名			地域創成デザイン					講師名	西 陽一郎			
担当講師の実務経歴			○	実務経歴		旅行会社での勤務経験あり。営業職での従事経験から、社会人として人当たりの良い自己表現方法を伝えている。国家資格キャリアコンサルタントを取得し、就職活動のサポートを担当。						
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方						
地域にはどのような魅力があり、どのような機関が広報を行っているかPBL（課題解決型）方式で学習する。研究と発表を通じ、想像力を養い、旅と人の共創について考える。また、地域活性化を視野に入れ、観光プランや地域イベントの立案、協力企業への提案、商品化を目指し企画力を養う。						授業形式：講義および実技等 「タマリズムコンテスト」へのアイデア企画応募に向け、グループごとに都内5市の魅力発掘を行う。各都市の課題を踏まえ、地域振興を目的とした地域の魅力を発見し、観光によるまちづくりへの企画を進めていく。						
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト			
								形式	点数			
1	4/13	オリエンテーション 観光とは、タマリズムプロジェクト				<input type="checkbox"/> 授業の目的と進め方を理解 <input type="checkbox"/> 観光の過去と現在を理解						
2	4/20	2年生提案内容確認				<input type="checkbox"/> 2年生が昨年度の活動成果として地域に提案した内容を確認し、活動内容をイメージする						
3	4/27	タマリズムコンテスト事前説明会				<input type="checkbox"/> タマリズムコンテストの事前説明会を視聴（アーカイブ）し、コンテストの概要を把握する						
4	5/11	タマリズムコンテスト マッチング会企画書準備				<input type="checkbox"/> 指定5市から調査対象地域を絞り、情報収集する <input type="checkbox"/> 地域の課題を解決する「観光まちづくり」企画を立案する						
5	5/18					<input type="checkbox"/> 企画したものを提案するために資料を作成する【マッチング会企画中間チェック】			課題	20		
6	5/25					<input type="checkbox"/> 中間チェックでの留意事項を確認し、マッチング会提出資料を作成する						
7	6/1					<input type="checkbox"/> マッチング会に提出する企画書を完成させる【マッチング会企画書提出】			課題	30		
8	6/8	一次審査会準備				<input type="checkbox"/> 審査会での発表に向け、留意事項を理解する <input type="checkbox"/> マッチング会で収集した情報を確認する						
9	6/15	一次審査会提案プレゼン準備				<input type="checkbox"/> 企画地域の課題解決方法を探り企画の深堀を行う						
10	6/22	提案の方向性を定める				<input type="checkbox"/> 企画提案の方向性を定め、プレゼンテーションの内容を決める						
11	6/29	発表資料作成				<input type="checkbox"/> 定めた方向性を共有し、訴求点を明確にした企画提案書を作成する						
12	7/6	発表資料提出				<input type="checkbox"/> 講師のフィードバックを参考に修正 <input type="checkbox"/> 企画提案書を提出			課題	20		
13	7/13	総復習 クラス内プレゼン				<input type="checkbox"/> 企画提案書をもとにクラス内でプレゼンテーションを実施する			実技	30		
14	9/7	特別授業				特別授業						
15	9/14	特別授業				特別授業						
追試詳細						達成度評価			使用教材			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要 （シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡 						申請サイト			オリジナル A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下			

授 業 計 画 書

学部	屋	年次	1	学科	観光科			コース	観光コース	
クラス			A	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名				イベントプランニング				講師名	ツーリストエキスパート	
担当講師の実務経歴			○	実務経歴	長屋明子：添乗歴34年（海外添乗6200日以上） 長屋雅博：添乗歴36年（海外添乗6400日以上）					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
国内旅程管理主任者の資格取得						授業形式：講義および実技等 テキストに沿って国内旅程管理実務の流れと実務に関する法令・約款を覚える。 ※添乗実務研修を日帰りで1回行う				
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標		確認テスト		
							形式	点数		
1	4/12	オリエンテーション（15分） 国内添乗実務・添乗員の役割				授業目的、シラバス、評価方法など 添乗員としての心構え				
2	4/19	法令・約款				旅行業法				
3	4/26	法令・約款				約款、契約の締結・変更・解除				
4	5/10	法令・約款、国内添乗実務				特別補償、旅程保証責任				
5	5/17	国内添乗実務：打合せ、バスツアー				打合せから出発までの準備の流れをつかむ				
6	5/24	中間試験、バスツアー、1日の流れ				バスツアーの流れ・仕事内容		筆記 30分		50点
7	5/31	国内添乗実務：バスツアー、1日の流れ				バスツアーの流れ・仕事内容				
8	6/7	スポーツデー/ハラスポーツデー								
9	6/14	国内添乗実務：航空機の旅				航空機利用のうあーの流れ				
10	6/21	国内添乗実務：鉄道の旅				鉄道利用のツアーの流れ				
11	6/28	国内添乗実務：運輸機関に関する知識				鉄道・航空機に関する基本的な知識				
12	7/5	期末試験 国内添乗実務				特別補償・旅程保証に関するトラブルの解決など		筆記 30分		50点
13	7/12	法令・約款				旅程保証責任について復習				
14	7/19	国内旅程管理主任者修了試験 国内添乗実務				添乗実務の1日の流れ ロールプレイ学習				
15	9/6	特別授業				実務研修の打合せ				
16	9/13	特別授業				特別授業				
追試詳細						達成度評価		使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 （シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト				
								A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下		

授業計画書

学部	屋	年次	1	学科	観光科			コース	観光コース	
クラス			Able	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			観光企業研究					講師名	山口幸恵	
担当講師の実務経験			○	実務経歴			旅行会社にて営業・添乗・企画・手配業務全般を経験。専門学校広報部にて、媒体制作、webマーケティング、募集イベント企画・運営など、通年で10年以上経験。			
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
主要な旅行企業を研究し、就職活動の基礎知識や就職後の業務知識に活かすことを目標とします。当校学生の採用実績がある企業を知り、就職活動準備を進めます。						授業形式：講義および実技等 主要な旅行会社を中心に学び、各社の事業内容や経営理念など業態ごとの特徴や特性を把握していきます。				
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト	
									形式	点数
1	4/17	オリエンテーション 企業研究方法				授業の目的を理解する 企業研究方法を理解する				
2	4/24	JTB（グループ企業含む） エイチ・アイ・エス				企業の概要を把握する				
3	5/8	KNTホールディングス 日本旅行				企業の概要を把握する				
4	5/15	航空会社系旅行会社（ホールセラー）				各企業の概要を把握する				
5	5/22	中間テスト ランドオペレーター主要会社①				各企業の概要を把握する			筆記	40点
6	5/29	ランドオペレーター主要会社②				企業の概要を把握する				
7	6/5	OTA各社①				企業の概要を把握する				
8	6/12	OTA各社②				企業の概要を把握する				
9	6/19	ビジネスstripp取扱主要会社①				企業の概要を把握する				
10	6/26	ビジネスstripp取扱主要会社②				企業の概要を把握する				
11	7/3	期末テスト				企業の概要を把握する			筆記	60点
12	7/10	成績フィードバック				成績フィードバック 企業の概要を把握する				
13	9/4	特別授業				特別授業				
14	9/11	特別授業				特別授業				
追試詳細						達成度評価			使用教材	
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 （シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト				
										
						A 80点以上				
						B 70点以上				
						C 60点以上				
						D 59点以下				

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	観光科			コース			
クラス			A	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			旅行業約款					講師名	西 陽一郎		
担当講師の実務経験		○		実務経歴	旅行会社での勤務経験あり。営業職での従事経験から、旅行商品販売実務における資格取得の必要性を含め、資格取得活動を指導している。						
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
旅行業約款の中で柱となる募集型企画旅行(以下「募」)を一週り学習した後、受注型企画旅行(以下「受」)、特別補償規程、手配旅行の順に学習する。並行して国内旅行業務取扱管理者試験における約款科目の問題解答力を身につける。						授業形式：講義および実技等 テキストを使用し、国内旅行業務取扱管理者試験の試験科目・旅行業約款、運送約款、宿泊約款を学習する。お客様との旅行商品取引で遵守しなければならないことを把握し、お客様との契約時にトラブルを回避するための準備を進めていく。					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/18	オリエンテーション 募・受第1条～第7条	授業の意義目的、評価方法、追試方法を理解する。 募集型企画旅行、受注型企画旅行、手配旅行の違い適用範囲から契約締結まで理解する								
2	4/25	募・受第8条～第14条	契約の成立時期から旅行代金の額の変更まで理解する								
3	5/9	募・受第15条～第22条	旅行者の交替から契約責任者まで理解する								
4	5/16	募・受第23条～第30条、受第31条	契約成立の特別から旅行者の責任まで理解する								
5	5/23	特別補償規程①	確認テスト①：企画旅行契約補償金等を支払わない場合から代位まで理解する	筆記	25						
6	5/30	特別補償規程②	手配旅行契約の締結・成立について理解する								
7	6/6	募集型企画旅行と受注型企画旅行の違い	確認テスト②：特別補償規定募集型企画旅行と受注型企画旅行とで異なる部分を復習し、本試験に備える	筆記	25						
8	6/13	手配旅行契約 契約の締結	手配旅行契約の締結・成立について理解する								
9	6/20	手配旅行契約 契約の変更・解除、団体旅行相談契約	手配旅行契約の手配内容変更、旅行相談契約の成立に関して理解する								
10	6/27	貸切バス等の運送約款	確認テスト③：手配旅行契約一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款および実務内容の類出ポイントを把握する	筆記	25						
11	7/4	フェリー約款	フェリー運送約款および実務内容の類出ポイントを把握する								
12	7/11	宿泊約款	モデル宿泊約款および実務内容の類出ポイントを把握する	筆記	25						
13	7/18	国内航空運送約款 フィードバック	国内航空運送約款および実務内容の類出ポイントを把握する 総復習								
14	9/5	特別授業	特別授業								
15	9/12	特別授業	特別授業								
追試詳細				達成度評価	使用教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 				申請サイト		オリジナル					
					A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下						

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	観光科			コース	観光コース		
クラス			AT	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			国内実務対策					講師名	久保田 紘太郎		
担当講師の実務経歴			○	実務経歴	旅行会社にて国内・海外・クルーズ等の販売に従事 総合旅行業務取扱管理者、クルーズ・コンサルタント						
授業のねらい・学期の達成目標					授業概要と進め方						
国内旅行業務取扱管理者合格を目標に、各科目の点数アップを狙う。演習を中心に授業を展開。理解度を深めるとともに、試験本番への準備を行う。					授業形式：講義および実技等 演習および解説講義形式で実施。						
実施回数	実施日	学習内容			各回の到達目標			確認テスト			
								形式	点数		
1	4/18	国家試験概要 日本地図			国家試験概要の説明 日本の都道府県的位置を覚えます。						
2	4/25	国内観光地理1			小テスト 日本地図 北海道の観光地について練習問題を行います。			筆記	10		
3	5/9	国内観光地理2			小テスト 北海道 北東北の観光地について練習問題を行います。			筆記	10		
4	5/16	国内観光地理3			小テスト 北東北 南東北の観光地について練習問題を行います。			筆記	10		
5	5/23	国内観光地理4			小テスト 南東北 北関東の観光地について練習問題を行います。			筆記	10		
6	5/30	国内観光地理5			小テスト 北関東 南関東の観光地について練習問題を行います。			筆記	10		
7	6/6	国内観光地理6			小テスト 南関東 北陸の観光地について練習問題を行います。			筆記	10		
8	6/13	国内観光地理7			小テスト 北陸 東海の観光地について練習問題を行います。			筆記	10		
9	6/20	国内観光地理8			小テスト 東海 近畿①の観光地について練習問題を行います。			筆記	10		
10	6/27	国内観光地理9			小テスト 近畿① 近畿②の観光地について練習問題を行います。			筆記	10		
11	7/4	国内観光地理10			小テスト 近畿② 中国・四国の観光地について練習問題を行います。			筆記	10		
12	7/11	国内観光地理11			確認テスト 中国四国 九州の観光地について練習問題を行います。						
13	7/18	国内観光地理12			確認テスト 九州 沖縄の観光地について練習問題を行います。						
14	9/5	特別授業			特別授業						
15	9/12	特別授業			特別授業						
追試詳細					達成度評価			使用教材			
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・授業担当へ試験当日17:50までに連絡すること 					申請サイト		A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下				
					サイト 使用不可						

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	観光科			コース	クルーズコース		
クラス			A	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			旅行業法					講師名	久保田 絃太郎		
担当講師の実務経歴			○	実務経歴	旅行会社にて国内・海外・クルーズ等の販売に従事 総合旅行業務取扱管理者、クルーズ・コンサルタント						
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
国内旅行業務取扱管理者の科目である旅行業法について学び、管理者試験の突破を目指す。						授業形式：講義および実技等 法律の仕組みや内容について單元ごとに座学形式にて学び、各單元ごとに小テストを実施しながら法律の知識を身に着ける。					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/17	オリエンテーション 旅行業法第1条～第6条及び関連施行規則	授業の意義目的、シラバス、評価方法、追試説明目的から登録の拒否までを解説し、練習問題に取り組み。	講義							
2	4/24	旅行業法第6条の2～第8条及び関連施行規則	登録の有効期間から営業保証金の額等を解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
3	5/8	旅行業法第9条～第11条の3及び関連施行規則	営業保証金の追加の供託等から旅行業務取扱管理者試験までを解説し、練習問題に取り組み。前回までの復習講義を行う。	講義	10						
4	5/15	旅行業法第12条～第12条の3及び関連施行規則	料金の掲示から標準旅行業約款までを解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
5	5/22	旅行業法第12条の4～第12条の5及び関連施行規則	取引条件の説明から書面の交付までを解説し、練習問題に取り組み	講義	10						
6	5/29	旅行業法第12条の5の2～第12条の9及び関連施行規則	旅行業務取扱管理者の証明書の提示から標識の掲示までを解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
7	6/5	旅行業法第12条の10～第14条及び関連施行規則（12条の12～28を除く）	企画旅行の円滑な実施のための措置から名義利用の禁止までを解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
8	6/12	旅行業法第14条の2～第15条及び関連施行規則	企画旅行を実施する旅行者の代理から事業の廃止までを解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
9	6/19	旅行業法第15条の2～第22条の7及び関連施行規則	旅行者代理業の登録の失効から旅行者登録簿の閲覧及び苦情の解決をポイントに解説する。	講義	10						
10	6/26	旅行業法第22条の8～第34条及び関連施行規則①	弁済業務補償金の供託及び保証社員の旅行業約款の記載事項を中心に解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
11	7/3	旅行業法第22条の8～第34条及び関連施行規則②	弁済業務補償金の供託及び保証社員の旅行業約款の記載事項を中心に解説し、練習問題に取り組み。	講義	10						
12	7/10	フィードバック	総復習。成績フィードバック	講義							
13	9/4	特別授業	特別授業								
14	9/11	特別授業	特別授業								
追試詳細			達成度評価		使用教材						
・公欠者が対象 ・試験当日17:20までに授業担当へ連絡（欠席理由および追試を受けたい旨を連絡） ・上記期限までに連絡がない場合は、原則として受験は不可			申請サイト	A 80点以上							
			申請サイト 利用不可 授業担当へ 直接相談の こと	B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下							

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	観光科			コース	クルーズコース		
クラス			A	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			イベントプランニング					講師名	ツーリストエキスパート		
担当講師の実務経験		○			実務経歴	長屋明子：添乗歴34年（海外添乗6200日以上） 長屋雅博：添乗歴36年（海外添乗6400日以上）					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
国内旅程管理主任者の資格取得						授業形式：講義および実技等 テキストに沿って国内旅程管理実務の流れと実務に関する法令・約款を覚える。 ※添乗実務研修を日帰りで1回行う					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標		確認テスト			
								形式	点数		
1	4/12	オリエンテーション（15分） 国内添乗実務・添乗員の役割				授業目的、シラバス、評価方法など 添乗員としての心構え					
2	4/19	法令・約款				旅行業法					
3	4/26	法令・約款				約款、契約の締結・変更・解除					
4	5/10	法令・約款、国内添乗実務				特別補償、旅程保証責任					
5	5/17	国内添乗実務：打合せ、バスツアー				打合せから出発までの準備の流れをつかむ					
6	5/24	中間試験、バスツアー、1日の流れ				バスツアーの流れ・仕事内容		筆記 30分	50点		
7	5/31	国内添乗実務：バスツアー、1日の流れ				バスツアーの流れ・仕事内容					
8	6/7	スポーツター/バラスポーツター									
9	6/14	国内添乗実務：航空機の旅				航空機利用のうあーの流れ					
10	6/21	国内添乗実務：鉄道の旅				鉄道利用のツアーの流れ					
11	6/28	国内添乗実務：運輸機関に関する知識				鉄道・航空機に関する基本的な知識					
12	7/5	期末試験 国内添乗実務				特別補償・旅程保証に関するトラブルの解決など		筆記 30分	50点		
13	7/12	法令・約款				旅程保証責任について復習					
14	7/19	国内旅程管理主任者修了試験 国内添乗実務				添乗実務の1日の流れ ロールプレイ学習					
15	9/6	特別授業				実務研修の打合せ					
16	9/13	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価		使用教材			
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 （シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト		A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下			
											

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	観光科			コース	クルーズコース	
クラス			Able	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			観光企業研究					講師名	山口幸恵	
担当講師の実務経験			○	実務経歴		旅行会社にて営業・添乗・企画・手配業務全般を経験。専門学校広報部にて、媒体制作、webマーケティング、募集イベント企画・運営など、通年で10年以上経験。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
主要な旅行企業を研究し、就職活動の基礎知識や就職後の業務知識に活かすことを目標とします。当校学生の採用実績がある企業を知り、就職活動準備を進めます。						授業形式：講義および実技等 主要な旅行会社を中心に学び、各社の事業内容や経営理念など業態ごとの特徴や特性を把握していきます。				
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト	
								形式	点数	
1	4/17	オリエンテーション 企業研究方法				授業の目的を理解する 企業研究方法を理解する				
2	4/24	JTB（グループ企業含む） エイチ・アイ・エス				企業の概要を把握する				
3	5/8	KNTホールディングス 日本旅行				企業の概要を把握する				
4	5/15	航空会社系旅行会社（ホールセラー）				各企業の概要を把握する				
5	5/22	中間テスト ランドオペレーター主要会社①				各企業の概要を把握する			筆記	40点
6	5/29	ランドオペレーター主要会社②				企業の概要を把握する				
7	6/5	OTA各社①				企業の概要を把握する				
8	6/12	OTA各社②				企業の概要を把握する				
9	6/19	ビジネストリップ取扱主要会社①				企業の概要を把握する				
10	6/26	ビジネストリップ取扱主要会社②				企業の概要を把握する				
11	7/3	期末テスト				企業の概要を把握する			筆記	60点
12	7/10	成績フィードバック				成績フィードバック 企業の概要を把握する				
13	9/4	特別授業				特別授業				
14	9/11	特別授業				特別授業				
追試詳細						達成度評価			使用教材	
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 （シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト				
										
						A 80点以上				
						B 70点以上				
						C 60点以上				
						D 59点以下				

授 業 計 画 書

学部	屋	年次	1	学科	観光科			コース	クルーズコース	
クラス			CR1	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名				クルーズ基礎知識				講師名	佐渡村 春香	
担当講師の実務経歴		○		実務経歴		クルーズ客船において5年間の乗船経験を持つ。エンターテインメント部門として、船内イベントの企画・進行・司会業務などを主に担当。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
①クルーズスタッフの職種や専門用語などをしっかりと理解し、クルーズの基礎知識習得を目指す ②クルーズ船で働く仕事の楽しさや厳しさに触れ、業界への視野を広げる 《授業の進捗状況により、内容を変更する可能性があります》						授業形式：講義および実技等 クルーズ業界と職種について、お客様目線とスタッフ目線から座学形式で学ぶ				
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト						
				形式	点数					
1	4/18	オリエンテーション クルーズ客船とは	授業の意義目的、シラバス、評価方法、追試説明							
2	4/25	クルーズの歴史 クルーズ専門用語	歴史を知り、基本的なクルーズの定義を説明できる、専門用語を正しく理解できる							
3	5/9	クルーズのセールスポイントと魅力	船旅特有のセールスポイントを挙げる事が出来る							
4	5/16	クルーズ商品	パンフレットの見方を知り、どのような商品があるのかを知る							
5	5/23	中間テスト	ここまでの知識習得度を評価する	筆記	40					
6	5/30	クルーズ客船のスタッフと任務①	クルーの役職や職務、労働環境について知る							
7	6/6	クルーズ客船のスタッフと任務②	業務乗船スタッフの役職や職務、労働環境について知る							
8	6/13	船内新聞の見方	船内新聞の見方を知り、お客様に説明できる							
9	6/20	船内イベントについて①	船内で企画・開催されているイベントを知る							
10	6/27	船内イベントについて②	船内で企画・開催されているイベントを考案し企画力の向上を目指す							
11	7/4	期末テスト	前期の知識習得度を評価する	筆記	60					
12	7/11	フィードバック 総復習	成績のフィードバック 前期学習のフィードバック							
13	7/18	クルーズ海上スタッフと陸上スタッフ	求められている能力や適性を知る							
14	9/5	特別授業	特別授業							
15	9/12	特別授業	特別授業							
追試詳細			達成度評価	使用教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（右記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 			申請サイト	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下						
										


授 業 計 画 書

学部	屋	年次	1	学科	観光科	コース	クルーズコース			
クラス			CR1	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			クルーズ接客演習				講師名	佐渡村 春香		
担当講師の実務経歴			○	実務経歴		クルーズ客船において5年間の乗船経験を持つ。エンターテイメント部門として、船内イベントの企画・進行・司会業務などを主に担当。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
①接客のプロとして恥ずかしくない立ち居振る舞いを身に付け、基本的な業務内容を理解する。 ②現場での基本業務の即戦力を目標とする。 《授業の進捗状況により、内容を変更する可能性があります》						授業形式：講義および実技等 接客対応の様々な場面を想定して、演習形式をメインで行う。				
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標		確認テスト		
							形式	点数		
1	4/18	オリエンテーション「身だしなみ」、「立ち居振る舞い」について				授業の意義目的、シラバス、評価方法、追試説明、接客の基本				
2	4/25	コミュニケーション力強化 褒める力				語彙力を増やし、積極的に話しを広げることが出来る				
3	5/9	クルーズセールストーク①				お客様にクルーズの魅力をお伝えできる				
4	5/16	クルーズセールストーク②				お客様に適切なクルーズ商品をお勧めし、適切な日本語と立ち振る舞いで接客が出来る				
5	5/23	中間テスト						実技	40	
6	5/30	コミュニケーション力強化 質問力				相手に積極的に質問をし、話しを広げることが出来る				
7	6/6	船内案内業務①				移動を伴いながら対面でご案内が出来る				
8	6/13	船内案内業務②				船内新聞を用いながら船内での過ごし方をご案内出来る				
9	6/20	船内イベント運営①				船内イベントの実践を通して準備～進行が出来る				
10	6/27	船内イベント運営②				船内イベントの実践を通して幅広い年代のお客様を楽しませる工夫が出来る				
11	7/4	期末テスト				イベント企画・進行		実技	60	
12	7/11	フィードバック 総復習				成績のフィードバック 前期学習のフィードバック				
13	7/18	クレームとその対応				お客様からのクレーム事例を中心に学び、その対応が適切にできる				
14	9/5	特別授業				特別授業				
15	9/12	特別授業				特別授業				
追試詳細						達成度評価		使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（右記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト				
								A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下		


授業計画書

学部	昼	年次	2	学科	観光科			コース	クルーズコース	
クラス			CR2	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			クルーズ寄港地地理				講師名	久保田 絃太郎		
担当講師の実務経歴			○	実務経歴		旅行会社にて国内・海外・クルーズ等の販売に従事 総合旅行業務取扱管理者、クルーズ・コンサルタント				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
欧州から学習をスタートし、アジア・オセアニア・中東などを学習します。主要港とそこからの観光地について、お客様に説明ができることを目指します。						授業形式：講義および実技等 日本および世界の観光地の基本について学びます。主要な航路や港を中心に学ぶほか、観光業界での常識になる程度の観光地理についても学習をします。				
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト						
				形式	点数					
1	4/18	1年次の復習	1年次の復習	講義						
2	4/25	欧州の港①	ヨーロッパの港について学習	講義						
3	5/9	欧州の港②	ヨーロッパの港について学習	講義						
4	5/16	欧州の港③	ヨーロッパの港について学習	講義						
5	5/23	中間試験 アジアの港①	中間試験 アジアの港について学習	講義	40					
6	5/30	アジアの港②	アジアの港について学習	講義						
7	6/6	アジアの港③	アジアの港について学習	講義						
8	6/13	アジアの港④	アジアの港について学習	講義						
9	6/20	アジアの港⑤	アジアの港について学習	講義						
10	6/27	オセアニア・南太平洋の港①	オセアニア・南太平洋の港について学習	講義						
11	7/4	期末試験	期末試験	講義	60					
12	7/11	オセアニア・南太平洋の港②	オセアニア・南太平洋の港について学習	講義						
13	7/18	ハワイ	ハワイの港について学習	講義						
14	9/5	特別授業	特別授業							
15	9/12	特別授業	特別授業							
追試詳細			達成度評価		使用教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 			申請サイト	A 80点以上						
				B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下						

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	ホテル科			コース	ホテルコース		
クラス			C	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				HOTEL ENGLISH				講師名	居石 知佳		
担当講師の実務経歴				○	実務経歴		福岡や京都などのホテルや旅館で勤務。レストラン、ウエディングプランナー、ベル業務などに従事。マレーシアのレストラン勤務の経験もあり、リゾートからシティホテルまで経験。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
ホテル内における接客接遇に相応した英会話フレーズを理解し、現場で対応できる力を身につける。オンライン英会話ではさらに日常英会話力を身につけ、英語への苦手意識を克服しましょう。						授業形式：講義および実技等 ホテル業界で使用する英単語・英語フレーズを学ぶ。 講義→演習の流れを通して、頭でも体でも覚えて実践できるようにする。 毎授業25分間のオンライン英会話有り。					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト		
								形式	点数		
1	4/14	オリエンテーションクローク				□授業の意義目的、評価や授業計画書を理解した □荷物のお預かりができる					
2	4/21	クローク ～練習～ ※塩塚先生				□クロークの実技を積極的に練習した					
3	4/28	クローク ～実技テスト～				□クロークの実技テストを乗り越えた			実技	20	
4	5/12	クローク ～フィードバック～				□クロークの実技テストの評価を理解した					
5	5/19	振替休日 (5/15)									
6	5/26	中間テスト レストランスタッフ				□中間テストで実力を発揮した □アテンドができる			筆記	30	
7	6/2	振替休日 (5/29)									
8	6/9	レストランスタッフ				□オーダーテイクができる					
9	6/16	レストランスタッフ ～練習～				□レストランスタッフの実技を積極的に練習した					
10	6/23	振替休日 (6/19)									
11	6/30	レストランスタッフ ～実技テスト～				□レストランスタッフの実技テストを乗り越えた			実技	20	
12	7/7	期末テスト				□期末テストで実力を発揮した			筆記	30	
13	7/14	フィードバック				□前期の評価を理解した					
14	9/8	特別授業				特別授業					
15	9/15	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> • 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 • 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイトから追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで） • 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です • 試験期間は年間スケジュールに記載 • 追試対象者に学校からの連絡はありません • 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト			<ul style="list-style-type: none"> • オリジナル資料（ロイロノートにて送付） • DMM英会話（オンライン英会話） 		
											A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	ホテル科			コース	ホテルコース		
クラス			C	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				ホテル業界研究				講師名	居石 知佳		
担当講師の実務経験		○		実務経歴		福岡や京都などのホテルや旅館で勤務。レストラン、ウエディングプランナー、ヘル業務などに従事。マレーシアのレストラン勤務の経験もあり、リゾートからシティホテルまで経験。					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
ホテル業界への就職対策として、業界の現状を理解するとともに、ホテル見学のための調査をする。実際のホテル見学や講義を通して、各ホテルの雰囲気や客層の違いを理解し、自分にとって働き甲斐のある企業を見つけるための知識を身につける。						授業形式：講義および実技等 ホテルのブランドや特徴などを講義で身につける。 ホテル見学のためのホテル調査のやり方をグループワークを通して知る。					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標		確認テスト			
							形式	点数			
1	4/14	オリエンテーション ホテル業界について				□授業の意義目的、評価や授業計画書を理解した □ホテル業界の現状					
2	4/21	見学先ホテル調査①②				□見学予定のホテルを調査できた（2回分）					
3	4/28	ホテルブランド①				□ホテル御三家の知識が身についた					
4	5/12	ホテルブランド②				□外資系「 」の知識が身についた					
5	5/19	振替休日（5/15）									
6	5/26	中間テスト				□中間テストで実力を発揮した		筆記	50		
7	6/2	振替休日（5/29）									
8	6/9	ホテルブランド③				□他業種ホテルの知識が身についた □クラシックホテルの知識が身についた					
9	6/16	見学先ホテル調査③ ホテルブランド④				□見学予定のホテルを調査できた □星野リゾートの知識が身についた					
10	6/23	振替休日（6/19）									
11	6/30	ホテルブランド⑤				□フォーブス獲得ホテルの知識が身についた					
12	7/7	期末テスト				□期末テストで実力を発揮した		筆記	50		
13	7/14	フィードバック				□前期の評価を理解した					
14	9/8	特別授業				特別授業					
15	9/15	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価		使用教材			
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 （シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト		A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下		オリジナル資料	
											


授業計画書

学部	昼	年次	2	学科	ホテル科			コース	ホテルコース		
クラス			PA・PB	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			マナー・プロトコール					講師名	小永井 洋志		
担当講師の実務経験			○	実務経歴			帝国ホテル勤務34年目、海外を含む5つのホテルで宿泊・企画・営業・人材育成等、10以上の部署で実務経験あり。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
社会人として必要となるマナーやプロトコール（国際儀礼）に関わる知識を習得し、「マナー・プロトコール検定3級」の合格を目指します。 《授業の進捗状況により、内容を変更する可能性があります》						授業形式：講義および実技等 デジタルテキスト「マナー&プロトコールの基礎知識」をもとに内容理解を深めていきます。 確認テストは「マナー・プロトコール検定3級」の過去問題をベースとした内容で実施し、9月実施予定の検定に向けて対策をします。					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標		確認テスト			
								形式	点数		
1	4/14	・授業オリエンテーション ・マナーの歴史と意味				□授業の意義目的、マナー、エチケット、プロトコールの意味等を理解出来た					
2	4/21	・国際人としてのプロトコール				□プロトコールの原則、異文化コミュニケーション等を理解出来た					
3	4/28	・【確認テスト：第1-2週】 ・第1-2週の復習				□確認テストと復習を通じて、第1-2週内容の理解を深められた		筆記	20		
4	5/12	・社会人に必要なマナー①				□礼装、贈答、手紙のマナー等を理解出来た					
5	5/19	・社会人に必要なマナー② ・ビジネスシーンのマナー①				□ビジネスマナー、名刺交換、電話応対等を理解出来た					
6	5/26	・ビジネスシーンのマナー② (中間テスト週)				□トラブル対応、来客対応、ビジネス文書等を理解出来た					
7	6/2	・【中間テスト：第4-6週】 ・第4-6週の復習				□中間テストと復習を通じて、第4-6週内容の理解を深められた		筆記	30		
8	6/9	・食事のマナー (※お酒のマナーは検定範囲外)				□和食、西洋料理、各国料理のマナー等を理解出来た					
9	6/16	・【確認テスト：第8週】 ・第8週の復習				□確認テストと復習を通じて、第8週内容の理解を深められた		筆記	20		
10	6/23	・「冠」のしきたり ・「婚」のしきたり				□日本の通過儀礼、結婚式のマナー等について理解出来た					
11	6/30	・「葬」のしきたり ・「祭」のしきたり				□葬儀の種類、マナー、日本の年中行事等について理解出来た					
12	7/7	・【期末テスト：第10-11週】 ・第10-11週の復習				□期末テストと復習を通じて、第10-11週内容の理解を深められた		筆記	30		
13	7/14	・前期成績フィードバック ・総復習				□フィードバックと総復習を通じて自らの弱点を知り、検定対策出来た					
14	9/8	特別授業				特別授業					
15	9/15	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価		使用教材			
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（右記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト		オリジナル			
											A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下


授業計画書

学部	屋	年次	1	学科	ホテル科			コース	ホテルコース		
クラス			CH	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			レストランオペレーション					講師名	塩塚 智彦		
担当講師の実務経験			○			実務経歴	ホテル（シティ・アーバン）にて料飲・宴会・婚礼・営業部門でキャリアを積み、その経験を踏まえホテル事業について指導している。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
料飲・宴会部門でのサービススキルを身につける。 企業実習に向けて、実践スタイルでの習得を目指す。						授業形式：講義および実技等 基礎からしっかり、ポイント指導・練習 グループに分かれて、実践練習 学内テストは動画にて提出					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/18	オリエンテーション 料飲・宴会部門仕事内容説明	授業計画表・評価方法（撮影）								
2	4/25	料飲・宴会部門で使用する銀器・陶磁器・グラスの種類解説	使用方法・SETを習得する ステム付グラスの運搬方法								
3	5/9	トレイ・グラス・プレート・卓上SET	取扱い習得 各グループローテーションにて練習								
4	5/16	トレイ・グラス・プレート・卓上SET	取扱い習得 各グループローテーションにて練習								
5	5/23	中間テスト	内容後日	実技	40						
6	5/30	（中間テスト）フィードバック	内容後日	（実技）							
7	6/6	ボトルSV・サーバーの取扱い	ピッチャー・各種ポット、ボトルパン、フラッターSV・チューリン								
8	6/13	ボトルSV・サーバーの取扱い	ピッチャー・各種ポット、ボトルパン、フラッターSV・チューリン								
9	6/20	料理提供・下げの応用	レストランバージョン 宴会バージョン								
10	6/27	料理提供・下げの応用	レストランバージョン 宴会バージョン								
11	7/4	期末テスト	内容後日	実技	60						
12	7/11	（期末テスト）フィードバック	内容後日	（実技）							
13	7/18	総復習 ※シャンパン・ワイン抜栓方法	企業実習前の心構え								
14	9/5	特別授業	特別授業								
15	9/12	特別授業	特別授業								
追試詳細			達成度評価	使用教材							
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 （シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 			申請サイト	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下	ロイロノート						


授業計画書

学部	屋	年次	1	学科	ホテル科		コース	ホテルコース		
クラス			CH	時間数	30	単位数	2	区分	専門 必修	
科目名			ホテル料飲知識				講師名	杉本 裕		
担当講師の実務経験			○	実務経歴		ホテルオークラエンタープライズ25年 藤田観光5年				
授業のねらい・学期の達成目標					授業概要と進め方					
HRSのレストランサービス技能検定3級 学科試験に合格できる料飲知識を身につける。					授業形式：講義および実技等					
					テキスト解説とフィードバックを重ねることで 学科試験に出題傾向の高いキーワードを覚える。					
実施回数	実施日	学習内容			各回の到達目標		確認テスト			
							形式	点数		
1	4/18	オリエンテーション 授業の意義目的、授業計画、評価方法、			授業の意義目的をしっかりと理解し、授業の 取り組み方への意識を持つ。					
2	4/25	第1節 西洋料理に使用される主な食材 (P1~P11)			健康な体づくりに必要な食品知識を学び覚 える。					
3	5/9	第2節 西洋料理に使用される主な食材 (P12~P24)			西洋料理に使用される食材知識を学び覚え る。					
4	5/16	第3節 西洋料理に使用される主な食材 一般的な西洋料理調理法 (P25~P33)			西洋料理の各種 調理法を学び 理解する。					
5	5/23	中間テスト			これまでの食品、食材、調理法 から40問出題		筆記	40点		
6	5/30	第4節 飲料の種類および特徴 (P34~P54)			お酒の造り方を学ぶ。 ワインの種類と造り方の違いを 理解する。					
7	6/6	第4節 飲料の種類および特徴 (P55~P66)			ワイン以外のお酒とコーヒー、 紅茶、水、飲料全般の知識を学び覚える。					
8	6/13	第5節 メニュー 第2章 接客の基本 (P67~P93)			メニューの構成と料飲サービス の役割を理解する。					
9	6/20	第3章 宴会とレストランサービス (P95~P103)			宴会の種類と運営、サービスの 特徴を学び理解する。					
10	6/27	第3章 宴会とレストランサービス (P104~P111)			レストランの各種サービス方法と客席セッ ティングを学び理解する。					
11	7/4	期末テスト			飲料、宴会とレストランから 60問出題		筆記	60点		
12	7/11	第3章 宴会とレストランサービス (P112~P132)			お迎えからお見送りまでのテーブルサービ スを学び理解する。					
13	7/18	フィードバック			これまでの総復習と後期授業の概要説明					
14	9/5	特別授業			特別授業					
15	9/12	特別授業			特別授業					
追試詳細					達成度評価		使用教材			
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで 受付) ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ 連絡 すること 					申請サイト		A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下		西洋料理 料飲接客サービス技法	
										


授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	ホテル科			コース	ホテルコース		
クラス			CH	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			ホテル産業知識					講師名	塩塚 智彦		
担当講師の実務経歴			○	実務経歴	ホテル（シティ・アーバン）にて料飲・宴会・婚礼・営業部門でキャリアを積み、その経験を踏まえホテル事業について指導している。						
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
ホテル業界の基礎知識、並びに料飲・宴会・調理部門の基礎知識と業務内容を把握する（宿泊部門はフロント演習にて）。 11月22日（水）実施の【ホテルビジネス実務検定2級】合格を目指す。						授業形式：講義および実技等 講義を中心に、グループワークも行いながらホテル実務の理解度を高める。 H検定配点（基礎30問・英語20問・宿泊45問・料飲40問・宴会40問・調理25問 計200問）					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/13	オリエンテーション H検定意義・目的説明	授業計画表・評価方法説明 H検定実施要領説明								
2	4/20	ホテルの基礎①	世界の観光動向と宿泊産業を学ぶ 日本の観光動向と宿泊産業を学ぶ								
3	4/27	ホテルの基礎②	ホテルの定義・産業の分類・組織を学ぶ								
4	5/11	料飲部門①	料飲商品の特性を学ぶ 組織と業務役割を理解する								
5	5/18	料飲部門②	料飲部門の基礎知識								
6	5/25	料飲部門③ 中間テスト	中間テスト（基礎・料飲）	筆記	50						
7	6/1	宴会部門①	宴会商品の特性を学ぶ 組織と業務役割を理解する								
8	6/8	宴会部門②	宴会部門の基礎知識								
9	6/15	宴会部門③	宴会部門の基礎知識								
10	6/22	調理部門①	調理部門の基礎知識								
11	6/29	調理部門②	調理部門の基礎知識								
12	7/6	総復習 期末テスト	期末テスト（宴会・調理）	筆記	50						
13	7/13	総復習 フィードバック	グループワーク								
14	9/7	特別授業	特別授業								
15	9/14	特別授業	特別授業								
追試詳細				達成度評価	使用教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 （シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 				申請サイト	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下	ホテルビジネス（基礎編） ロイロノート					
											

授業計画書

学部	層	年次	1	学科	ホテル科		コース	クルーズコース		
クラス			C	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名				HOTEL ENGLISH			講師名	居石 知佳		
担当講師の実務経歴		○		実務経歴		福岡や京都などのホテルや旅館で勤務。レストラン、ウエディングプランナー、ベル業務などに従事。マレーシアのレストラン勤務の経験もあり、リゾートからシティホテルまで経験。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
ホテル内における接客接遇に相応した英会話フレーズを理解し、現場で対応できる力を身につける。オンライン英会話ではさらに日常英会話力を身につけ、英語への苦手意識を克服しましょう。						授業形式：講義および実技等 ホテル業界で使用する英単語・英語フレーズを学ぶ。 講義→演習の流れを通して、頭でも体でも覚えて実践できるようにする。 毎授業25分間のオンライン英会話有り。				
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標		確認テスト		
							形式	点数		
1	4/14	オリエンテーションクローク				□授業の意義目的、評価や授業計画書を理解した □荷物のお預かりができる				
2	4/21	クローク ～練習～ ※塩塚先生				□クロークの実技を積極的に練習した				
3	4/28	クローク ～実技テスト～				□クロークの実技テストを乗り越えた		実技	20	
4	5/12	クローク ～フィードバック～				□クロークの実技テストの評価を理解した				
5	5/19	振替休日 (5/15)								
6	5/26	中間テスト レストランスタッフ				□中間テストで実力を発揮した □アテンドができる		筆記	30	
7	6/2	振替休日 (5/29)								
8	6/9	レストランスタッフ				□オーダーテイクができる				
9	6/16	レストランスタッフ ～練習～				□レストランスタッフの実技を積極的に練習した				
10	6/23	振替休日 (6/19)								
11	6/30	レストランスタッフ ～実技テスト～				□レストランスタッフの実技テストを乗り越えた		実技	20	
12	7/7	期末テスト				□期末テストで実力を発揮した		筆記	30	
13	7/14	フィードバック				□前期の評価を理解した				
14	9/8	特別授業				特別授業				
15	9/15	特別授業				特別授業				
追試詳細						達成度評価		使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> • 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 • 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイトから追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで） • 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です • 試験期間は年間スケジュールに記載 • 追試対象者に学校からの連絡はありません • 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト		A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下		
										<ul style="list-style-type: none"> • オリジナル資料（ロイロノートにて送付） • DMM英会話（オンライン英会話）

授 業 計 画 書

学部	屋	年次	1	学科	ホテル科			コース	クルーズコース	
クラス			C	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名					ホテル業界研究			講師名	居石 知佳	
担当講師の実務経験			○	実務経歴			福岡や京都などのホテルや旅館で勤務。レストラン、ウエディングプランナー、ベル業務などに従事。マレーシアのレストラン勤務の経験もあり、リゾートからシティホテルまで経験。			
授業のねらい・学期の達成目標							授業概要と進め方			
ホテル業界への就職対策として、業界の現状を理解するとともに、ホテル見学のための調査をする。実際のホテル見学や講義を通して、各ホテルの雰囲気や客層の違いを理解し、自分にとって働き甲斐のある企業を見つけるための知識を身につける。							授業形式：講義および実技等 ホテルのブランドや特徴などを講義で身につける。 ホテル見学のためのホテル調査のやり方をグループワークを通して知る。			
実施回数	実施日	学習内容			各回の到達目標			確認テスト		
								形式	点数	
1	4/14	オリエンテーション ホテル業界について			□授業の意義目的、評価や授業計画書を理解した □ホテル業界の現状					
2	4/21	見学先ホテル調査①②			□見学予定のホテルを調査できた（2回分）					
3	4/28	ホテルブランド①			□ホテル御三家の知識が身についた					
4	5/12	ホテルブランド②			□外資系「 」の知識が身についた					
5	5/19	振替休日（5/15）								
6	5/26	中間テスト			□中間テストで実力を発揮した			筆記	50	
7	6/2	振替休日（5/29）								
8	6/9	ホテルブランド③			□他業種ホテルの知識が身についた □クラシックホテルの知識が身についた					
9	6/16	見学先ホテル調査③ ホテルブランド④			□見学予定のホテルを調査できた □星野リゾートの知識が身についた					
10	6/23	振替休日（6/19）								
11	6/30	ホテルブランド⑤			□フォーブス獲得ホテルの知識が身についた					
12	7/7	期末テスト			□期末テストで実力を発揮した			筆記	50	
13	7/14	フィードバック			□前期の評価を理解した					
14	9/8	特別授業			特別授業					
15	9/15	特別授業			特別授業					
追試詳細					達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・ 申請用サイトから事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 					申請サイト		A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下		オリジナル資料	
										

授 業 計 画 書

学部	屋	年次	2	学科	ホテル科			コース	クルーズコース	
クラス		PA・PB	時間数	30	単位数	2		区分	専門	必修
科目名		マナー・プロトコール						講師名	小永井 洋志	
担当講師の実務経歴		○	実務経歴		帝国ホテル勤務34年目、海外を含む5つのホテルで宿泊・企画・営業・人材育成等、10以上の部署で実務経験あり。					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
社会人として必要となるマナーやプロトコール（国際儀礼）に関する知識を習得し、「マナー・プロトコール検定3級」の合格を目指します。 《授業の進捗状況により、内容を変更する可能性があります》						授業形式：講義および実技等 デジタルテキスト「マナー&プロトコールの基礎知識」をもとに内容理解を深めていきます。 確認テストは「マナー・プロトコール検定3級」の過去問題をベースとした内容で実施し、9月実施予定の検定に向けて対策をします。				
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト						
				形式	点数					
1	4/14	・授業オリエンテーション ・マナーの歴史と意味	□授業の意義目的、マナー、エチケット、プロトコールの意味等を理解出来た							
2	4/21	・国際人としてのプロトコール	□プロトコールの原則、異文化コミュニケーション等を理解出来た							
3	4/28	・【確認テスト：第1-2週】 ・第1-2週の復習	□確認テストと復習を通じて、第1-2週内容の理解を深められた	筆記	20					
4	5/12	・社会人に必要なマナー①	□礼装、贈答、手紙のマナー等を理解出来た							
5	5/19	・社会人に必要なマナー② ・ビジネスシーンのマナー①	□ビジネスマナー、名刺交換、電話応対等を理解出来た							
6	5/26	・ビジネスシーンのマナー② (中間テスト週)	□トラブル対応、来客応対、ビジネス文書等を理解出来た							
7	6/2	・【中間テスト：第4-6週】 ・第4-6週の復習	□中間テストと復習を通じて、第4-6週内容の理解を深められた	筆記	30					
8	6/9	・食事のマナー (※お酒のマナーは検定範囲外)	□和食、西洋料理、各国料理のマナー等を理解出来た							
9	6/16	・【確認テスト：第8週】 ・第8週の復習	□確認テストと復習を通じて、第8週内容の理解を深められた	筆記	20					
10	6/23	・「冠」のしきたり ・「婚」のしきたり	□日本の通過儀礼、結婚式のマナー等について理解出来た							
11	6/30	・「葬」のしきたり ・「祭」のしきたり	□葬儀の種類、マナー、日本の年中行事等について理解出来た							
12	7/7	・【期末テスト：第10-11週】 ・第10-11週の復習	□期末テストと復習を通じて、第10-11週内容の理解を深められた	筆記	30					
13	7/14	・前期成績フィードバック ・総復習	□フィードバックと総復習を通じて自らの弱点を知り、検定対策出来た							
14	9/8	特別授業	特別授業							
15	9/15	特別授業	特別授業							
追試詳細				達成度評価		使用教材				
・公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（右記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること				申請サイト		オリジナル				
										
				A 80点以上						
				B 70点以上						
				C 60点以上						
				D 59点以下						

授業計画書

学部	屋	年次	1	学科	ホテル科			コース	クルーズコース									
クラス			CR1	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修								
科目名			クルーズ基礎知識					講師名	佐渡村 春香									
担当講師の実務経験		○			実務経歴	クルーズ客船において5年間の乗船経験を持つ。エンターテインメント部門として、船内イベントの企画・進行・司会業務などを主に担当。												
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方												
①クルーズスタッフの職種や専門用語などをしっかりと理解し、クルーズの基礎知識習得を目指す ②クルーズ船で働く仕事の楽しさや厳しさに触れ、業界への視野を広げる 《授業の進捗状況により、内容を変更する可能性があります》						授業形式：講義および実技等 クルーズ業界と職種について、お客様目線とスタッフ目線から座学形式で学ぶ												
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト														
				形式	点数													
1	4/18	オリエンテーション クルーズ客船とは	授業の意義目的、シラバス、評価方法、追試説明															
2	4/25	クルーズの歴史 クルーズ専門用語	歴史を知り、基本的なクルーズの定義を説明できる、専門用語を正しく理解できる															
3	5/9	クルーズのセールスポイントと魅力	船旅特有のセールスポイントを挙げる事が出来る															
4	5/16	クルーズ商品	パンフレットの見方を知り、どのような商品があるのかを知る															
5	5/23	中間テスト	ここまでの知識習得度を評価する	筆記	40													
6	5/30	クルーズ客船のスタッフと任務①	クルーの役職や職務、労働環境について知る															
7	6/6	クルーズ客船のスタッフと任務②	業務乗船スタッフの役職や職務、労働環境について知る															
8	6/13	船内新聞の見方	船内新聞の見方を知り、お客様に説明できる															
9	6/20	船内イベントについて①	船内で企画・開催されているイベントを知る															
10	6/27	船内イベントについて②	船内で企画・開催されているイベントを考察し企画力の向上を目指す															
11	7/4	期末テスト	前期の知識習得度を評価する	筆記	60													
12	7/11	フィードバック 総復習	成績のフィードバック 前期学習のフィードバック															
13	7/18	クルーズ海上スタッフと陸上スタッフ	求められている能力や適性を知る															
14	9/5	特別授業	特別授業															
15	9/12	特別授業	特別授業															
追試詳細			達成度評価	使用教材														
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 			申請サイト	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px;">A</td> <td style="width: 20px;">80</td> <td>点以上</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>70</td> <td>点以上</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60</td> <td>点以上</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>59</td> <td>点以下</td> </tr> </table>			A	80	点以上	B	70	点以上	C	60	点以上	D	59	点以下
			A				80	点以上										
B	70	点以上																
C	60	点以上																
D	59	点以下																
																		

授 業 計 画 書

学部	屋	年次	1	学科	ホテル科			コース	クルーズコース		
クラス			CR1	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			クルーズ接客演習					講師名	佐渡村 春香		
担当講師の実務経験			○	実務経歴			クルーズ客船において5年間の乗船経験を持つ。エンターテイメント部門として、船内イベントの企画・進行・司会業務などを主に担当。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
①接客のプロとして恥ずかしくない立ち居振る舞いを身に着け、基本的な業務内容を理解する。 ②現場での基本業務の即戦力を目標とする。 《授業の進捗状況により、内容を変更する可能性があります》						授業形式：講義および実技等 接客対応の様々な場面を想定して、演習形式をメインで行う。					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト		
								形式	点数		
1	4/18	オリエンテーション「身だしなみ」、「立ち居振る舞い」について				授業の意義目的、シラバス、評価方法、追試説明、接客の基本					
2	4/25	コミュニケーション力強化 褒める力				語彙力を増やし、積極的に話しを広げることが出来る					
3	5/9	クルーズセールストーク①				お客様にクルーズの魅力をお伝えできる					
4	5/16	クルーズセールストーク②				お客様に適切なクルーズ商品をお勧めし、適切な日本語と立ち振る舞いで接客が出来る					
5	5/23	中間テスト						実技	40		
6	5/30	コミュニケーション力強化 質問力				相手に積極的に質問をし、話しを広げることが出来る					
7	6/6	船内案内業務①				移動を伴いながら対面でご案内が出来る					
8	6/13	船内案内業務②				船内新聞を用いながら船内での過ごし方をご案内出来る					
9	6/20	船内イベント運営①				船内イベントの実践を通して準備～進行が出来る					
10	6/27	船内イベント運営②				船内イベントの実践を通して幅広い年代のお客様を楽しませる工夫が出来る					
11	7/4	期末テスト				イベント企画・進行			実技	60	
12	7/11	フィードバック 総復習				成績のフィードバック 前期学習のフィードバック					
13	7/18	クレームとその対応				お客様からのクレーム事例を中心に学び、その対応が適切にできる					
14	9/5	特別授業				特別授業					
15	9/12	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト					
									A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下		

授業計画書

学部	屋	年次	2	学科	ホテル科			コース	クルーズコース		
クラス			CR2	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			クルーズ寄港地地理					講師名	久保田 紘太郎		
担当講師の実務経験			○	実務経歴		旅行会社にて国内・海外・クルーズ等の販売に従事 総合旅行業務取扱管理者、クルーズ・コンサルタント					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
欧州から学習をスタートし、アジア・オセアニア・中東などを学習します。主要港とそこからの観光地について、お客様に説明ができることを目指します。						授業形式：講義および実技等 日本および世界の観光地の基本について学びます。主要な航路や港を中心に学ぶほか、観光業界での常識になる程度の観光地理についても学習をします。					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/18	1年次の復習	1年次の復習	講義							
2	4/25	欧州の港①	ヨーロッパの港について学習	講義							
3	5/9	欧州の港②	ヨーロッパの港について学習	講義							
4	5/16	欧州の港③	ヨーロッパの港について学習	講義							
5	5/23	中間試験 アジアの港①	中間試験 アジアの港について学習	講義	40						
6	5/30	アジアの港②	アジアの港について学習	講義							
7	6/6	アジアの港③	アジアの港について学習	講義							
8	6/13	アジアの港④	アジアの港について学習	講義							
9	6/20	アジアの港⑤	アジアの港について学習	講義							
10	6/27	オセアニア・南太平洋の港①	オセアニア・南太平洋の港について学習	講義							
11	7/4	期末試験	期末試験	講義	60						
12	7/11	オセアニア・南太平洋の港②	オセアニア・南太平洋の港について学習	講義							
13	7/18	ハワイ	ハワイの港について学習	講義							
14	9/5	特別授業	特別授業								
15	9/12	特別授業	特別授業								
追試詳細			達成度評価		使用教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 			申請サイト	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下							
											

授 業 計 画 書

学部	昼	年次	1	学科	テーマパーク科		コース			
クラス			DA/DB	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			ゲストオペレーション(基礎)				講師名	坂中 瑞穂		
担当講師の実務経歴		○			実務経歴	東京校テーマパーク科卒業生。テーマパーク業界でアトラクションスタッフとして勤務経験あり。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
テーマパークスタッフの職責を理解し、様々なゲストに対応できる力を身につける。						授業形式：講義および実技等 テーマパークスタッフとして、また接客する上での基礎知識を身につけ、日頃から実践できるように目指す。				
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト						
				形式	点数					
1	4/14	授業計画書、テスト説明 目指すテーマパークスタッフ像(15点)	【課題提出】目標設定シート <input type="checkbox"/> 理想のスタッフ像を考え、目標を設定する	課題	15					
2	4/21	テーマパークスタッフの職種、職責	<input type="checkbox"/> テーマパークスタッフの職種、職責を理解する							
3	4/28	ゲスト対応の基礎① 道案内・言葉遣いの基本	<input type="checkbox"/> テーマパークスタッフとして正しい言葉遣いを習得する	実技	20					
4	5/12	ゲスト対応の基礎② 道案内・言葉遣いの基本	<input type="checkbox"/> 道案内のプロセスを習得できる							
5	5/19	職種別OJT① テーマパーク用語、アトラクション	<input type="checkbox"/> テーマパーク用語を覚える <input type="checkbox"/> アトラクションの業務を理解する							
6	5/26	職種別OJT② パークエントランス、インフォメーション	<input type="checkbox"/> パークエントランス、インフォメーションの業務を理解する							
7	6/2	職種別OJT③ マーチャンダイズ、フードサービス	<input type="checkbox"/> マーチャンダイズ、フードサービスの役割を業務する							
8	6/9	職種別OJT④ パーククリーン、ゲストコントロール	<input type="checkbox"/> パーククリーン、ゲストコントロールの役割を業務する							
9	6/16	中間テスト	テスト範囲：3～8コマ	筆記	30					
10	6/23	ゲスト対応の基礎③ 基本的なレギュラー対応 スピール練習①	<input type="checkbox"/> テーマパークでよく起きる対応事例をもとに、対応方法を身につける							
11	6/30	ゲスト対応の基礎④ 基本的なイレギュラー対応 スピール練習②	<input type="checkbox"/> テーマパークで稀に起きる対応事例をもとに、対応方法を身につける							
12	7/7	期末テスト(スピール発表)		実技	20					
13	7/14	フィードバック 夏季実習に向けての目標設定(15点)	【課題提出】目標設定シート <input type="checkbox"/> 夏季実習に向けて目標を設定する	課題	15					
14	9/8	特別授業	特別授業							
15	9/15	特別授業	特別授業							
追試詳細			達成度評価	使用教材						
【公欠の場合】 実技テストを含むため、授業内で完結します。 担当講師へ申し出てください。			申請サイト							
			<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> X </div>	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下						

授 業 計 画 書

学部	昼	年次	1	学科	テーマパーク科			コース			
クラス			DA/DB	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				TDR/USJ研究				講師名	藤原 梨紗		
担当講師の実務経験		○				実務経歴	国内外複数のテーマパークでのアトラクションスタッフ、ショー運営、コンシェルジュなどの実務経験の他、新人教育、現場管理、新規部署立ち上げなどを担当。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
2大テーマパークを中心にテーマパークの定義や歴史・テーマパークスタッフの役割を学び、業界人としての基礎知識を身に付ける。 施設による接客の違いを知り、ポートフォリオを使用して働くスタッフを研究・調査し、課題解決型授業を実施する。						授業形式：講義および実技等 テーマパークの定義や歴史、東京ディズニーリゾート、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンのスタッフの行動指針を学ぶ。 施設見学ポートフォリオを使った事前学習、事後学習を中心に座学と実技で自身の対応の幅を広げていく。					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト		
								形式	点数		
1	4/18	□アイスブレイク □ホスピタリティ研修ポートフォリオチェック				□授業の目的を理解する □ホスピ研のポートフォリオを基に、スタッフの対応方法を知る					
2	4/25	□東京ディズニーリゾート、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンのスタッフの行動指針について				□東京ディズニーリゾート、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンのスタッフの行動指針が何かを説明出来る					
3	5/9	□スタッフの行動指針S(安全)				□KYTが何か説明出来る。KYTを実践出来る □テーマパークでなぜ安全が最優先される					
4	5/16	□スタッフの行動指針C(礼儀正しさ)				□挨拶の役割を説明出来る □クッション言葉を使用したお客様へのお願い事が出来る					
5	5/23	中間テスト 【筆記テスト30点】							筆記	30	
6	5/30	□スタッフの行動指針(包括) □テーマパークの定義と歴史				□テーマパークで発生するの多様性の課題について説明できる □テーマパークの定義と歴史を説明できる					
7	6/6	業界人講話 【レポート提出10点】							レポート	10	
8	6/13	□課外活動事前学習				□課外活動の際の行動スケジュールを作成する					
9	6/20	課外活動				東京ディズニーリゾート見学					
10	6/27	課外活動プレゼンテーション作成 【レポート提出10点】				□課外活動の内容をまとめたプレゼンテーションを完成させる □施設見学ポートフォリオを提出する			レポート	10	
11	7/4	□期末テスト【筆記30点】 □期末テスト【実技20点】							筆記 実技	30 20	
12	7/11	業界人講話				マーケター講座					
13	7/18	フィードバック									
14	9/5	特別授業				特別授業					
15	9/12	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（右記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト			<input type="checkbox"/> イロブドスクール		
											A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	テーマパーク科			コース			
クラス			DA/DB	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			ゲスト安全対応力					講師名	森 航平		
担当講師の実務経験			○			実務経歴	テーマパーク業界で複数職種の実務経験の他、新人教育、や全体導入研修のインストラクターなどを担当。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
実習に向けて、テーマパークにおける安全に対する知識、声掛けなど基礎を身につける。						授業形式：講義および実技等					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/13	授業概要説明 テーマパークにおける安全について	<input type="checkbox"/> システムや情報の管理について理解する <input type="checkbox"/> モラル/マナーについて理解する								
2	4/20	KYT（知識）	<input type="checkbox"/> 日常における身の回りの危険を発見する								
3	4/27	KYT（応用）	<input type="checkbox"/> 学内、家庭、通学路における危険を探し、チームで発表する								
4	5/11	スクリーニング（知識）	<input type="checkbox"/> アトラクションにおける利用規定の説明が出来る								
5	5/18	スクリーニング（応用）	<input type="checkbox"/> ワイドスピールを考える <input type="checkbox"/> ゲストへの声掛け方法を実践する								
6	5/25	中間テスト	テスト範囲：1～5コマ	筆記	40						
7	6/1	コロナ禍におけるテーマパークの変化	<input type="checkbox"/> コロナ禍における対応の変化を調べる <input type="checkbox"/> ゲストへのお願いの仕方を実践する								
8	6/8	first aid初期対応(知識)	<input type="checkbox"/> 傷病者対応(熱中症、嘔吐、切り傷、鼻血、アレルギーなど)を理解する								
9	6/15	first aid初期対応(知識、応用)	<input type="checkbox"/> 傷病者対応が実践できる知識を身につける <input type="checkbox"/> AED使用方法、心肺蘇生について理解する								
10	6/22	エバキューエーションの初期対応	<input type="checkbox"/> エバキューエーションの流れを知る <input type="checkbox"/> エバキューエーション時の声掛けを実践する								
11	6/29	火災、地震の初期対応	<input type="checkbox"/> 火災、地震が起きた時の声掛けを実践する								
12	7/6	期末テスト	テスト範囲：1～11コマ	筆記	60						
13	7/13	フィードバック									
14	9/7	特別授業	特別授業								
15	9/14	特別授業	特別授業								
追試詳細			達成度評価	使用教材							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（右記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 			申請サイト	オリジナル							
							A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下				

授業計画書

学部	屋	年次	1	学科	テーマパーク科			コース			
クラス			DA	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			オーナーシップトレーニング					講師名	森 航平		
担当講師の実務経験		○			実務経歴	テーマパーク業界で複数職種の実務経験の他、新人教育、や全体導入研修のインストラクターなどを担当。					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
<p>テーマパークで働く上で必要な主体性を養う。与えられた課題に対して、当事者意識を高く持ちながら自発的に行動し、どんな環境でもオーナーシップを発揮できるような人材を目指す。</p>						<p>グループワーク・実技を中心に授業を進める。日報の提出によって日々の振り返りを実施し学びを習熟させる。</p>					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標		確認テスト			
							形式	点数			
1	4/17	授業概要説明・オリエンテーション				□授業概要を理解する					
2	4/24	オーナーシップとは				□オーナーシップとは何か説明できる		課題	5		
3	5/8	私に出来るオーナーシップ				□オーナーシップについて理解を深める		課題	5		
4	5/15	クラスオリエンテーション企画				□クラスオリエンテーションをチームメンバーが個々の力を発揮しながら企画・準備する		課題	5		
5	5/22	クラスオリエンテーション準備				□クラスオリエンテーションをチームメンバーが個々の力を発揮しながら企画・準備する		課題	5		
6	5/29	クラスオリエンテーション実施				□各チームが企画したオリエンテーションを実施する		実技・課題	20		
7	6/5	留学生オリエンテーションチーム企画				□留学生オリエンテーションをチームメンバーが個々の力を発揮しながら企画・準備する		課題	5		
8	6/12	留学生オリエンテーションチーム企画・クラス投票				□留学生オリエンテーションをチームメンバーが個々の力を発揮しながら企画・準備する		実技・課題	15		
9	6/19	留学生オリエンテーション準備				□留学生オリエンテーションをチームメンバーが個々の力を発揮しながら企画・準備する		課題	5		
10	6/26	留学生オリエンテーション最終準備				□留学生オリエンテーションをチームメンバーが個々の力を発揮しながら完成させる		課題	25		
11	7/3	振り返り				□実施した内容を振り返り、次週以降に繋がる気づき発見をする		課題	5		
12	7/10	まとめ						課題	5		
13	9/4	特別授業				特別授業					
14	9/11	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価		使用教材			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（右記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト					
								A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下			


授業計画書

学部	屋	年次	2	学科	テーマパーク科			コース			
クラス		QA/QB	時間数	30	単位数	2		区分	専門	必修	
科目名		ワークアウト&ダンス						講師名	藤井 歩美		
担当講師の実務経歴		○			実務経歴	サンリオピューロランドのMCダンサー・千葉ロッテマリーンズのチアパフォーマー、その他キャラクターパークのショーに出演。東映太秦映画村・東武ワールドスクウェアなどでのショー・ヘネッセ英語コンサートの振付やダンスインストラクターとして活動。					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
柔軟・筋トレ・姿勢矯正・リズムトレーニングを通して基礎体力を向上させる。様々な音楽やリズムに触れ、パフォーマンスや表現力の幅を広げていけるようにする。						授業形式：講義および実技等 様々なジャンルのダンスやストレッチ、筋力・体幹トレーニングを通じ、テーマパークで働く上での体力を身につける					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/18	オリエンテーション ストレッチ・基礎体力づくりについて	□授業の意義目的を理解する。 □ストレッチ・基礎体力づくりの意義目的・効果を理解する。								
2	4/25	ストレッチ・筋トレ・ダンス基礎・振付A-1	□身体の動かし方を理解し取り組んでいる □振付A-1を覚えている。								
3	5/9	ストレッチ・筋トレ・ダンス基礎・振付A-2	□柔軟性の向上を意識し、ストレッチに取り組んでいる。 □振付A-2を覚えている。								
4	5/16	ストレッチ・筋トレ・ダンス基礎・振付課題練習	□身体の使い方を意識し、アイソレーションに取り組んでいる。 □課題を鏡なして踊ることができる。								
5	5/23	中間テスト	テスト範囲：2~4コマ	実技	40						
6	5/30	ストレッチ・筋トレ・ダンス基礎・振付B-1	□身体の動かし方を理解し、ステップ習得に取り組んでいる。 □振付B-1を覚えている。								
7	6/6	ストレッチ・筋トレ・ダンス基礎・振付B-2	□習得したステップをリズムに合わせて踊ることができた。 □振付B-2を覚えている。								
8	6/13	ストレッチ・筋トレ・ダンス基礎・振付B-3	□ステップを前回よりもスムーズに踊ることができた。 □振付B-3を覚えている。								
9	6/20	ストレッチ・筋トレ・ダンス基礎・オリジナル振付作成	□習得したステップを、見せ方も意識して踊ることができた。 □チームで協力して振付作成ができた。								
10	6/27	ストレッチ・筋トレ・ダンス基礎・振付課題練習	□テストに向けて個人・チームとして練習に取り組めた。 □課題を鏡なして踊ることができる。								
11	7/4	期末テスト	テスト範囲：6~10コマ	実技	60						
12	7/11	フィードバック	□他人の長所を見つけることができた。 □自身の基礎体力と表現力の向上において、今後の課題を見つけることができた。								
13	7/18	ワークショップ	□ダンス作品に触れ、楽しむことができた。								
14	9/5	特別授業	特別授業								
15	9/12	特別授業	特別授業								
追試詳細			達成度評価	使用教材							
【公欠の場合】 実技テストを含むため、授業内で完結します。 担当講師へ申し出てください。			申請サイト								
			X								
			A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下								

授業計画書

学部	屋	年次	1	学科	テーマパーク科			コース			
クラス			DA/DB	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			パフォーマンストレーニング					講師名	照井 寛		
担当講師の実務経験			○	実務 経歴	クラウン（ピエロ）として現場でのパフォーマンス経験があり、その経験に基づき表現力・即興力・技術力を指導している。						
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
<p>普段触れる機会が無い道具やバルーンを使い、実技演習を中心に新しい切り口から表現力を身に付ける。さらにジャグリングを通して全く新しい事にチャレンジし、可能性を切り拓く。</p>						<p>授業形式：講義および実技等 サービス業に従事する者にとって、必要不可欠なエンターテインメント精神を様々な角度から研究・分析し、幅広い表現や自由な発想・想像力を養う。</p>					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/12	オリエンテーション コミュニケーション	<input type="checkbox"/> 授業の目的・目標を理解する事が出来る。 <input type="checkbox"/> パフォーマンスの楽しさを感じ取る								
2	4/19	バルーン（1）	<input type="checkbox"/> 様々な種類のバルーンに触れる。 <input type="checkbox"/> 基本の犬を作る事が出来る。								
3	4/26	ノンバーバルトレーニング ジャグリング	<input type="checkbox"/> 非言語コミュニケーションが取れる。 <input type="checkbox"/> 1つのボールを左右交互にキャッチ出来る。								
4	5/10	バルーン（2）	<input type="checkbox"/> 1本のバルーンで作品を作ることが出来る。								
5	5/17	バンドマイム（壁・キャッチボール） ジャグリング	<input type="checkbox"/> バンドマイムの基本的な動きが出来る。 <input type="checkbox"/> 2つのボールを左右交互にキャッチ出来る。								
6	5/24	中間テスト バルーン（3）	テスト：バルーン <input type="checkbox"/> 1本のバルーンで作品を作ることが出来る。	実技	40						
7	5/31	フィードバック・ジャグリング ノンバーバルトレーニング	<input type="checkbox"/> 非言語コミュニケーションが取れる。 <input type="checkbox"/> 2つのボールを左右交互にキャッチ出来る。								
8	6/7	スポーツデー/バラスポーツデー									
9	6/14	バルーン（4）	<input type="checkbox"/> 1本のバルーンで作品を作ることが出来る。								
10	6/21	ノンバーバルトレーニング ジャグリング	<input type="checkbox"/> 非言語コミュニケーションが取れる。 <input type="checkbox"/> 2つのボールを左右交互にキャッチ出来る。								
11	6/28	バルーン（5）	<input type="checkbox"/> 1本のバルーンで作品を作ることが出来る。								
12	7/5	期末テスト（ジャグリング）	テスト：ジャグリング	実技	60						
13	7/12	フィードバック・ジャグリング	<input type="checkbox"/> 2つのボールを左右交互にキャッチ出来る。								
14	7/19	様々なジャグリング（リング・皿回し）	<input type="checkbox"/> 様々なジャグリング道具に触れてみる								
15	9/6	特別授業	特別授業								
16	9/13	特別授業	特別授業								
追試詳細			達成度評価		使用教材						
【公欠の場合】 実技テストのため、授業内で完結します。 担当講師へ申し出てください。			申請サイト	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下	ジャグリングボール バルーン						

授業計画書

学部	屋	年次	1	学科	総合英語科			コース	クルーズコース	
クラス			CR1	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			クルーズ基礎知識				講師名	佐渡村 春香		
担当講師の実務経歴			○	実務経歴		クルーズ客船において5年間の乗船経験を持つ。エンターテイメント部門として、船内イベントの企画・進行・司会業務などを主に担当。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
①クルーズスタッフの職種や専門用語などをしっかりと理解し、クルーズの基礎知識習得を目指す ②クルーズ船で働く仕事の楽しさや厳しさに触れ、業界への視野を広げる 《授業の進捗状況により、内容を変更する可能性があります》						授業形式：講義および実技等 クルーズ業界と職種について、お客様目線とスタッフ目線から座学形式で学ぶ				
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標		確認テスト		
								形式	点数	
1	4/18	オリエンテーション クルーズ客船とは				授業の意義目的、シラバス、評価方法、追試説明				
2	4/25	クルーズの歴史 クルーズ専門用語				歴史を知り、基本的なクルーズの定義を説明できる、専門用語を正しく理解できる				
3	5/9	クルーズのセールスポイントと魅力				船旅特有のセールスポイントを挙げることが出来る				
4	5/16	クルーズ商品				パンフレットの見方を知り、どのような商品があるのかを知る				
5	5/23	中間テスト				ここまでの知識習得度を評価する		筆記	40	
6	5/30	クルーズ客船のスタッフと任務①				クルーの役職や職務、労働環境について知る				
7	6/6	クルーズ客船のスタッフと任務②				業務乗船スタッフの役職や職務、労働環境について知る				
8	6/13	船内新聞の見方				船内新聞の見方を知り、お客様に説明できる				
9	6/20	船内イベントについて①				船内で企画・開催されているイベントを知る				
10	6/27	船内イベントについて②				船内で企画・開催されているイベントを考案し企画力の向上を目指す				
11	7/4	期末テスト				前期の知識習得度を評価する		筆記	60	
12	7/11	フィードバック 総復習				成績のフィードバック 前期学習のフィードバック				
13	7/18	クルーズ海上スタッフと陸上スタッフ				求められている能力や適性を知る				
14	9/5	特別授業				特別授業				
15	9/12	特別授業				特別授業				
追試詳細						達成度評価		使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（右記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト				
								A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下		

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	総合英語科		コース	クルーズコース		
クラス			CR1	時間数	30	単位数	2	区分	専門 必修	
科目名			クルーズ接客演習				講師名	佐渡村 春香		
担当講師の実務経験		○		実務経歴	クルーズ客船において5年間の乗船経験を持つ。エンターテイメント部門として、船内イベントの企画・進行・司会業務などを主に担当。					
授業のねらい・学期の達成目標					授業概要と進め方					
①接客のプロとして恥ずかしくない立ち居振る舞いを身に付け、基本的な業務内容を理解する。 ②現場での基本業務の即戦力を目標とする。 《授業の進捗状況により、内容を変更する可能性があります》					授業形式：講義および実技等 接客対応の様々な場面を想定して、演習形式をメインで行う。					
実施回数	実施日	学習内容			各回の到達目標			確認テスト		
								形式	点数	
1	4/18	オリエンテーション「身だしなみ」、「立ち居振る舞い」について			授業の意義目的、シラバス、評価方法、追試説明、接客の基本					
2	4/25	コミュニケーション力強化 褒める力			語彙力を増やし、積極的に話しをを広げることが出来る					
3	5/9	クルーズセールストーク①			お客様にクルーズの魅力をお伝えできる					
4	5/16	クルーズセールストーク②			お客様に適切なクルーズ商品をお勧めし、適切な日本語と立ち振る舞いで接客が出来る					
5	5/23	中間テスト						実技	40	
6	5/30	コミュニケーション力強化 質問力			相手に積極的に質問をし、話しを広げることが出来る					
7	6/6	船内案内業務①			移動を伴いながら対面でご案内が出来る					
8	6/13	船内案内業務②			船内新聞を用いながら船内での過ごし方をご案内出来る					
9	6/20	船内イベント運営①			船内イベントの実践を通して準備～進行が出来る					
10	6/27	船内イベント運営②			船内イベントの実践を通して幅広い年代のお客様を楽しませる工夫が出来る					
11	7/4	期末テスト			イベント企画・進行			実技	60	
12	7/11	フィードバック 総復習			成績のフィードバック 前期学習のフィードバック					
13	7/18	クレームとその対応			お客様からのクレーム事例を中心に学び、その対応が適切にできる					
14	9/5	特別授業			特別授業					
15	9/12	特別授業			特別授業					
追試詳細					達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（右記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 					申請サイト		A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下			
										

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	総合英語科			コース	クルーズコース		
クラス			CR1	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			クルーズ寄港地地理					講師名	久保田 紘太郎		
担当講師の実務経歴			○	実務経歴		旅行会社にて国内・海外・クルーズ等の販売に従事 総合旅行業務取扱管理者、クルーズ・コンサルタント					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
今期は日本国内の主要港を中心に、港からショア・エクスカージョンで訪れることの多い観光地や名物料理などについて理解を深め、お客様にお勧めができる知識をつけます。						授業形式：講義および実技等 クルーズ旅行時に訪れる日本および海外の主要港とそこから観光できる主要観光地について、エリアごとに学びます。					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト		
									形式	点数	
1	4/18	オリエンテーション 日本の都道府県				日本の都道府県の位置がわかる 主要港の位置と名称がわかる			講義		
2	4/25	沖縄地方の寄港地地理				沖縄地方の主要観光地について理解を深める			講義		
3	5/9	九州地方の寄港地地理				九州地方の主要観光地について理解を深める			講義		
4	5/16	九州地方の寄港地地理				九州地方の主要観光地について理解を深める			講義		
5	5/23	中間試験 四国地方の寄港地地理				中間試験 四国地方の主要観光地について理解を深める			講義	40	
6	5/30	四国地方の寄港地地理				四国地方の主要観光地について理解を深める			講義		
7	6/6	中国地方の寄港地地理				中国地方の主要観光地について理解を深める			講義		
8	6/13	中国地方の寄港地地理				中国地方の主要観光地について理解を深める			講義		
9	6/20	近畿地方の寄港地地理				近畿地方の主要観光地について理解を深める			講義		
10	6/27	近畿地方の寄港地地理				近畿地方の主要観光地について理解を深める			講義		
11	7/4	期末テスト				期末試験			講義	60	
12	7/11	近畿地方の寄港地地理				近畿地方の主要観光地について理解を深める			講義		
13	7/18	総復習				前期の総復習			講義		
14	9/5	特別授業				特別授業					
15	9/12	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト		A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下			
											


授業計画書

学部	屋	年次	2	学科	総合英語科			コース	クルーズコース		
クラス			CR2	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				クルーズ寄港地地理				講師名	久保田 紘太郎		
担当講師の実務経歴		○			実務経歴	旅行会社にて国内・海外・クルーズ等の販売に従事 総合旅行業務取扱管理者、クルーズ・コンサルタント					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
欧州から学習をスタートし、アジア・オセアニア・中東などを学習します。主要港とそこからの観光地について、お客様に説明ができることを目指します。						授業形式：講義および実技等 日本および世界の観光地の基本について学びます。主要な航路や港を中心に学ぶほか、観光業界での常識になる程度の観光地理についても学習をします。					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標	確認テスト				
							形式	点数			
1	4/18	1年次の復習				1年次の復習	講義				
2	4/25	欧州の港①				ヨーロッパの港について学習	講義				
3	5/9	欧州の港②				ヨーロッパの港について学習	講義				
4	5/16	欧州の港③				ヨーロッパの港について学習	講義				
5	5/23	中間試験 アジアの港①				中間試験 アジアの港について学習	講義	40			
6	5/30	アジアの港②				アジアの港について学習	講義				
7	6/6	アジアの港③				アジアの港について学習	講義				
8	6/13	アジアの港④				アジアの港について学習	講義				
9	6/20	アジアの港⑤				アジアの港について学習	講義				
10	6/27	オセアニア・南太平洋の港①				オセアニア・南太平洋の港について学習	講義				
11	7/4	期末試験				期末試験	講義	60			
12	7/11	オセアニア・南太平洋の港②				オセアニア・南太平洋の港について学習	講義				
13	7/18	ハワイ				ハワイの港について学習	講義				
14	9/5	特別授業				特別授業					
15	9/12	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価	使用教材				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・ 申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下				
											

授業計画書

学部	昼	年次	2	学科	総合英語科			コース	クルーズコース		
クラス			CR2	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				クルーズ商品知識				講師名	松浦賢太郎		
担当講師の実務経験				○	実務経歴		■クルーズのゆたか倶楽部株式会社 代表取締役 ■旅の専門店連合会(旅専)会長 ■日本旅行業協会(JATA)クルーズ推進部会長 ■日本旅行業協会(JATA)運営役員				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
■将来どこかのタイミングでクルーズ業界で働くことを前提に学び理解すること。 ■旅行会社の立場で実際にクルーズを販売しているプロから「売り方」を学び理解すること。 ■今後コロナ禍のような出来事があっても柔軟に対応できるように、情報収集力や柔軟性を高めること。						授業形式：講義 ■創業1984年のクルーズ専門旅行会社として、業界担い手育成の一助となる講義になるよう努める。 ■学生が興味を持ち参加する講義になるよう努める。					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト		
								形式	点数		
1	4/18	■オリエンテーション ■一年次の復習(クルーズ用語・客船とフェリーの違い)				講義の意義目的、業界で働くポイント、業界の現状を学び理解する。一年次の復習。					
2	4/25	■一年次の復習(日本船知識) ■外国船知識(クルーズライン カテゴリー)				一年の復習。クルーズラインのカテゴリーについて学び理解する。					
3	5/9	■外国船知識(カジュアル船) ■外国船知識(プレミアム船)				カジュアル船、プレミアム船の特徴を学び理解する					
4	5/16	■外国船知識(ラグジュアリー船)				ラグジュアリー船の特徴を学び理解する					
5	5/23	■外国船知識(添乗業務) ■中間テスト				外国船添乗(フライ&クルーズ、日本発着)について学び理解する			筆記	40	
6	5/30	■外国船知識(リパークルーズ) ■外国船知識(極地クルーズ)				リパークルーズ、極地クルーズの特徴を学び理解する					
7	6/6	■商品知識(世界三大クルーズエリア)				世界三大クルーズエリアおよび関連観光地について学び理解する					
8	6/13	■商品知識(募集カタログ) ■商品知識(船内の食事)				効果的な募集カタログの制作、船内の食事の特徴について学び理解する					
9	6/20	■商品知識(予約の流れ) ■商品知識(ギブアウェイ)				クルーズ予約方法などの流れ、予約後～出発までの送付物等について学び理解する					
10	6/27	■商品知識(販売手法と広報活動)				日本船・外国船販売の流れを学び理解する					
11	7/4	■期末テスト ■商品知識(コロナ前とコロナ後の変化)				コロナ前とコロナ後での販売方法や予約方法、乗船客の対応等を学び理解する			筆記	60	
12	7/11	■商品知識(船会社・GSA・PSA)				船会社と販売代理店(GSA・PSA)との関連性を学び理解する					
13	7/18	■成績フィードバック ■総まとめ									
14	9/5	特別授業				特別授業					
15	9/12	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価			使用教材		
・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること						申請サイト					
									A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下		


授業計画書

学部	屋	年次	2	学科	総合英語科			コース	クルーズコース		
クラス				時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				クルーズ料飲演習				講師名	居石 知佳		
担当講師の実務経験				○	実務経歴		福岡や京都などのホテルや旅館で勤務。レストラン、ウエディングプランナー、ベル業務などに従事。マレーシアのレストラン勤務の経験もあり、リゾートからシティホテルまで経験。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
レストランサービスの基本的な知識とスキルを身につける						授業形式：講義および実技等 レストランサービスに必要な基本姿勢や知識、スキルを身につけるため、演習を中心に講義も行っていく。 授業の評価は 実技テスト：80点 筆記テスト：20点					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/18	オリエンテーション 料飲での基本姿勢	<input type="checkbox"/> 授業の意義目的、評価や授業計画書 <input type="checkbox"/> 挨拶 <input type="checkbox"/> 身だしなみ <input type="checkbox"/> 姿勢								
2	4/25	料飲知識①	<input type="checkbox"/> 備品 <input type="checkbox"/> メニュー <input type="checkbox"/> テーブルマナー <input type="checkbox"/> セットアップ								
3	5/9	料飲演習①	<input type="checkbox"/> トレーサーサービス <input type="checkbox"/> ランチセットアップ <input type="checkbox"/> カトラリーチェンジ								
4	5/16	料飲演習②	<input type="checkbox"/> 確認テストの実技テスト練習ができた								
5	5/23	確認テスト ～朝食サービス～	<input type="checkbox"/> 実技テストで練習の成果が発揮できた	実技	30						
6	5/30	料飲演習③	<input type="checkbox"/> グラスの拭き上げ <input type="checkbox"/> ナプキンの折り方								
7	6/6	料飲演習④	<input type="checkbox"/> サーバー <input type="checkbox"/> ボトルサービス								
8	6/13	確認テスト ～プラッターサービス～	<input type="checkbox"/> 実技テストで練習の成果が発揮できた	実技	25						
9	6/20	料飲知識②	<input type="checkbox"/> アルコール								
10	6/27	料飲演習⑤	<input type="checkbox"/> シェーカー <input type="checkbox"/> ロステア <input type="checkbox"/> ヒルド								
11	7/4	確認テスト ～カクテルの作り方～ 料飲知識③	<input type="checkbox"/> 実技テストで練習の成果が発揮できた <input type="checkbox"/> 日本料理 <input type="checkbox"/> 中国料理	実技	25						
12	7/11	確認テスト ～日本料理・中国料理～	<input type="checkbox"/> 筆記テストで勉強の成果を発揮した	筆記	20						
13	7/18	フィードバック	<input type="checkbox"/> 前期の評価を理解した								
14	9/5	特別授業	特別授業								
15	9/12	特別授業	特別授業								
追試詳細			達成度評価	使用教材							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイトから追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 			申請サイト	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下	オリジナル資料						
											


授業計画書

学部	屋	年次	1	学科	エアライン科			コース	キャビンアテンダントコース	
クラス			F	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			キャビンアテンダント実務				講師名	石橋		
担当講師の実務経験			○		実務経験	JALでCAとして16年乗務をしながら、客室教育訓練部では数難のインストラクターとして訓練を担当いたしました。経験を活かし、即戦力となるような人材を育成できるよう努めます。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
コミュニケーションの場において必要な観察力・相手の立場に立って考える力・行動力を身に付ける。ホスピタリティが特別なものではなく身近なものであると認識し、日常生活の中で臨機応変な対応が出来る事を目指す。						授業形式：講義および実技等 ①客室乗務員に必要な力について考える。 ②飛行機内での事例を想定し、どの様に対応していくかを考える。				
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標		確認テスト		
							形式	点数		
1	4/18	オリエンテーション 客室乗務員の仕事について考える				<input type="checkbox"/> 客室乗務員の仕事について理解する。 <input type="checkbox"/> 客室乗務員の仕事について説明出来る。				
2	4/25	客室乗務員に求められる要素・力について考える（ディスカッション含む）				<input type="checkbox"/> 客室乗務員に求められる力について考える事が出来る。 <input type="checkbox"/> 求められる力と自身の強みを合わせる事が出来る。				
3	5/9	客室乗務員の仕事について				<input type="checkbox"/> 客室乗務員の仕事の流れについて理解する。 <input type="checkbox"/> 自身に必要な力は何かを考える。 <input type="checkbox"/> 強みを生かしてどの様なCAになりたいか考える。				
4	5/16	【中間テスト】 機内客室業務について				<input type="checkbox"/> 自身の力を踏まえた上でどの様なCAになりたいのか、について考えを述べる。		筆記	40	
5	5/23	【CAコース】セブ留学5/20~6/17								
6	5/30	【CAコース】セブ留学5/20~6/17								
7	6/6	【CAコース】セブ留学5/20~6/17								
8	6/13	【CAコース】セブ留学5/20~6/17								
9	6/20	機内客室業務について				<input type="checkbox"/> 観察力・考える力・行動力について学ぶ。				
10	6/27	機内客室業務について				<input type="checkbox"/> 観察力・考える力・行動力について学ぶ。				
11	7/4	機内客室業務について				<input type="checkbox"/> 観察力・考える力・行動力について学ぶ。				
12	7/11	【期末テスト】				<input type="checkbox"/> 安全について自身の考えを述べる事が出来る。		筆記	60	
13	7/18	フィードバック								
14	9/5	特別授業				特別授業				
15	9/12	特別授業				特別授業				
追試詳細						達成度評価		使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要 （シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト		オリジナル		
						A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下				

授業計画書

学部	屋	年次	2	学科	エアライン科			コース	キャビンアテンダントコース		
クラス			S	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				キャビンアテンダント実務				講師名	松野		
担当講師の実務経歴				○	実務経歴	ANAで28年目のCAとして乗務する中で8年間訓練センターに在籍し、インストラクターを担当。ピーチアビエーション・エアジャパン・ANAウイングスの訓練にも携わった経験を基に、航空業界を目指す皆様をサポートして参ります。					
授業のねらい・学期の達成目標											
航空業界だけでなくどの業界においても、ご要望の高いお客様のニーズに対応出来る様な力、知識、教養を身に付ける。						授業形式：講義および実技等 お客様対応力の更なる向上を目指し、航空機内の事例を想定して実際に観察力・考える力・行動力を発揮する。					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/18	飛行機内でサービスするアルコール飲料について（ワイン・リカー）	□機内でサービスするアルコールについての知識を身に付ける。								
2	4/25	ドリンクサービス（実習・撮影）	□グラスを使用して実際にサービスが出来る。								
3	5/9	ドリンクサービス（実習・撮影） 実習の振り返り	□グラスを使用して実際にサービスが出来る。								
4	5/16	ミールサービスの知識・特別食について	□機内でのミールサービスの知識を身に付ける。								
5	5/23	【中間テスト】 1～4回まで学んだこと		筆記	60						
6	5/30	ドリンクサービスからミールサービス回収まで（実習）	□ドリンク・ミールサービスが出来る。								
7	6/6	ドリンクサービスからミールサービス回収まで（実習）	□ドリンク・ミールサービスが出来る。								
8	6/13	緊急時のドア操作および脱出誘導	□緊急時におけるCAの統率力の必要性を学ぶ								
9	6/20	搭乗からミールサービスまで	□搭乗中から着陸までの流れを実践する。								
10	6/27	搭乗からミールサービスまで	□搭乗中から着陸までの流れを実践する。								
11	7/4	【期末テスト】 （ミールサービス・準備～回収まで）	□ミールサービスの流れをスムーズに実践することが出来る。	実技	40						
12	7/11	【期末テスト】 （ミールサービス・準備～回収まで）	□ミールサービスの流れをスムーズに実践することが出来る。	実技	40						
13	7/18	機内アナウンス	□搭乗御礼、着陸前、着陸後のアナウンスについて理解する。								
14	9/5	特別授業	特別授業								
15	9/12	特別授業	特別授業								
追試詳細				達成度評価	使用教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要 （シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要でず ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 				申請サイト	オリジナル A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下						
											

授業計画書

学部	属	年次	1	学科	エアライン科			コース	キャビンアテンダントコース	
クラス			F	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			航空業界研究				講師名	清水		
担当講師の実務経験			○	実務経歴	羽田空港にてANAのグランドスタッフとして約7年勤務。新人教育や現場責任者を行っていたスーパーバイザーでの経験を活かし、航空業界を目指す皆様のサポートを致します。					
授業のねらい・学期の達成目標					授業概要と進め方					
就職活動のに向けて、航空業界の現状を理解すると共に、航空業界で働く上で必要不可欠な基礎知識を育成する。					授業形式：講義および実技等 講義を中心に、就職に向けて航空業界の特徴を理解する。個人およびグループにて業界研究および発表を実施する。 各授業時間にて3レターの復習を実施					
実施回数	実施日	学習内容			各回の到達目標			確認テスト		
							形式	点数		
1	4/14	オリエンテーション 業界研究概要・3レター			□授業の意義目的、シラバス、評価方法 □都道府県確認/業界研究概について理解した					
2	4/21	日本の空港について 空港の種類・3レター			□日本国内の空港、空港の種類について理解した					
3	4/28	運輸業について 空運のメリット・デメリット			□運送業の役割について理解した					
4	5/12	機材について 航空機の種類と特徴			□航空機の機種と特徴について理解した					
5	5/19	3大アライアンス 筆記テスト			□3大アライアンスについて理解した			筆記	40	
6	5/26	【CAコース】セブ留学5/20~6/17								
7	6/2	【CAコース】セブ留学5/20~6/17								
8	6/9	【CAコース】セブ留学5/20~6/17								
9	6/16	【CAコース】セブ留学5/20~6/17								
10	6/23	航空会社について			□個人発表 □グループにて航空会社研究					
11	6/30	航空会社について			□グループにて航空会社研究					
12	7/7	期末テスト 筆記/実技						筆記 実技	30 30	
13	7/14	総復習 フィードバック			□航空業界の基礎知識がついた □航空業界の現状について理解した					
14	9/8	特別授業			特別授業					
15	9/15	特別授業			特別授業					
追試詳細					達成度評価			使用教材		
・公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要 （シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること					申請サイト 		A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下		オリジナルテキスト	


授業計画書

学部	昼	年次	2	学科	エアライン科			コース	キャビンアテンダントコース		
クラス			S	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				エアラインエキスパート				講師名			
担当講師の実務経歴				○	実務経歴		(株)JALスカイ現役グランドスタッフとして、現場の取組みや求める人材像を基に指導。新入社員教育の教官経験あり。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
航空会社のエキスパートとなるために、他業種の業務内容を知り知識と視野を広げる。他業種の人とも円滑なコミュニケーションが取れるよう、相手に合わせた会話を実施する 自身の業種を、説明・体験させることができる知識技能を身につける。						授業形式：講義および実技等 グループワークを中心に1年次に学んだことを纏め発表する。各コースの実務を体験しする。					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト		
								形式	点数		
1	4/14	オリエンテーション(15分) エアラインエキスパート概要				授業の目的、シラバス、評価方法説明 <input type="checkbox"/> 航空業務概要を学ぶ					
2	4/21	空港の概要/特色研究				<input type="checkbox"/> グループにて空港の概要研究					
3	4/28	各コースの業務を共有 1便の業務関係を知る				<input type="checkbox"/> CA/GS/GHの業務をグループで調べる <input type="checkbox"/> 航空機に関わる業務を知る					
4	5/12	航空業界の安全について				<input type="checkbox"/> 航空業界の安全について、各コースの視点で考える					
5	5/19	グループワーク(安全と業務) 30点(作成物評価)				<input type="checkbox"/> 航空業界の安全と業務の繋がりを協力し作成する			課題	30	
6	5/26	中間テスト 筆記テスト 30点 課題発表							筆記	30	
7	6/2	他業種体験準備				<input type="checkbox"/> 各コースにて他業種体験の準備を行う					
8	6/9	他業種体験準備				<input type="checkbox"/> 各コースにて他業種体験の準備を行う					
9	6/16	他業種体験(CA/GS/AP)				<input type="checkbox"/> 他業種を体験し、相手の立場に立って行動する重要性を学ぶ					
10	6/23	他業種体験(CA/GS/AP)				<input type="checkbox"/> 他業種を体験し、相手の立場に立って行動する重要性を学ぶ					
11	6/30	他業種体験(CA/GS/AP)				<input type="checkbox"/> 他業種を体験し、相手の立場に立って行動する重要性を学ぶ					
12	7/7	他業種体験振り返り レポート提出 40点				<input type="checkbox"/> 体験の振り返りを実施			課題	40	
13	7/14	総復習 フィードバック(15分)				総復習 成績フィードバック					
14	9/8	特別授業				特別授業					
15	9/15	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト(左記)から追試の事前申請が必要(シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト			オリジナルテキスト		
											A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	エアライン科			コース	キャビンアテンダントコース		
クラス			F	時間数	30	単位数	2	区分	共通	必修	
科目名			業界英会話					講師名	石橋		
担当講師の実務経歴			○	実務経歴		JALでCAとして16年乗務をしながら、客室教育訓練部では救難のインストラクターとして訓練を担当いたしました。経験を活かし、即戦力となるような人材を育成できるよう努めます。					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
機内の状況を想定し、航空業界で使われている用語やフレーズを使い、接客英語での基本的なお客様対応を学ぶ。						授業形式：講義および実技等 ①客室乗務員として必要な英語知識を身に付ける。 ②飛行機内で必要となる丁寧な英語表現を用いてお客様対応が出来る。					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト		
								形式	点数		
1	4/14	オリエンテーション MGKについて 客室乗務員に必要な英語知識				□なぜ客室乗務員に英語が必要なのかを考 えることが出来る。					
2	4/21	MGKの時間10分 業界に必要な用語を学ぶ				□客室乗務員として、業務で必要な単語を 覚える。					
3	4/28	MGKの時間10分 Unit7:Welcome Aboard				□機内搭乗中サービスの基本を理解する。 □ふさわしい所作や言葉遣いを学ぶ。					
4	5/12	MGKの時間10分 Unit7:Welcome Aboard				□機内搭乗中サービスの基本を理解する。 □ふさわしい所作や言葉遣いを学ぶ。					
5	5/19	MGKの時間10分 Boarding(搭乗案内) ドリンクサービス・航空用語テスト				□機内搭乗中サービスの基本を理解する。 □ふさわしい所作や言葉遣いを学ぶ。			筆記	30	
6	5/26	【CAコース】セブ留学5/20～6/17									
7	6/2	【CAコース】セブ留学5/20～6/17									
8	6/9	【CAコース】セブ留学5/20～6/17									
9	6/16	【CAコース】セブ留学5/20～6/17									
10	6/23	Unit9:In-Flight Service MGKの時間10分				□機内搭乗中サービスの基本を理解する。 □ふさわしい所作や言葉遣いを学ぶ。					
11	6/30	Unit9:In-Flight Service MGKの時間10分				□機内搭乗中サービスの基本を理解する。 □ふさわしい所作や言葉遣いを学ぶ。			筆記	20	
12	7/7	【期末テスト】Unitの中から実技 MGKの時間10分				□機内搭乗中サービスの基本を理解する。 □ふさわしい所作や言葉遣いを学ぶ。			筆記	50	
13	7/14	フィードバック									
14	9/8	特別授業				特別授業					
15	9/15	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価			使用教材		
・公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・公欠はWebポータルから公欠届の申請と、 申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要 （シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・病欠は公欠届の申請はできませんが、 追試の事前申請が必要です ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡 すること						申請サイト		A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下		「Hospitality English」	
											

授業計画書

学部	屋	年次	2	学科	エアライン科			コース	キャビンアテンダントコース	
クラス			S	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			航空保安				講師名	松野 有利子		
担当講師の実務経験		○			実務経歴	ANAで28年目のCAとして業務する中で8年間訓練センターに在籍し、インストラクターを担当。ピーチアビエーション・エアジャパン・ANAウイングスの訓練にも携わった経験を基に、航空業界を目指す皆様をサポートして参ります。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
空港における航空保安について学ぶ。空港勤務における注意点についての理解する。						授業形式：講義および実技等 講義を中心に、空港で働くスタッフの保安について理解する。基本的な保安知識の習得および事例分析を実施する				
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト						
				形式	点数					
1	4/13	オリエンテーション(15分) 航空保安概要	授業の意義目的、シラバス、評価方法、追試説明 □航空保安の基礎知識を習得した							
2	4/20	航空保安概要 航空保安に対する国の取り組み	□航空保安についての概要を理解した □国が取り組む保安について理解した							
3	4/27	航空会社の保安に対する取り組み	□各航空会社の保安の取り組みについて理解した							
4	5/11	航空会社の保安に対する取り組み	□各航空会社の機内安全策を考える							
5	5/18	空港の保安施設について	□空港の保安施設について理解した							
6	5/25	中間テスト		筆記	40					
7	6/1	保安事例研究	□過去に発生した保安事例を学ぶ							
8	6/8	保安事例研究	□過去に発生した保安事例を学ぶ							
9	6/15	保安事例ロールプレイング	□航空保安に関してロールプレイングを行い、適切な対応を行う							
10	6/22	保安事例ロールプレイング	□航空保安に関してロールプレイングを行い、適切な対応を行う							
11	6/29	保安事例ロールプレイング	□航空保安に関してロールプレイングを行い、適切な対応を行う							
12	7/6	期末テスト		筆記	60					
13	7/13	総復習 フィードバック	総復習 成績フィードバック							
14	9/7	特別授業	特別授業							
15	9/14	特別授業	特別授業							
追試詳細			達成度評価	使用教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト(左記)から追試の事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 			申請サイト 	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下	オリジナルテキスト					


授業計画書

学部	屋	年次	1	学科	エアライン科			コース	グランドスタッフコース		
クラス			1	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				グランドスタッフ実務				講師名	清水 美玖		
担当講師の実務経験		○			実務経歴	羽田空港にてANAのグランドスタッフとして約7年勤務。新人教育や現場責任者を行っていたスーパーバイザーでの経験を活かし、航空業界を目指す皆様のサポートを致します。					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
ホスピタリティについて自ら考え、サービスを提供できる人材を育成する。後期12月に実施するホスピタリティスキルコンテストに向けて練習を重ねていく。						授業形式：講義および実技等 グランドスタッフの仕事について理解を深め、仕事の基礎知識・接客応対技術を習得する。また、航空業界全体の仕事を理解することで、グランドスタッフを目指す理由を明確にし就職試験にも備える。					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/18	オリエンテーション 航空業界について	<input type="checkbox"/> 航空業界の仕事を理解した <input type="checkbox"/> どんなGSになりたいか決意表明した								
2	4/25	航空業界について	<input type="checkbox"/> グランドスタッフの仕事を理解した								
3	5/9	業界用語	<input type="checkbox"/> 専門用語を理解した								
4	5/16	手荷物取り扱い	<input type="checkbox"/> 持込手荷物について理解した <input type="checkbox"/> 危険物取扱について理解した								
5	5/23	【中間テスト】 専門用語、手荷物について		筆記	30						
6	5/30	カウンター業務	<input type="checkbox"/> 搭乗手続きが出来る <input type="checkbox"/> 手荷物受託が出来る								
7	6/6	カウンター業務	<input type="checkbox"/> 搭乗手続きが出来る <input type="checkbox"/> 手荷物受託が出来る								
8	6/13	カウンター業務	<input type="checkbox"/> 搭乗手続きが出来る <input type="checkbox"/> 手荷物受託が出来る								
9	6/20	ロビーサービス	<input type="checkbox"/> お手伝いが必要なお客様のご案内を理解した <input type="checkbox"/> お手伝いが必要なお客様のご案内が出来								
10	6/27	ロビーサービス	<input type="checkbox"/> お手伝いが必要なお客様のご案内を理解した <input type="checkbox"/> お手伝いが必要なお客様のご案内が出来								
11	7/4	【期末テスト】 搭乗手続き		実技	40						
12	7/11	【確認テスト】 お手伝いが必要なお客様のご案内		実技	30						
13	7/18	総復習 フィードバック	<input type="checkbox"/> GSとしての知識を得た <input type="checkbox"/> 今後の課題を見つけた								
14	9/5	特別授業	特別授業								
15	9/12	特別授業	特別授業								
追試詳細				達成度評価	使用教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 				申請サイト	オリジナル						
							A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下				


授業計画書

学部	昼	年次	2	学科	エアライン科			コース	グランドスタッフコース		
クラス			V	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			グランドスタッフ実務					講師名	岩崎		
担当講師の実務経験			○			実務経験	(株)JALスカイ現役グランドスタッフとして、現場の取り組みや求める人材像を基に指導。新入社員教育の教官経験あり。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
ホスピタリティ業界で通用する仕事知識を深め、お客さま視点で対応できる人材の育成。						授業形式：講義および実技等 ホスピタリティ業界に必要な安全に対する知識や救命訓練を身に付ける。応用編としてアナウンスでは人に伝わりやすい情報提供の仕方、イレギュラー対応を身に付ける。					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト		
								形式	点数		
1	4/14	オリエンテーション 1年次の復習（業界用語）				□授業の意義目的、シラバス、評価方法について理解した					
2	4/21	1年次の復習（CKIN/SPCL PAX）				□1年次の授業内容について振り返り、対応することができる					
3	4/28	安全について				□過去の事故や自然災害から航空業界の安全性について理解した					
4	5/12	安全について				□今後自身が考える安全意識の共有					
5	5/19	救命訓練実技				□救急処置について理解した					
6	5/26	【中間テスト】 安全・救命訓練							筆記	40	
7	6/2	イレギュラーについて MNT/DLY/オーバーセール				□イレギュラーの種類について理解した □イレギュラー対応について理解した					
8	6/9	アナウンスの役割 アナウンスの種類				□アナウンスの役割、アナウンスの種類について理解した					
9	6/16	GOOD JOB REPORT共有 アナウンス実技				□ノーマルアナウンスが出来る					
10	6/23	イレギュラーアナウンス				□イレギュラー時のアナウンスの役割について理解した					
11	6/30	イレギュラーアナウンス実技				□イレギュラーアナウンスを自身で考え実践出来る					
12	7/7	【期末テスト】 イレギュラー(筆記)アナウンス(実技)							筆記 実技	60	
13	7/14	総復習 フィードバック				□イレギュラー時の対応力がついた □状況に応じたアナウンスが実践出来る					
14	9/8	特別授業				特別授業					
15	9/15	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト			オリジナル		
											A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下


授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	エアライン科			コース	グラウンドスタッフコース		
クラス			1	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				航空業界研究				講師名	清水		
担当講師の実務経歴				○	実務経歴	羽田空港にてANAのグラウンドスタッフとして約7年勤務。新人教育や現場責任者を行っていたスーパーバイザーでの経験を活かし、航空業界を目指す皆様のサポートを致します。					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
就職活動のに向けて、航空業界の現状を理解すると共に、航空業界で働く上で必要不可欠な基礎知識を育成する。						授業形式：講義および実技等 講義を中心に、就職に向けて航空業界の特徴を理解する。個人およびグループにて業界研究および発表を実施する。 各授業時間にて3レターの復習を実施					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標		確認テスト			
								形式	点数		
1	4/14	オリエンテーション 業界研究概要・3レター				□授業の意義目的、シラバス、評価方法 □都道府県確認/業界研究概について理解した					
2	4/21	日本の空港について 空港の種類・3レター				□日本国内の空港、空港の種類について理解した					
3	4/28	運輸業について 空運のメリット・デメリット				□運送業の役割について理解した					
4	5/12	機材について 航空機の種類と特徴				□航空機の機種と特徴について理解した					
5	5/19	3大アライアンス アライアンスのメリット・デメリット				□3大アライアンスについて理解した					
6	5/26	中間テスト						筆記	40		
7	6/2	航空業界グループ分け FSC/LCC/第三の航空会社を知る それぞれの特色について				□FSC/LCC/第三の航空会社を理解した □特色について説明できる					
8	6/9	航空会社について JAL/ANA				□JAL / ANA企業研究					
9	6/16	航空会社について				□個人にて航空会社研究					
10	6/23	航空会社について				□個人発表 □グループにて航空会社研究					
11	6/30	航空会社について				□グループにて航空会社研究					
12	7/7	期末テスト 筆記/発表						筆記 実技	30 30		
13	7/14	総復習 フィードバック				□航空業界の基礎知識がついた □航空業界の現状について理解した					
14	9/8	特別授業				特別授業					
15	9/15	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価		使用教材			
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト		オリジナルテキスト			
											A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下

授業計画書

学部	昼	年次	2	学科	エアライン科			コース	グラウンドスタッフコース		
クラス			V	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				エアラインエキスパート				講師名			
担当講師の実務経歴				○	実務経歴	(株)JALスカイ現役グラウンドスタッフとして、現場の取り組みや求める人材像を基に指導。新入社員教育の教官経験あり。					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
航空会社のエキスパートとなるために、他業種の業務内容を知り知識と視野を広げる。他業種の人とも円滑なコミュニケーションが取れるよう、相手に合わせた会話を実施する						授業形式：講義および実技等 グループワークを中心に1年次に学んだことを纏め発表する。各コースの実務を体験しする。					
自身の業種を、説明・体験させることができる知識技能を身につける。											
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト		
								形式	点数		
1	4/14	オリエンテーション(15分) エアラインエキスパート概要				授業の目的、シラバス、評価方法説明 <input type="checkbox"/> 航空業務概要を学ぶ					
2	4/21	空港の概要/特色研究				<input type="checkbox"/> グループにて空港の概要研究					
3	4/28	各コースの業務を共有 1便の業務関係を知る				<input type="checkbox"/> CA/GS/GHの業務をグループで調べる <input type="checkbox"/> 航空機に関わる業務を知る					
4	5/12	航空業界の安全について				<input type="checkbox"/> 航空業界の安全について、各コースの視点で考える					
5	5/19	グループワーク(安全と業務) 30点(作成物評価)				<input type="checkbox"/> 航空業界の安全と業務の繋がりを協力し作成する			課題	30	
6	5/26	中間テスト 筆記テスト 30点 課題発表							筆記	30	
7	6/2	他業種体験準備				<input type="checkbox"/> 各コースにて他業種体験の準備を行う					
8	6/9	他業種体験準備				<input type="checkbox"/> 各コースにて他業種体験の準備を行う					
9	6/16	他業種体験(CA/GS/AP)				<input type="checkbox"/> 他業種を体験し、相手の立場に立って行動する重要性を学ぶ					
10	6/23	他業種体験(CA/GS/AP)				<input type="checkbox"/> 他業種を体験し、相手の立場に立って行動する重要性を学ぶ					
11	6/30	他業種体験(CA/GS/AP)				<input type="checkbox"/> 他業種を体験し、相手の立場に立って行動する重要性を学ぶ					
12	7/7	他業種体験振り返り レポート提出 40点				<input type="checkbox"/> 体験の振り返りを実施			課題	40	
13	7/14	総復習 フィードバック(15分)				総復習 成績フィードバック					
14	9/8	特別授業				特別授業					
15	9/15	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト(左記)から追試の事前申請が必要(シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト			オリジナルテキスト		
											A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	エアライン科			コース	グランドスタッフコース		
クラス			1	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			業界英会話					講師名	石橋		
担当講師の実務経歴			○	実務経歴			JALでCAとして16年乗務をしながら、客室教育訓練部では救難のインストラクターとして訓練を担当いたしました。経験を活かし、即戦力となるような人材を育成できるよう努めます。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
英語で正しい表現を用いて接客できるまでに、単語・フレーズをしっかりとマスターしグランドスタッフに必要なとされる丁寧な接客英語を身に付けます。						授業形式：講義および実技等 日本語の対応と同様に、所作や立居振る舞いを意識しながら、空港の様々なシチュエーションにおいて英語での対応が出来るように繰り返し練習を実施する。また、後期実施のMGK対策を行う。					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト		
								形式	点数		
1	4/14	オリエンテーション 道案内（頻出単語・フレーズ） みんなの外国語検定（各回実施）				□授業の意義目的、シラバス、評価方法 □道案内頻出単語・フレーズについて理解した					
2	4/21	道案内実技 グランドスタッフ頻出フレーズ 誘導案内				□単語やフレーズを用いて道案内が出来る □頻出フレーズ、誘導案内の意味が理解できる					
3	4/28	UNIT1 Ticketing for a Domestic Flight				□英文の意味を理解し実践する事が出来る					
4	5/12	UNIT1 Ticketing for a Domestic Flight				□英文の意味を理解し実践する事が出来る					
5	5/19	UNIT2 Domestic Flight Check-in				□英文の意味を理解し実践する事が出来る					
6	5/26	【中間テスト】（頻出フレーズ）						筆記	40		
7	6/2	UNIT2 Domestic Flight Check-in				□英文の意味を理解し実践する事が出来る					
8	6/9	UNIT1 /UNIT2復習 ROLE-PLAY PRACTICE				□英文の意味を理解し実践する事が出来る					
9	6/16	UNIT3 Internatinal Flight Check-In				□英文の意味を理解し実践する事が出来る					
10	6/23	UNIT3 Internatinal Flight Check-In				□英文の意味を理解し実践する事が出来る					
11	6/30	UNIT4 Airport Lounge Service				□単語を理解し文章を組み立てる事が出来る □英文の意味を理解し実践する事が出来る					
12	7/7	【期末テスト】 UNIT4 Airport Lounge Service				□単語を理解し文章を組み立てる事が出来る □英文の意味を理解し実践する事が出来る			筆記	60	
13	7/14	総復習・フィードバック				□単語を理解し文章を組み立てる事が出来る □頻出単語やフレーズをマスターした □正しい表現を用いて英語での接客が行える					
14	9/8	特別授業				特別授業					
15	9/15	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト			「Hospitality English」		
											

授 業 計 画 書

学部	昼	年次	2	学科	エアライン科			コース	グランドスタッフコース		
クラス			V	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				航空保安				講師名	松野 有利子		
担当講師の実務経験		○			実務経歴	ANAで28年目のCAとして乗務する中で8年間訓練センターに在籍し、インストラクターを担当。ピーチアビエーション・エアジャパン・ANAウイングスの訓練にも携わった経験を基に、航空業界を目指す皆様をサポートして参ります。					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
空港における航空保安について学ぶ。 空港勤務における注意点についての理解する。						授業形式：講義および実技等 講義を中心に、空港で働くスタッフの保安について理解する。 基本的な保安知識の習得および事例分析を実施する					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト		
								形式	点数		
1	4/18	オリエンテーション（15分） 航空保安概要				授業の意義目的、シラバス、評価方法、追試説明 □航空保安の基礎知識を習得した					
2	4/25	航空保安概要 航空保安に対する国の取り組み				□航空保安についての概要を理解した □国が取り組む保安について理解した					
3	5/9	航空会社の保安に対する取り組み				□各航空会社の保安の取り組みについて理解した					
4	5/16	空港の保安施設について				□各航空会社の保安の取り組みについて理解した					
5	5/23	中間テスト							筆記	40	
6	5/30	航空会社の保安に対する取り組み				□各航空会社の機内安全策を考える					
7	6/6	保安事例研究				□過去に発生した保安事例を学ぶ					
8	6/13	保安事例研究				□過去に発生した保安事例を学ぶ					
9	6/20	保安事例ロールプレイング				□航空保安に関してロールプレイングを行い、適切な対応を行う					
10	6/27	保安事例ロールプレイング				□航空保安に関してロールプレイングを行い、適切な対応を行う					
11	7/4	保安事例ロールプレイング				□航空保安に関してロールプレイングを行い、適切な対応を行う					
12	7/11	期末テスト							筆記	60	
13	7/18	総復習 フィードバック				総復習 成績フィードバック					
14	9/5	特別授業				特別授業					
15	9/12	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト			オリジナルテキスト		
											A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下

授業計画書

学部	屋	年次	1	学科	エアライン科			コース	エアポートオペレーションコース		
クラス			G	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				航空業界研究				講師名	清水		
担当講師の実務経験			○	実務経歴			羽田空港にてANAのグランドスタッフとして約7年勤務。新人教育や現場責任者を行っていたスーパーバイザーでの経験を活かし、航空業界を目指す皆様のサポートを致します。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
就職活動のに向けて、航空業界の現状を理解すると共に、航空業界で働く上で必要不可欠な基礎知識を育成する。						授業形式：講義および実技等 講義を中心に、就職に向けて航空業界の特徴を理解する。個人およびグループにて業界研究および発表を実施する。 授業時間にて3レターの復習を実施					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標		確認テスト			
							形式	点数			
1	4/12	オリエンテーション 業界研究概要・3レター				<input type="checkbox"/> 授業の意義目的、シラバス、評価方法 <input type="checkbox"/> 都道府県確認/業界研究概について理解した					
2	4/19	日本の空港について 空港の種類・3レター				<input type="checkbox"/> 日本国内の空港、空港の種類について理解した					
3	4/26	運輸業について 空運のメリット・デメリット				<input type="checkbox"/> 運送業の役割について理解した					
4	5/10	機材について 航空機の種類と特徴				<input type="checkbox"/> 航空機の機種と特徴について理解した					
5	5/17	3大アライアンス アライアンスのメリット・デメリット				<input type="checkbox"/> 3大アライアンスについて理解した					
6	5/24	中間テスト						筆記	40		
7	5/31	航空業界グループ分け FSC/LCC/第三の航空会社を知る それぞれの特色について				<input type="checkbox"/> FSC/LCC/第三の航空会社を理解した <input type="checkbox"/> 特色について説明できる					
8	6/7	スポーツター/パラスポーツター									
9	6/14	航空会社について JAL/ANA				<input type="checkbox"/> JAL / ANA企業研究					
10	6/21	航空会社について				<input type="checkbox"/> 個人にて航空会社研究					
11	6/28	航空会社について				<input type="checkbox"/> 個人発表 <input type="checkbox"/> グループにて航空会社研究					
12	7/5	期末テスト 航空会社について						筆記	30		
13	7/12	実技テスト(発表)				<input type="checkbox"/> グループ発表		実技	30		
14	7/19	総復習 フィードバック				<input type="checkbox"/> 航空業界の基礎知識がついた <input type="checkbox"/> 航空業界の現状について理解した					
15	9/6	特別授業				特別授業					
16	9/13	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価		使用教材			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト		オリジナルテキスト			
										A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下	

授業計画書

学部	屋	年次	1	学科	エアライン科			コース	エアポートオペレーションコース	
クラス			G	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名				国際航空貨物取扱士 運賃				講師名	JALカーゴ(篠崎)	
担当講師の実務経歴		○		実務経歴	航空貨物輸送に携わる現場業務を経て、現在は入社教育としてビジネスマナーや貨物に関する基礎、危険物教育等の様々な社員教育を実施している。現在も空港に勤務の現役講師					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
国際航空貨物取扱士の資格取得に向けて、航空貨物輸送に係る各規則やその背景などを学ぶ。前期の授業では基礎となる運賃計算方法に慣れ、後期の実践に繋げていく						授業形式：講義および実技等				
実施回数	実施日	学習内容			各回の到達目標			確認テスト		
							形式	点数		
1	4/18	オリエンテーション 航空貨物運送状(AWB)と役割			授業目的、シラバス、評価方法 運送状の役割と通貨コードを調べる					
2	4/25	運賃計算の法則			端数処理、実重量、容積重量の算出 Chargeableweightについて					
3	5/9	運賃表の見方とレートとの適用			運賃表の見方と適用方法について					
4	5/16	最低料金と一般貨物賃率			最低料金と一般レートによる計算方法					
5	5/23	中間テスト			1～4回目の授業範囲			筆記	40	
6	5/30	特定品目賃率(SCR)			特定品目番号の割り当て、計算方法					
7	6/6	特定品目賃率(SCR)			特定品目番号の割り当て、計算方法					
8	6/13	品目分類賃率(CCR)			Class Rateの割り当て、計算方法					
9	6/20	品目分類賃率(CCR)			Class Rateの割り当て、計算方法					
10	6/27	従価料金とその他手数料			従価料金の計算方法と手数料の見方					
11	7/4	期末テスト			6～10回目の授業範囲			筆記	60	
12	7/11	フィードバック 運賃計算のまとめ			計算総復習					
13	7/18	前期総復習			前期内容の復習					
14	9/5	特別授業			特別授業					
15	9/12	特別授業			特別授業					
追試詳細					達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・ 申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 					申請サイト		講師作成、印刷資料 A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下			
										


授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	エアライン科			コース	エアポートオペレーションコース		
クラス			G	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				国際航空貨物取扱士 知識				講師名	JALカーゴ(篠崎)		
担当講師の実務経験		○			実務経験	航空貨物輸送に携わる現場業務を経て、現在は入社教育としてビジネスマナーや貨物に関する基礎、危険物教育等の様々な社員教育を実施している。現在も空港に勤務の現役講師					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
国際航空貨物取扱士の資格取得に向けて、航空貨物輸送に係る各規則やその背景などを学ぶ。前期の授業では基礎となる内容を覚え、後期の実践に繋げていく						授業形式：講義および実技等					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/18	オリエンテーション IATAエリア、国州都市コード	授業目的、シラバス、評価方法 エリアと国州都市コードの調べ方を知る								
2	4/25	Subエリア、複数空港有する都市 時刻表	Subエリアや複数空港を持つ都市の調べ方、 時刻表の概要を知る								
3	5/9	時刻表と航空機カテゴリ	時刻表の見方と運航機材(機種構造)								
4	5/16	時差と飛行時間	時差算出方法と飛行時間の計算方法								
5	5/23	中間テスト	1-4回目の授業範囲	筆記	40						
6	5/30	航空機の構造と機種	航空機の構造を理解する								
7	6/6	搭載可能な重量と燃料	重量制限や燃料算出について知る								
8	6/13	ULD	ULDの種類と寸法、識別番号を理解する								
9	6/20	特殊貨物	受託時に特別な取扱いを必要とする貨物と貨物コードを知る								
10	6/27	国別情報、航空会社別情報 国際機関組織と役割	国および航空会社情報の見方 各組織期間の役割を学ぶ								
11	7/4	期末テスト	6~10回の授業範囲	筆記	60						
12	7/11	フィードバック、Cargo Automation 貨物輸送の自動化	貨物輸送の自動化について学ぶ								
13	7/18	Cargo Automation 貨物輸送の自動化	貨物輸送の自動化について学ぶ								
14	9/5	特別授業	特別授業								
15	9/12	特別授業	特別授業								
追試詳細				達成度評価	使用教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・ 申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 				申請サイト	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下	講師作成、印刷資料					
											


授業計画書

学部	昼	年次	2	学科	エアライン科			コース	エアポートオペレーションコース		
クラス			T	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				危険物航空輸送				講師名	大内山		
担当講師の実務経験				○	実務経歴		(株)JALグランドサービスの社員として、貨物の積み下ろしやオペレーション、貨物の搬送業務、総務部にて人財採用や人財育成、英語教育プログラムの企画・運営を担当 日本航空(株)に出向し、企業理念とJALフィロソフィ浸透に関わる社内教育やイベントの企画・運営を担当				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
グランドハンドリング業務で必要な危険物の諸規則を学ぶ 航空危険物の基礎を理解する						授業形式：講義 講義を中心に、ランプ業務、貨物業務で必要な知識、取り扱いを実際の事例を基に理解する。					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/14	オリエンテーション 航空危険物概要	授業の意義目的、シラバス、評価方法 □航空危険物の基本を理解する								
2	4/21	航空危険物概要	□航空危険物の基本を理解する								
3	4/28	危険物の分類	□危険物の分類を理解する								
4	5/12	危険物の分類	□各分類の物品を理解する								
5	5/19	危険物分類確認	□1～10分類の再確認								
6	5/26	中間テスト 筆記テスト 40点		筆記	40						
7	6/2	ラベルの種類、取り扱い	□ラベルの種類・取り扱いを理解する								
8	6/9	ラベルの種類、取り扱い	□ラベルの種類・取り扱いを理解する								
9	6/16	航空危険物の取り扱い	□作業時の注意点について理解する								
10	6/23	危険物の通知 事故時の対応	□過去事例を学び、危険物の理解を深める								
11	6/30	危険物不具合事例	□危険物の不具合事例を理解する								
12	7/7	期末テスト 筆記テスト 60点		筆記	60						
13	7/14	総復習 フィードバック	総復習 成績フィードバック								
14	9/8	特別授業	特別授業								
15	9/15	特別授業	特別授業								
追試詳細				達成度評価	使用教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 				申請サイト	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下	オリジナルテキスト					
											

授業計画書

学部	屋	年次	2	学科	エアライン科			コース	エアポートオペレーションコース	
クラス			T	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名				航空保安				講師名	松野 有利子	
担当講師の実務経験		○			実務経歴	ANAで28年目のCAとして乗務する中で8年間訓練センターに在籍し、インストラクターを担当。ピーチアビエーション・エアジャパン・ANAウイングスの訓練にも携わった経験を基に、航空業界を目指す皆様をサポートして参ります。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方				
空港における航空保安について学ぶ。 空港勤務における注意点についての理解する。						授業形式：講義および実技等 講義を中心に、空港で働くスタッフの保安について理解する。 基本的な保安知識の習得および事例分析を実施する				
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト						
				形式	点数					
1	4/13	オリエンテーション（15分） 航空保安概要	授業の意義目的、シラバス、評価方法、追試説明 □航空保安の基礎知識を習得した							
2	4/20	航空保安概要 航空保安に対する国の取り組み	□航空保安についての概要を理解した □国が取り組む保安について理解した							
3	4/27	航空会社の保安に対する取り組み	□各航空会社の保安の取り組みについて理解した							
4	5/11	航空会社の保安に対する取り組み	□各航空会社の機内安全策を考える							
5	5/18	空港の保安施設について	□空港の保安施設について理解した							
6	5/25	中間テスト		筆記	40					
7	6/1	保安事例研究	□過去に発生した保安事例を学ぶ							
8	6/8	保安事例研究	□過去に発生した保安事例を学ぶ							
9	6/15	保安事例ロールプレイング	□航空保安に関してロールプレイングを行い、適切な対応を行う							
10	6/22	保安事例ロールプレイング	□航空保安に関してロールプレイングを行い、適切な対応を行う							
11	6/29	保安事例ロールプレイング	□航空保安に関してロールプレイングを行い、適切な対応を行う							
12	7/6	期末テスト		筆記	60					
13	7/13	総復習 フィードバック	総復習 成績フィードバック							
14	9/7	特別授業	特別授業							
15	9/14	特別授業	特別授業							
追試詳細				達成度評価	使用教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要 （シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 				申請サイト	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下	オリジナルテキスト				
										


授業計画書

学部	昼	年次	2	学科	エアライン科			コース	エアポートオペレーションコース		
クラス			T	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				カーゴハンドリング				講師名	大内山		
担当講師の実務経験				○	実務経歴		(株)JALグランドサービスの社員として、貨物の積み下ろしやオペレーション、貨物の搬送業務、総務部にて人財採用や人財育成、英語教育プログラムの企画・運営を担当 日本航空(株)に出向し、企業理念とJALフィロソフィ浸透に関わる社内教育やイベントの企画・運営を担当				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
航空貨物輸送の概要を知り、空港現場における貨物上屋業務全般を学ぶ 貨物上屋業務の基礎を理解する						授業形式：講義および実技等 講義を中心に、オリジナルテキストを使用し上屋業務を学ぶ					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/17	オリエンテーション 航空貨物業務概要	授業の意義目的、シラバス、評価方法 <input type="checkbox"/> 航空貨物業務の概要を理解する								
2	4/24	航空貨物業務概要	<input type="checkbox"/> 航空貨物業務の概要を理解する								
3	5/8	航空会社と荷送り人の関係について	<input type="checkbox"/> 貨物代理店と荷送り人について理解する								
4	5/15	航空会社と荷送り人の関係について ULDについて	<input type="checkbox"/> 貨物の予約について理解する <input type="checkbox"/> ULDについてリマインド								
5	5/22	中間テスト 筆記テスト40点		筆記	40						
6	5/29	航空運送状について	<input type="checkbox"/> 航空運送状の内容を理解する								
7	6/5	貨物運送取扱 貨物の受託	<input type="checkbox"/> 貨物受託の定義 <input type="checkbox"/> 特殊貨物の取り扱いについて								
8	6/12	貨物運送取扱 貨物の受託	<input type="checkbox"/> 貨物受託の定義 <input type="checkbox"/> 特殊貨物の取り扱いについて								
9	6/19	タイダウン、積み付け演習	<input type="checkbox"/> タイダウンおよび積み付けを理解する								
10	6/26	タイダウン、積み付け演習 実技テスト 30点	<input type="checkbox"/> タイダウンおよび積み付けを理解する	実技	30						
11	7/3	期末テスト 筆記テスト 30点		筆記	30						
12	7/10	総復習 フィードバック	総復習 成績フィードバック								
13	9/4	特別授業	特別授業								
14	9/11	特別授業	特別授業								
追試詳細				達成度評価		使用教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠と病欠が対象で筆記試験のみ実施 ・ 公欠はWebポータルから公欠届の申請と、申請用サイト（左記）から追試の事前申請が必要（シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付） ・ 病欠は公欠届の申請はできませんが、追試の事前申請が必要です ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 				申請サイト		オリジナルデータ					
								A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下			

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	鉄道科			コース			
クラス			HA・HB	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名				コミュニケーショントレーニング				講師名	山口泰央		
担当講師の実務経歴				○	実務経歴		俳優養成所にて講師歴25年。 全国の小中学校並びに大学院・企業・病院での演劇ワークショップの開催。 H26より警察庁・全国銀行協会と組んで特殊詐欺撲滅運動に参加。				
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
[常に考える]という習慣を身につける。 また演劇メソッドを用いたワークを行い、自己の表現力・発想力を高め、コミュニケーション能力を向上させチームワークを養う。						授業形式：講義および実技等 テキスト上でのセリフや演技を通して、人前に立つということに抵抗を無くし、お客様の前でも緊張せずに対応することが出来るようになる。 グループワークを通して、他者の価値観に理解を深めていく。					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/18	オリエンテーション(15分) 自己紹介・テキスト配布(外郎売読み稽古①)	自己を客観的にきちんと言葉で表現することができる。	実技							
2	4/25	ウォーミングアップ(30分) 緊張について 外郎売稽古(読み稽古②)	日常的に発声と滑舌に意識を向けることができる。	実技							
3	5/9	W・UP・観察力について 外郎売稽古(読み稽古③)	好奇心を持って物事をポジティブに見つめることができる。	実技							
4	5/16	W・UP・伝達力について 外郎売稽古(読み稽古④) 第二テキスト配布・(読み稽古①)	聞き手に寄り添い、大きな声と丁寧な言葉で対応できる。	実技							
5	5/23	W・UP・想像力について 外郎売稽古(読み稽古⑤)(読み稽古②)	作品の世界観を大切に、各キャラクターの心情を思い描くことができる	実技							
6	5/30	中間テスト「外郎売暗譜発表」 第二テキスト稽古(読み稽古③)	「暗記する」という作業に前向きに取り組むことができる。	実技	40点						
7	6/6	フィードバック 第二テキスト稽古(立ち稽古①)	自己の武器と弱点を知り、その対策を考えることができる。	実技							
8	6/13	W・UP・子ども心・遊び心について 第二テキスト稽古(立ち稽古②)	表現と向き合う中で、心のゆとりを忘れずに楽しむことができる。	実技							
9	6/20	W・UP・瞬発力について 第二テキスト稽古(立ち稽古③)	追い込まれた状況でも、冷静に次に繋げることができる。	実技							
10	6/27	W・UP・共有力について 第二テキスト稽古(立ち稽古④)	共演者との話し合いを円滑に進め「仲間と創る」意識を持つことができる。	実技							
11	7/4	W・UP・調整力について 第二テキスト稽古(立ち稽古⑤)	発表当日を見据え、やるべきことへの優先順位をつけることができる。	実技							
12	7/11	期末テスト 「The Soldier by the Lake」作品上演。	観客と共に作品を完成させ、仲間と「達成感」を分かち合うことができる。	実技	60点						
13	7/18	フィードバック 作品創作における反省と前期の振り返り。	振り返りを通して、自己の反省と今後の対策を考えることができる。	講義							
14	9/5	特別授業	特別授業								
15	9/12	特別授業	特別授業								
追試詳細				達成度評価	使用教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 				申請サイト 	A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下	第一テキスト 「外郎売」 第二テキスト 「The Soldier by the Lake」					

授業計画書

学部	屋	年次	2	学科	鉄道科			コース			
クラス			UA	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			マナープロトコール					講師名	後藤美和		
担当講師の実務経験			○	実務経歴	担当講師は航空業界での国際線国内線の客室乗務経験があり、その経験を基に企業や学校等でマナー教育を行っています						
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人として必須のビジネスマナー、テーブルマナー、冠婚葬祭についての知識や対応力をつけます ・ 海外のマナーや文化を学び、理解を深めることで、国際人としての視野を広げます 						授業形式：講義および実技 国際感覚や異文化の理解を深め、人間力を磨きます					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト		
									形式	点数	
1	4/14	(國武先生代講)									
2	4/21	オリエンテーション マナーの歴史と意味				授業の目的、シラバス、評価方法、追試説明 日本や世界のマナーの歴史や意味を理解す					
3	4/28	国際人としてのプロトコール				プロトコールや異文化コミュニケーション について理解する					
4	5/12	社会人に必要なマナー(贈答・手紙) ビジネスシーンのマナー(名刺の扱い)				社会人に必要なマナーを確認し、名刺の扱い 方について理解する					
5	5/19	ビジネスシーンのマナー(電話対応)				電話対応のポイントを確認し、会社の代表 としての基本的な対応ができるようになる					
6	5/26	中間テスト ビジネスシーンのマナー(来客対応)				中間テストを実施する 来客対応のマナーを理解する			筆記	40	
7	6/2	ビジネスシーンのマナー(ビジネス文書・ メールの基本)				マナーにかなったビジネス文書やメールの 作成方法を理解する					
8	6/9	食事のマナー(和食・和室の作法)				和食のマナーとして箸使いやいただき方、 和室での基本作法について理解する					
9	6/16	食事のマナー(西洋・中国・各国料理)				西洋・中国・各国料理の知識やテーブルマ ナーについて理解する					
10	6/23	お酒のマナー				お酒の種類や基礎知識、宴席でのマナーを 理解する					
11	6/30	「冠婚葬祭」のしきたり				日本の冠婚葬祭について学び、マナーを確 認する					
12	7/7	科目全体の復習 期末テスト				これまでの復習を行い、ポイントを確認す る 期末テストを実施する			筆記	60	
13	7/14	成績のフィードバック 科目の補足				成績のフィードバックを行う 科目の補足などを行う					
14	9/8	特別授業				特別授業					
15	9/15	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・ 申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡 すること 						申請サイト			マナー&プロトコールの 基礎知識(NPO法人日本 マナー・プロトコール協 会)		
											A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下

授業計画書

学部	層	年次	1	学科	鉄道科			コース			
クラス			HA	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			駅係員実務					講師名	星		
担当講師の実務経験		○			実務経歴	東武鉄道(株)にて駅務係・車掌・運転士・指令を経験。甲種電気車運転免許所持。					
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
<input type="checkbox"/> 駅係員の業務内容を知る。 <input type="checkbox"/> 駅係員の一日の流れを知る。 <input type="checkbox"/> 駅で就業する上で必要な知識を養う。						授業形式：講義および実技等 講義を中心に、駅係員の業務や勤務形態を理解し、駅で働く上で必要な知識を習得することを目指し、就業後に備える。					
実施回数	実施日	学習内容	各回の到達目標	確認テスト							
				形式	点数						
1	4/12	鉄道と街づくり見学分 振替休講									
2	4/19	駅係員概要	<input type="checkbox"/> 駅係員の勤務形態や業務を知る。								
3	4/26	改札業務	<input type="checkbox"/> 改札における業務内容を知る。								
4	5/10	出札業務	<input type="checkbox"/> 出札における業務内容を知る。								
5	5/17	遺失物取扱い業務	<input type="checkbox"/> 駅における遺失物の取扱いを知る。								
6	5/24	中間テスト	筆記試験【配点60点】	筆記	60						
7	5/31	駅で使われる略号	<input type="checkbox"/> 駅で使われる略語を知る。								
8	6/7	スポーツデー/バラスポーツデー									
9	6/14	異常時の対応	<input type="checkbox"/> 異常が発生した際の対応方を知る。								
10	6/21	食事当番	<input type="checkbox"/> 駅での食事当番の対応方を知る。								
11	6/28	清掃業務	<input type="checkbox"/> 駅での清掃業務を知る。								
12	7/5	期末テスト	筆記試験【配点40点】	筆記	40						
13	7/12	泊勤生活の注意点	<input type="checkbox"/> 共同生活における注意点を知る。								
14	7/19	まとめと振り返り	<input type="checkbox"/> 各授業を振り返り、不明点を無くす。								
15	9/6	特別授業	特別授業								
16	9/13	特別授業	特別授業								
追試詳細			達成度評価	使用教材							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・ 申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 			申請サイト	<input type="checkbox"/> イロノート							
						A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下					

授業計画書

学部	屋	年次	2	学科	鉄道科			コース			
クラス		UB	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修		
科目名			営業規則				講師名	國武			
担当講師の実務経験		○	実務経歴		東急電鉄旅行部門でカウンターセールス、添乗、営業を経験。その後旅行会社を独立開業。一般社団法人全国旅行業協会神奈川県支部理事。総合旅行業務取扱管理者、総合旅程管理主任者						
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
JR及び第三セクター企業、一部地方鉄道での窓口業務の旅客案内基礎力を身につけることを目的とします。本授業を通し、JR旅客営業規則を理解することを目標とします。						授業形式：講義および実技等					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標		確認テスト			
							形式	点数			
1	4/12	旅客営業規則総則				□規定が理解できる					
2	4/19	乗車券類の発売、旅客運賃・料金関係 一般、地方交通線				□規定が理解できる					
3	4/26	乗車券類の発売、旅客運賃・料金関係 普通乗車券、定期乗車券				□規定が理解できる					
4	5/10	乗車券類の発売、旅客運賃・料金関係 一般、地方交通線				□規定が理解できる					
5	5/17	乗車券類の発売、旅客運賃・料金関係 団体乗車券、料金券				□規定が理解できる					
6	5/24	中間テスト									
7	5/31	乗車券類の発売、旅客運賃・料金関係 団体乗車券、料金券				□規定が理解できる					
8	6/7	スポーツター/バラスポーツター									
9	6/14	乗車券類の効力 一般、有効期間、途中下車				□規定が理解できる					
10	6/21	乗車券類の効力 乗車券の効力、料金券の効力				□規定が理解できる					
11	6/28	様式・発行方 乗車券類の改札及び引き渡し 乗車変更				□規定が理解できる					
12	7/5	期末テスト									
13	7/12	その他特殊取扱い(不正・紛失等) 事故				□規定が理解できる					
14	7/19	入場券、手回り品等 単行規程				□規定が理解できる					
15	9/6	特別授業				特別授業					
16	9/13	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価		使用教材			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・ 申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・ 試験期間は年間スケジュールに記載 ・ 追試対象者に学校からの連絡はありません ・ 追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト		ロイロノートスクール			
										A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下	

授業計画書

学部	屋	年次	2	学科	鉄道科		コース		
クラス			UB	時間数	30	単位数	2	区分	専門 必修
科目名				技術基礎			講師名	國武	
担当講師の実務経歴		○		実務経歴	東日本旅客鉄道、JR千葉鉄道サービスにて車両検修を経験 第二種電気工事士、乙種第4類危険物取扱者資格を所持				
授業のねらい・学期の達成目標					授業概要と進め方				
①技術職場の実業務を理解する ②この作業は何故必要なのかをよく理解して実践する ③安全に留意して作業を行うこと					授業形式：講義および実技等				
実施回数	実施日	学習内容			各回の到達目標		確認テスト 形式 点数		
1	4/13	車両床下想定 打音検査			□打音検査の意味を理解できる				
2	4/20	車両床下想定 打音検査確認試験			□打音検査を実践できる		実技		20
3	4/27	車両床下想定 ボルト緊縛			□緊縛の意味を理解できる				
4	5/11	車両床下想定 ボルト緊縛 確認試験			□ボルト緊縛を実践できる		実技		20
5	5/18	車両運転台周辺機器想定 電線被覆はがしと結線			□被覆の意味を理解できる				
6	5/25	車両運転台周辺機器想定 電線被覆はがしと結線 確認試験			□結線がスムーズにできる		実技		20
7	6/1	車両客室内周辺機器想定 器具との結線 (①引掛ソリダ)			□結線がスムーズにできる				
8	6/8	車両客室内周辺機器想定 器具との結線 (②ラップレダケル)			□結線がスムーズにできる				
9	6/15	車両客室内周辺機器想定 器具との結線 (③スイッチ、コネク)			□結線がスムーズにできる				
10	6/22	車両客室内周辺機器想定 器具との結線 (④端子台)			□結線がスムーズにできる				
11	6/29	車両客室内周辺機器想定 器具との結線 確認試験対策練習			□結線がスムーズにできる				
12	7/6	車両客室内周辺機器想定 器具との結線 確認試験対策練習			□結線がスムーズにできる				
13	7/13	車両客室内周辺機器想定 器具との結線 確認試験			□結線がスムーズにできる		実技		40
14	9/7	特別授業			特別授業				
15	9/14	特別授業			特別授業				
追試詳細					達成度評価		使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 					申請サイト		訓練機材、訓練教材 A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下		
									

授業計画書

学部	昼	年次	1	学科	鉄道科			コース			
クラス			HB	時間数	30	単位数	2	区分	専門	必修	
科目名			鉄道概論					講師名	星		
担当講師の実務経歴			○	実務経歴	東武鉄道(株)にて駅務係・車掌・運転士・指令を経験。甲種電気車運転免許所持。						
授業のねらい・学期の達成目標						授業概要と進め方					
<input type="checkbox"/> 鉄道業界の幅広い業種を知る。 <input type="checkbox"/> 様々な業種を知ることによって視野を広げる。 <input type="checkbox"/> 就職活動に際して業種による抵抗感を無くす。						授業形式：講義および実技等 講義を中心に実施、鉄道に関連する様々な仕事を知ること自身のイメージしている「鉄道業界」に対する視野を広げ、特定の企業や業種に囚われない柔軟な職業観を養う。					
実施回数	実施日	学習内容				各回の到達目標			確認テスト 形式 点数		
1	4/18	鉄道業界とは				<input type="checkbox"/> 鉄道業界の仕事を知る。					
2	4/25	駅係員概要				<input type="checkbox"/> 駅係員の業務、必要なスキルを知る。					
3	5/9	乗務員概要				<input type="checkbox"/> 乗務員の業務、必要なスキルを知る。					
4	5/16	指令員概要				<input type="checkbox"/> 指令員の業務、必要なスキルを知る。					
5	5/23	中間テスト				課題提出【配点50点】			筆記	50	
6	5/30	車両係概要				<input type="checkbox"/> 車両係の業務、必要なスキルを知る。					
7	6/6	保線・電路・通信係概要				<input type="checkbox"/> 軌道・電路・通信係の業務、必要なスキルを知る。					
8	6/13	クルー概要				<input type="checkbox"/> クルーの業務、必要なスキルを知る。					
9	6/20	鉄道警備概要				<input type="checkbox"/> 鉄道警備の業務、必要なスキルを知る。					
10	6/27	本社業務概要				<input type="checkbox"/> 本社の業務、必要なスキルを知る。					
11	7/4	期末テスト				課題提出【配点50点】			筆記	50	
12	7/11	まとめと振り返り				<input type="checkbox"/> 各授業を振り返り、不明点を無くす。					
13	7/18	鉄道業種研究				<input type="checkbox"/> 学んだ事を基に鉄道に関わる仕事を研究する。					
14	9/5	特別授業				特別授業					
15	9/12	特別授業				特別授業					
追試詳細						達成度評価			使用教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・公欠者が対象で筆記試験のみ実施 ・申請用サイトから事前申請が必要 (シラバス記載のテスト実施日の17:20まで受付) ・試験期間は年間スケジュールに記載 ・追試対象者に学校からの連絡はありません ・追試日にやむを得ず受験不能の場合は担任へ連絡すること 						申請サイト		A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 59点以下		<input type="checkbox"/> イロノート	
											



ホスピタリティツーリズム専門学校
情報公開資料

－成績評価－

学校法人トラベルジャーナル学園

厳格かつ適正な成績管理の実施について

学校法人 トラベルジャーナル学園
ホスピタリティ ツーリズム専門学校
東京ブライダル専門学校

1. 成績評価の方法・基準について

- (1) 授業計画書（シラバス）に評価方法、評価基準を記載している。
- (2) 評価方法は実技試験、筆記試験、その他（課題等）により行う。
- (3) 評価は A、B、C、D、R の 5 種類。評価基準は基本、80 点以上で A 評価、70 点以上で B 評価、60 点以上で C 評価となり、認定として単位を与える。59 点以下または予め設定された目標レベルを下回る場合や試験を受験しなかった場合は D 評価となり、不認定として単位を与えない。

また R 評価とは、成績評価外の行事・救済措置の再学習などの認定や早期内定実習で成績評価を受けることができない場合の評価基準である。

評価対象の課題提出などにより、包括的に評価する。

2. 成績の客観的指数について

- (1) GPA により客観的な指標を設定しており、算出方法は (2) の通りである。
- (2) 5 種類の評価のポイントは、A=3、B=2、C=1、D=0、R=1 もしくは R=2 とし、合算したものが GP 合計値となる。その GP 合計値を履修した科目数で割ったものが GPA 値となる。

※GPA は学期ごとに算出し、全体の成績評価を行う。

※R 評価については、成績評価外の行事・救済措置の再学習などの認定は 1 ポイント、早期内定実習は 2 ポイントとして換算する。

3. 成績評価の使用について

算出した成績評価は前期 10 月・後期 3 月に、各学生本人に通知する。

GPA 算出後は、成績下位者に対し再学習を実施する。

ホスピタリティツーリズム専門学校
情報公開資料

－ 2023年度 学生便覧－

学校法人トラベルジャーナル学園

5. 進級・卒業基準

出席した授業時間数と修得した単位数がともに、以下の基準を満たすことにより進級・卒業を認めます。

(1) 進級基準

以下の①～③すべての基準を満たし、1年次末の進級判定会議で進級の承認が必要です。

- ① 出席した授業時間数が1年次の総授業時間数の80%（卒業見込）以上
- ② 修得した単位数が1年次の総単位数の80%（卒業見込）以上
- ③ 所定の学費を指定期日までに完納している

(2) 卒業基準

以下の①～③すべての基準を満たし、2年次末の卒業判定会議で卒業の承認が必要です。

- ① 出席した授業時間数が2年次の総授業時間数の80%以上
- ② 修得した単位数が2年次の総単位数の80%以上
- ③ 所定の学費を指定期日までに完納している

ホスピタリティーツーリズム専門学校

情報公開資料

- ・ 貸借対照表
- ・ 収支計算書
- ・ 財産目録
- ・ 事業報告書
- ・ 監事による監査報告書

学校法人トラベルジャーナル学園

貸借対照表

2023年 3月31日

(単位:円)

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	【 19,620,620,580 】	【 18,764,580,211 】	【 856,040,369 】
有 形 固 定 資 産	(10,526,095,689)	(10,742,322,201)	(△ 216,226,512)
土 地	6,375,146,785	6,375,146,785	0
建 物	3,765,111,839	3,906,639,812	△ 141,527,973
構 築 物	6,216,146	6,900,457	△ 684,311
教育研究用機器備品	265,897,783	335,585,206	△ 69,687,423
管理用機器備品	21,328,464	27,769,893	△ 6,441,429
図 書	12,800,161	17,576,186	△ 4,776,025
車 両	2	614,075	△ 614,073
建設仮勘定	79,594,509	72,089,787	7,504,722
特 定 資 産	(6,690,949,346)	(5,572,000,000)	(1,118,949,346)
退職給与引当特定資産	156,000,000	165,000,000	△ 9,000,000
減価償却引当特定資産	4,826,000,000	4,807,000,000	19,000,000
施設拡充引当特定資産	600,000,000	600,000,000	0
留学資金引当特定資産	1,108,949,346	0	1,108,949,346
その他の固定資産	(2,403,575,545)	(2,450,258,010)	(△ 46,682,465)
電 話 加 入 権	4,274,840	4,274,840	0
施 設 利 用 権	7,344,000	7,344,000	0
保 証 金	1,250,000	1,250,000	0
収 益 事 業 元 入 金	2,084,778,456	2,093,778,456	△ 9,000,000
有 価 証 券	130,425,664	130,425,664	0
保 険 積 立 金	169,257,208	199,451,899	△ 30,194,691
長 期 前 払 金	6,245,377	13,733,151	△ 7,487,774
流 動 資 産	【 1,070,383,759 】	【 1,852,818,377 】	【 △ 782,434,618 】
現 金 預 金	1,036,726,326	1,784,607,724	△ 747,881,398
未 収 入 金	21,270,275	55,924,763	△ 34,654,488
貯 蔵 品	2,327,687	2,005,517	322,170
販 売 用 品	169,811	250,227	△ 80,416
立 替 金	6,792,255	4,236,933	2,555,322
前 払 金	2,972,128	5,494,153	△ 2,522,025
仮 払 金	125,277	299,060	△ 173,783
資 産 の 部 合 計	20,691,004,339	20,617,398,588	73,605,751

(単位:円)

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	【 156,051,025 】	【 165,318,607 】	【 △ 9,267,582 】
退職給与引当金	156,051,025	165,318,607	△ 9,267,582
流動負債	【 1,469,780,881 】	【 1,478,038,256 】	【 △ 8,257,375 】
未払金	110,102,225	134,307,132	△ 24,204,907
前受金	1,347,971,275	1,314,945,404	33,025,871
仮受金	13,250	1,148,560	△ 1,135,310
預り金	11,694,131	27,637,160	△ 15,943,029
負債の部合計	1,625,831,906	1,643,356,863	△ 17,524,957
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金			
第1号基本金	15,356,434,125	15,540,981,863	△ 184,547,738
第4号基本金	171,000,000	171,000,000	0
繰越収支差額			
翌年度繰越収支差額	3,537,738,308	3,262,059,862	275,678,446
純資産の部合計	19,065,172,433	18,974,041,725	91,130,708
負債及び純資産の部合計	20,691,004,339	20,617,398,588	73,605,751

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

徴収不能引当金

未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

退職給与引当金

① 期末要支給額 248,287,907円の100%を計上している。ただし、東京都私学財団に加入している教職員については同財団よりの交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

② 学校法人の役員については、期末要支給額の100%を計上している。

(2) その他の重要な会計方針

有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

たな卸資産の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

外貨建資産・負債等の本邦通貨への換算基準

外貨建短期金銭債権債務については、期末時の為替相場により円換算しており、外貨建長期金銭債権債務については、取得時又は発生時の為替相場により円換算している。

預り金その他経過項目に係る収支の表示方法

立替金、仮払金、預り金及び仮受金に係る収入と支出は相殺して表示している。

食堂その他教育活動に付随する活動に係る収支の表示方法

補助活動に係る収支は純額で表示している。

2. 重要な会計方針の変更等 なし

3. 減価償却累計額の合計額 4,826,063,596 円

4. 徴収不能引当金の合計額 0 円

5. 担保に供されている資産の種類及び額 なし

6. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 0 円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項 なし

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報等

① 時価情報

(単位:円)

種類	当年度(2023年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	1,437,653,826	1,618,181,372	180,527,546
(うち満期保有目的の債券)	663,371,019	736,560,800	73,189,781
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	566,825,260	530,404,117	△ 36,421,143
(うち満期保有目的の債券)	232,158,721	211,367,299	△ 20,791,422
合計	2,004,479,086	2,148,585,489	144,106,403
(うち満期保有目的の債券)	895,529,740	947,928,099	52,398,359

② 明細表

(単位:円)

種類	当年度(2023年3月31日)			
	勘定科目	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	減価償却引当特定資産	895,529,740	947,928,099	52,398,359
債券	留学資金引当特定資産	1,108,949,346	1,200,657,390	91,708,044
株式	-			
投資信託	-			
貸付信託	-			
その他	-			
	合計	2,004,479,086	2,148,585,489	144,106,403
時価の無い有価証券	有価証券	130,425,664		
減価償却引当特定資産・留学資金引当特定資産合計		2,004,479,086		
長期有価証券合計		130,425,664		

(2) 学校法人の出資による会社に係る事項

当学校法人の出資割合が総出資額の2分の1以上である会社の状況は次のとおりである。

名称	TRAJAL U.S.A., INC.			
事業内容	教育事業			
資本金	130,000米ドル	130,000株		
学校法人の出資状況	130,000米ドル	130,000株		
出資の状況	2011年6月1日	8,860,416円	26,000株	
	2011年11月30日	640,666円	2,500株	
	2011年12月26日	12,674,582円	36,500株	
	2013年 1月10日	107,250,000円	65,000株	
当期中に学校法人が受け入れた配当及び寄付の金額並びに学校法人との資金、取引等の状況	当該会社への支払額		報酬委託手数料	56,458,913
	(単位:円)			
	(単位:円)			
	当該会社への出資金等	期首残高	資金支出等	資金収入等
	129,425,664	0	0	129,425,664
債務保証	当該会社に債務保証は行っていない。			

名称	株式会社トラベルジャーナルワールド			
事業内容	学校事務代行業			
資本金	1,000,000円	20株		
学校法人の出資状況	1,000,000円	20株		
出資の状況	2019年4月1日	1,000,000円	20株	
当期中に学校法人が受け入れた配当及び寄付の金額並びに学校法人との資金、取引等の状況	当該会社への支払額		該当なし	0
	(単位:円)			
	(単位:円)			
	当該会社への出資金等	期首残高	資金支出等	資金収入等
	1,000,000	0	0	1,000,000
債務保証	当該会社に債務保証は行っていない。			

(3) 主な外貨建資産・負債

(単位:円)

科目	外貨額	貸借対照表計上額	年度末日の為替相場による円換算額	換算差額
固定資産(有価証券)	USD 1,465,506.19	129,425,664	194,223,535	64,797,871
流動資産(現金預金)	USD 167,319.93	25,003,980	25,003,980	0
	AUD 32,262.17			

(4) 純額で表示した補助活動に係る収支

純額で表示した補助活動に係る収支の相殺した科目及び金額は次のとおりである。

(単位:円)

支出	金額	収入	金額
補助活動支出(仕入)	13,264,830	補助活動収入(売上)	15,037,627
		純 額	1,772,797

(5) 関連当事者との取引

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位 円)

属性	役員、法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容(注1)	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
理事長が議決権の過半数を有する会社	㈱ラベルジャーナル	千代田区	75,000,000円	出版業他	-	兼任3人	学校広告	広告料の支払	1,000,000	未払金	150,000
							年間購読	購読料の支払	110,000	-	-

(注1) 取引については、市場価格を勘案して一般取引条件と同様に決定している。

事業活動収支計算書

2022年 4月 1日から

2023年 3月31日まで

(単位：円)

	科 目	予 算	決 算	差 異
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	(2,023,541,000)	(2,039,402,700)	(△ 15,861,700)
	授 業 料	1,671,715,000	1,686,666,700	△ 14,951,700
	施 設 設 備 資 金	351,826,000	352,736,000	△ 910,000
	手 数 料	(17,068,000)	(15,951,445)	(1,116,555)
	入 学 検 定 料	15,140,000	14,820,000	320,000
	試 験 料	1,206,000	636,245	569,755
	証 明 手 数 料	722,000	495,200	226,800
	寄 付 金	(0)	(0)	(0)
	経常費等補助金	(119,917,000)	(114,560,900)	(5,356,100)
	地方公共団体補助金収入	117,777,000	0	117,777,000
	東京都補助金収入	1,000,000	47,107,500	△ 46,107,500
	大阪府補助金収入	1,140,000	67,453,400	△ 66,313,400
	付随事業収入	(2,068,000)	(1,692,381)	(375,619)
	補助活動事業収入	1,673,000	1,692,381	△ 19,381
	講習会等収入	395,000	0	395,000
	雑収入	(7,037,000)	(3,605,203)	(3,431,797)
	施設設備利用料	97,000	44,000	53,000
その他雑収入	6,940,000	3,561,203	3,378,797	
教育活動収入計	2,169,631,000	2,175,212,629	△ 5,581,629	
教育活動支出	人 件 費	(912,109,000)	(860,673,360)	(51,435,640)
	教 員 人 件 費	561,610,000	489,438,285	72,171,715
	職 員 人 件 費	296,992,000	314,583,016	△ 17,591,016
	役 員 報 酬	30,099,000	30,108,000	△ 9,000
	退 職 金	8,160,000	9,180,000	△ 1,020,000
	退職給与引当金繰入額	15,248,000	17,364,059	△ 2,116,059
	教育研究経費	(883,196,000)	(868,992,564)	(14,203,436)
	消 耗 品 費	5,927,000	5,206,754	720,246
	事 務 用 品 費	315,000	312,676	2,324
	光 熱 水 費	28,135,000	36,381,668	△ 8,246,668
	旅 費 交 通 費	3,845,000	1,804,281	2,040,719
	奨 学 費	267,076,000	260,417,564	6,658,436
	福 利 費	7,512,000	5,570,848	1,941,152
	通 信 運 搬 費	7,661,000	6,525,653	1,135,347
	印 刷 製 本 費	9,259,000	8,081,640	1,177,360
	出 版 物 費	1,277,000	1,038,601	238,399
	研 究 費	3,791,000	5,053,178	△ 1,262,178
	修 繕 費	1,300,000	18,331,025	△ 17,031,025
	損 害 保 険 料	2,319,000	2,279,578	39,422
	貸 借 料	1,881,000	1,641,647	239,353
	リ ー ス 料	132,000	13,332	118,668
広 報 費	250,000	0	250,000	
諸 会 費	1,915,000	1,883,765	31,235	
会 議 費	1,234,000	805,967	428,033	
報 酬 委 託 手 数 料	138,599,000	135,697,468	2,901,532	
生 徒 活 動 補 助 金	100,000	0	100,000	
減 価 償 却 額	293,162,000	289,272,471	3,889,529	
渉 外 費	811,000	508,000	303,000	

事業活動収支計算書

2022年 4月 1日から
2023年 3月31日まで

(単位：円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
支 出 の 部		雑費	4,961,000	1,021,298	3,939,702
		行事費	22,866,000	15,855,463	7,010,537
		実習費	78,868,000	71,289,687	7,578,313
		管理経費	(479,325,000)	(478,136,825)	(1,188,175)
		消耗品費	3,694,000	4,492,834	△ 798,834
		光熱水費	2,914,000	3,550,383	△ 636,383
		旅費交通費	13,224,000	13,934,148	△ 710,148
		福利費	13,702,000	11,823,452	1,878,548
		通信運搬費	14,265,000	13,417,361	847,639
		印刷製本費	3,498,000	2,824,229	673,771
		出版物費	329,000	183,014	145,986
		修繕費	561,000	415,089	145,911
		損害保険料	595,000	468,273	126,727
		賃借料	420,000	479,344	△ 59,344
		租公課	3,549,000	2,050,767	1,498,233
		広報費	347,236,000	346,593,553	642,447
		諸会費	1,061,000	1,035,457	25,543
		会議費	5,235,000	2,603,936	2,631,064
		渉外費	7,919,000	6,342,029	1,576,971
		報酬委託手数料	19,968,000	23,303,378	△ 3,335,378
		雑費	1,333,000	3,323,115	△ 1,990,115
		減価償却額	25,309,000	24,148,919	1,160,081
		研究費	14,213,000	16,852,999	△ 2,639,999
	調査費	300,000	294,545	5,455	
	徴収不能額等	(0)	(0)	(0)	
	教育活動支出計	2,274,630,000	2,207,802,749	66,827,251	
	教育活動収支差額	△ 104,999,000	△ 32,590,120	△ 72,408,880	
教育活動外収支	収事業の活動の部	受取利息・配当金	(45,341,000)	(39,080,853)	(6,260,147)
		その他受取利息・配当金	45,341,000	39,080,853	6,260,147
		その他の教育活動外収入	(55,944,000)	(92,031,080)	△ 36,087,080
		収益事業収入	55,944,000	43,000,000	12,944,000
		為替差額	0	49,031,080	△ 49,031,080
	教育活動外収入計	101,285,000	131,111,933	△ 29,826,933	
	動事業の部の支出	借入金等利息	(0)	(0)	(0)
その他の教育活動外支出		(0)	(0)	(0)	
	教育活動外支出計	0	0	0	
	教育活動外収支差額	101,285,000	131,111,933	△ 29,826,933	
	経常収支差額	△ 3,714,000	98,521,813	△ 102,235,813	
特別収支	収事業の活動の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	(0)	(0)	(0)
		その他の特別収入	(4,000,000)	(681,000)	(3,319,000)
		施設設備補助金	4,000,000	561,000	3,439,000
		損害賠償金収入	0	120,000	△ 120,000
	特別収入計	4,000,000	681,000	3,319,000	
	支事業の活動の部	資産処分差額	(0)	(8,072,105)	△ 8,072,105
		建物等処分差額	0	2	△ 2
		機器備品処分差額	0	30	△ 30
		図書処分差額	0	5,204,209	△ 5,204,209
保険解約差額		0	2,867,864	△ 2,867,864	

事業活動収支計算書

2022年4月1日から
2023年3月31日まで

(単位：円)

	科 目	予 算	決 算	差 異
	その他の特別支出	(0)	(0)	(0)
	特 別 支 出 計	0	8,072,105	△ 8,072,105
	特 別 収 支 差 額	4,000,000	△ 7,391,105	11,391,105
	【 予 備 費 】	0		0
	基本金組入前当年度収支差額	286,000	91,130,708	△ 90,844,708
	基本金組入額合計	△ 65,542,000	0	△ 65,542,000
	当年度収支差額	△ 65,256,000	91,130,708	△ 156,386,708
	前年度繰越収支差額	3,262,059,862	3,262,059,862	0
	基本金取崩額	0	184,547,738	△ 184,547,738
	翌年度繰越収支差額	3,196,803,862	3,537,738,308	△ 340,934,446

(参考)

事業活動収入計	2,274,916,000	2,307,005,562	△ 32,089,562
事業活動支出計	2,274,630,000	2,215,874,854	58,755,146

財産目録
(2023年 3月31日)

資産総額	金	20,732,983,095 円
基本財産	金	10,530,370,529 円
運用財産	金	8,070,408,687 円
収益事業用財産	金	2,132,203,879 円
負債総額	金	1,674,332,873 円
正味財産	金	19,058,650,222 円

〔1〕資産

1. 基本財産 金 10,530,370,529円

(1)校地等

所在地	面積	金額
東京校A館敷地 東京都中野区東中野3-18-11	871.00 m ²	2,219,981,250 円
東京校B館敷地 東京都中野区東中野3-17-11	293.64 m ²	993,729,750 円
大阪校1号館敷地 大阪府大阪市西区江戸堀2-6-29	565.12 m ²	1,431,803,000 円
大阪校2号館敷地 大阪府大阪市西区江戸堀2-1-24	397.65 m ²	1,434,105,000 円
大阪校3号館敷地 大阪府大阪市西区江戸堀2-1-25	463.07 m ²	262,049,529 円
黒磯敷地 栃木県黒磯市青木字大輪地原	3,279.00 m ²	29,320,000 円
湯河原敷地 静岡県熱海市泉元門川分88-3-417	56.65 m ²	4,158,256 円
合計	5926.13 m ²	6,375,146,785 円

(2)校舎等

構造	面積	金額
東京校A館	3,994.75 m ²	1,315,174,817 円
東京校B館	1,149.58 m ²	413,438,310 円
大阪校1号館	3,063.63 m ²	1,020,295,033 円
大阪校2号館	2,520.04 m ²	502,377,535 円
大阪校3号館	2,894.79 m ²	487,340,326 円
湯河原 構築物	76.76 m ²	26,485,818 円
合計	13,699.55 m ²	3,771,327,985 円

(3)機器備品等

種別	金額
教育研究用機器備品	265,897,783 円
その他の機器備品	21,328,464 円
車 両	2 円
図 書	12,800,161 円
合計	300,026,410 円

(4)その他

種別	金額
建設仮勘定	79,594,509 円
電話加入権	4,274,840 円
合計	83,869,349 円

2. 運用財産 金 8,070,408,687円

(1)現金・預金

種類	金額
現金	2,004,624 円
普通預金	300,505,486 円
定期預金	728,529,740 円
振替貯金	5,686,476 円
合計	1,036,726,326 円

(2)その他

種類	金額
減価償却引当特定資産	4,826,000,000 円
退職給与引当特定預金	156,000,000 円
施設拡充特定預金	600,000,000 円
留学資金引当特定預金	1,108,949,346 円
未収入金	21,270,275 円
前払金	2,972,128 円
保険積立金	169,257,208 円
その他	149,233,404 円
合計	7,033,682,361 円

3. 収益事業用財産 金 2,132,203,879円

種類	金額
普通預金	98,707,462 円
土地	1,097,907,230 円
建物	932,174,862 円
構築物	1,385,569 円
その他	2,028,756 円
合計	2,132,203,879 円

[2] 負債

1. 固定負債 金 156,051,025円

種類	金額
退職給与引当金	156,051,025 円
合計	156,051,025 円

2. 流動負債 金 1,469,780,881円

種類	金額
未払金	110,102,225 円
前受金	1,347,971,275 円
仮受金	13,250 円
預り金	11,694,131 円
合計	1,469,780,881 円

3. 収益事業用負債 金 48,500,967円

種類	金額
未払金	13,411,567 円
前受金	7,363,200 円
預り金	27,726,200 円
合計	48,500,967 円

以上

2022年度

学校法人トラベルジャーナル学園

事業報告書

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

○学園理念

本学園は、基本理念を「ホスピタリティ」に置きグローバルな教育サービス事業の展開を通じて地球社会の平和と繁栄に寄与します。

○教育目標

1. 相手の立場に立って考え行動できるホスピタリティ教育
「相手の立場に立って考え行動できる」資質、能力を、学校生活全般、講義、演習、実習、研修旅行、各種行事を通じて身に付ける。
2. 職業現場で活躍できる職業実務実践教育
職業現場で活躍できる能力、健全な職業観、専門知識及び技能を、企業等との連携を通して習得する。
3. 生涯にわたって、教養を高めて、自己啓発ができる動機づけ教育
時代、環境の変化に適応し雇用され続けるために、生涯にわたり自ら学ぶ姿勢を習得する。
4. 地域社会、国際社会で役割を果たせるグローバルな教育
環境や価値観の異なる人たちと相互理解にいたる能力を身につけ、ホスピタリティ産業全体の発展に貢献できる人材となる。

(2) 学校法人の沿革

- 1973年 トラベルジャーナル旅行学院開校
- 1975年 (一社)日本旅行業協会(JATA)推薦校となる
- 1977年 (一社)全国旅行業協会(ANTA)推薦校となる
- 1980年 東京都より学校法人、専修学校として認可され、
トラベルジャーナル旅行専門学校と校名を改める
- 1981年 大阪トラベルジャーナル旅行学院開校
太平洋アジア観光協会(PATA)日本支部推薦校となる
- 1982年 在日外国観光局協議会(ANTOR-JAPAN)推薦校となる
- 1986年 大阪府より専修学校として認可され、
大阪トラベルジャーナル旅行専門学校と校名を改める
アメリカにシアトル校開校
- 1990年 夜間部旅行本科開設
- 1991年 (一社)日本海外ツアーオペレーター協会(OTOA)推薦校となる
海外ホテル協会(OHEA)推薦校となる
- 1992年 オーストラリアにメルボルン校開校
- 1994年 大阪校、トラジャル旅行ホテル専門学校に校名変更
- 2001年 東京日本語文化学校開校
(公社)日本ブライダル文化振興協会(BIA)推薦校となる
- 2002年 (一社)日本添乗サービス協会(TCSA)推薦校となる
- 2007年 学校法人トラベルジャーナル学園に法人名変更

ホスピタリティ ツーリズム専門学校に校名変更

ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪に校名変更

2011年 大阪ブライダル専門学校開校

2012年 オーストラリアのメルボルン校閉校

2013年 東京ブライダル専門学校開校

東京日本語文化学校閉校

2018年 大阪ホテル専門学校開校

大阪テーマパーク・ダンス専門学校開校

2019年 台湾に台北校開校

(4) 学校・学科等の学生数の状況 (2022年4月現在)

(単位:人)

学校名・学科名		入学定員数	収容定員数	現員数		摘要
ホスピタリティ ツーリズム 専門学校	観光科	40	80	1年	19	
				2年	25	
				小計	44	
	ホテル科	60	120	1年	52	
				2年	34	
				小計	86	
	テーマパーク科	60	120	1年	41	
				2年	46	
				小計	87	
	総合英語科	20	40	1年	11	
				2年	19	
				小計	30	
	エアライン科	80	160	1年	57	
				2年	71	
				小計	128	
	鉄道科	40	80	1年	51	
				2年	47	
				小計	98	
東京ブライダル 専門学校	ブライダル科	120	240	1年	87	
				2年	88	
				小計	175	
小計		420	840	1年	318	
				2年	330	
				小計	648	

ホスピタリティ・ツーリズム 専門学校大阪	<昼間部> 観光学科	120	240	1年	49	
				2年	68	
				小計	117	
	<夜間部> 観光学科※1	—	20	1年	—	
				2年	3	
				小計	3	
大阪ブライダル 専門学校	<昼間部> ブライダル学科	90	180	1年	70	
				2年	69	
				小計	139	
	<夜間部> ブライダル学科	40	80	1年	13	
				2年	16	
				小計	29	
大阪ホテル 専門学校	<昼間部> ホテル学科	170	340	1年	77	
				2年	87	
				小計	164	
	<夜間部> ホテル学科	60	120	1年	15	
				2年	29	
				小計	44	
大阪テーマパーク・ ダンス専門学校	<昼間部> テーマパーク学科	80	160	1年	70	
				2年	61	
				小計	131	
	<夜間部> テーマパーク学科	40	80	1年	15	
				2年	15	
				小計	30	
小計		600	1,220	1年	309	
				2年	348	
				小計	657	
アメリカ・台湾 留学中	東京	—	—		30	
	大阪	—	—		27	
合計				1年	627	
				2年	678	
				留学中	57	
				合計	1,362	

※1. 1年生の募集を停止した学科

(5) 施設等の状況

①主な施設設備の状況は次のとおりである。

【校地】

施設等	所在地	面積	帳簿価額	備考
東京校A館敷地	東京都中野区東中野 3-18-11	871.00 m ²	2,219,981,250 円	
東京校B館敷地	東京都中野区東中野 3-17-11	293.64 m ²	993,729,750 円	
大阪校1号館敷地	大阪府大阪市西区江戸堀 2-6-29	565.12 m ²	1,431,803,000 円	
大阪校2号館敷地	大阪府大阪市西区江戸堀 2-1-24	397.65 m ²	1,434,105,000 円	
大阪校3号館敷地	大阪府大阪市西区江戸堀 2-1-25	463.07 m ²	262,049,529 円	
黒磯敷地	栃木県黒磯市青木字大輪地原 35-2 他	3,279.00 m ²	29,320,000 円	
湯河原敷地	静岡県熱海市泉元門川分 88-3-417	56.65 m ²	4,158,256 円	
合計		5,926.13 m ²	6,375,146,785 円	

【校舎】

施設等	面積	帳簿価額	備考
東京校A館	3,994.75 m ²	1,312,248,157 円	
東京校B館	1,149.58 m ²	416,364,970 円	
大阪校1号館	3,063.63 m ²	1,020,295,033 円	
大阪校2号館	2,520.04 m ²	502,377,535 円	
大阪校3号館	2,894.79 m ²	487,340,326 円	
湯河原 構築物	76.76 m ²	26,485,818 円 6,216,146 円	
合計	13,699.55 m ²	3,771,327,985 円	

【収益事業用土地】

施設等	所在地	面積	帳簿価額	備考
ドミール City 東中野	東京都中野区東中野 4-6-6	229.00 m ²	92,854,868 円	
ドミール City 東中野Ⅱ	東京都中野区東中野 3-13-11	416.53 m ²	669,602,362 円	
コーケン関内ビル	神奈川県横浜市中区南仲通 1-5-1	403.56 m ²	335,450,000 円	
合計		1,049.09 m ²	1,097,907,230 円	

【収益事業用建物】

施設等	所在地	面積	帳簿価額	備考
ドミール City 東中野	東京都中野区東中野 4-6-6	1,127.06 m ²	143,079,967 円	
ドミール City 東中野Ⅱ	東京都中野区東中野 3-13-11	1,726.26 m ²	704,516,195 円	
コーケン関内ビル 構築物	神奈川県横浜市中区南仲通 1-5-1	1,835.41 m ²	84,578,700 円 1,385,569 円	
合計		4,688.73 m ²	933,560,431 円	

②主な施設設備の取得及びその進捗状況

特になし

2. 事業の概要

～東京～

(1) 教育の実績

【ホスピタリティ ツーリズム専門学校】

グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は観光業界の将来にとって極めて重要であると考え、引き続き、各科に特化した「業界英会話」を強化しました。

また、一人ひとりの個性を尊重し、多様性・国際感覚を育む教育を推進しており、この方針に基づき全科の共通科目として、各業界や日本・世界のホスピタリティ・SDGs を学ぶ「ホスピタリティ・SDGs 研究」、少人数オーダーメイド式学習法を取り入れて個々の得意なことを探究する「ビジネスプレゼンテーション (BTS)」を導入しました。さらに、東西校のカリキュラムを共有することにより、学生の学びの質向上に取り組みました。

[企業との連携や課外活動等]

新入生に対して実施するホスピタリティ研修では、各業界の職場見学を行い、学生が将来進む業界で働くイメージをより持つことができました。また、公益財団法人日本財団パラスポーツサポートセンター様にご協力いただき、全科でパラスポーツ体験会を行いました。パリ 2024 パラリンピック出場を目指すパラ・パワーリフティング選手の講演会「現役パラアスリートが伝えるグローバルなホスピタリティに必要な3つのこと」を聴講し、全員でボッチャ競技を体験しました。これにより、障害者に対する理解が深まり、支援の大切さを学びました。

<観光科>

12月に旅程管理実務研修として、(株)ツーリズムエキスパーツ様にご協力いただき、添乗員の資格を取得するための研修(浅草、上野、日本橋)を実施しました。添乗員の誘導方法などを学び、添乗員としての実務に触れ、職業選択の参考や職業観が深まりました。

<ホテル科>

1年生全員がホテル企業8社で、夏休み・冬休み期間に、それぞれ企業実習を行いました。現場実習を通して、職業観の育成や企業理解を深めることができ、就職活動の準備となりました。公開授業においては21社35名の方に来校頂き、就職活動を前に貴重な学生と企業の交流の場となりました。

<テーマパーク科>

2年生が成果発表として(株)東京ドーム様にて学生の企画したイベントの運営を行いました。当日は多くのお客様にご参加いただき、イベント運営の流れを実体験で学ぶ事が出来ました。1年生全員がテーマパーク企業18社で、夏休み・冬休み期間にそれぞれ企業実習を行いました。複数の企業で実習を行う事で、企業ごとの業務内容、客層の違いを知り、就職活動の参考とする事が出来ました。

<エアライン科>

(株)JAL スカイ様(職場見学)やANA ブルーベース様(訓練センター)、JAL 安全啓発センター様を訪問し、お客様から見えない部分を見学することができ、目指す業界の理解が深まりました。1年生が12月に成果発表としてホスピタリティスキルコンテスト(グラン

ドスタッフと客室乗務員の対応力を競うコンテスト)を実施しました。航空会社の人事、訓練部の方々(8社10名)も審査員として参加いただき、客観的な評価をいただきました。

<総合英語>

1・2年生が、成果発表としてスピーチコンテストを実施しました。外資系ホテルやクルーズ会社より審査員を招待し、さらにYoutubeで保護者や教員の方に配信し、留学前後のレベルアップを感じていただき、高評価をいただきました。

<クルーズコース>

ゆたか倶楽部様と法人契約(講師)を締結し、業界人からの授業を通じて、業界の理解、職業観の育成を行いました。

<鉄道科>

1年生が、4月より鉄道会社12社のご協力をいただき、朝の通勤時の駅務補助を行う「駅実習」を全員必修で実施しました。9月には、東日本旅客鉄道総合研修センター様のご協力のもとに安全体験見学を行いました。就職に向けて安全への意識を高めることが出来ました。

【東京ブライダル専門学校】

2年間で「成果発表課題解決型学習」を通じて、人間力とコーディネートスキルの習得を目指しました。また、ホスピタリティ ツーリズム専門学校同様、一人ひとりの個性を尊重し、多様性・国際感覚を育む教育を推進しています。

また、昨年に引き続き、企業の人事担当者をお招きした交流会を本校内で実施し、求人の安定確保に努めました。

- ① 成果発表「模擬人前挙式(1年生)」「セールススキルコンテスト(2年生)」を実施しました。成果発表「リアルウェディング(2年生)」ではLGBTQを対象とした、多様性に特化した挙式を挙行しました。
- ② (株)テイクアンドグヴ・ニーズ様と連携し、第一線で活躍されている社員を講師として派遣していただき、毎週1回、放課後に特別授業を実施しました。自身の経験をもとに結婚式の魅力やプランニングについて実践に即した内容を直接指導いただくことで、学生の業界への理解を深めることができました。

(2) 主な資格の取得実績 (※2校合計)

資格名称	取得者数
手話技能検定3級	12名
手話技能検定4級	104名
みんなの外国語検定ゴールド	1名
みんなの外国語検定シルバー	6名
みんなの外国語検定ブロンズ	266名

TOEIC 900 点以上	1 名
TOEIC 800 点以上	4 名
TOEIC 700 点以上	10 名
TOEIC 600 点以上	24 名
TOEIC 500 点以上	26 名
総合旅行業務取扱責任者	2 名
国内旅行業務取扱管理者	3 名
サービス介助士	121 名
ホテルビジネス実務検定ベーシック 2 級	41 名
レストランサービス技能検定 3 級	26 名
フォーマルスペシャリスト検定準 2 級	18 名
AFS フラワースタイリスト検定	55 名
ブライダルコーディネーター技能検定 3 級	126 名

(3) 奨学金の実績 (2 校合計)

【2022 年度入学者に対する奨学金】

① 特待生制度 10 名

筆記試験とグループ面接の結果に応じて支給される奨学金制度

② 指定校推薦入学選考 70 名

指定高校からの推薦入学生に対する奨学金

③ AO入学選考 232 名

同選考を受験した入学生に対する奨学金

④ AO選拔生制度 13 名

AO合格者がプレゼンテーションの結果で支給される奨学金制度

⑤ 英語資格取得奨学金制度 56 名

英語の資格取得に応じて支給される奨学金制度

⑥ 家族推薦奨学金 13 名

入学生の家族が、本校の在校生・卒業生の場合に適用される奨学金

【アメリカ・台湾留学制度生に対する奨学金】

長期留学制度奨学金 30 名

1 年次の出席率等、一定の条件をクリアした留学制度生に対して留学中に適用される奨学金

【外国人留学生に対する奨学金】

私費外国人留学生学習奨励費：1 年生 8 名、2 年生 8 名

日本語資格取得奨学金：1 年生 7 名、2 年生 2 名

(4) 就職の実績

新型コロナウイルスの影響による採用人数の減小、厳選採用に対処すべく、学内での就職セミナーを実施しました。また、オンラインを含めた学内説明会やWEB面接対策などを実施し、学生ごとに指導方法を変えて、より個に特化した指導の強化に努めました。

	ホスピタリティ ツーリズム 専門学校	東京ブライダル 専門学校
就職希望者数	222 名	81 名
就職決定者数	222 名	81 名
内 関連業界就職者	178 名	73 名
その他業界就職者	44 名	8 名

(5) 学生募集 (2023 年度生)

	学 科	入学定員	入学生	充足率
ホスピタリティ ツーリズム 専門学校	観光科	40 名	11 名	27.5%
	ホテル科	60 名	39 名	65.0%
	テーマパーク科	60 名	53 名	88.3%
	総合英語科	20 名	16 名	80.0%
	鉄道科	40 名	50 名	125.0%
	エアライン科	80 名	51 名	63.8%
	小 計	300 名	220 名	73.3%
東京ブライダル 専門学校	ブライダル科	120 名	121 名	100.8%
合 計		420 名	341 名	81.2%

(6) その他

- ① 学生用パソコンの入れ替え購入等により、私立専修学校教育環境整備費助成事業の「教育設備装置整備助成金」として 561 千円を受給することができました。
(ホスピタリティ ツーリズム専門学校)
- ② 自己点検・自己評価の実施により、「私立専修学校教育環境整備費補助金（専修学校評価促進）」として、400 千円（1 校 200 千円）を受給することができました。
- ③ 職業教育の質の向上を図り、多くの専門人材を育成する教育の推進を目的とした「私立専修学校職業実践専門課程推進補助金」として、1,135 千円を受給することができました。(ホスピタリティ ツーリズム専門学校観光科、東京ブライダル専門学校ブライダル科)

～大阪～

(1) 教育の実績

【ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪】

変革が続く観光業界で求められる資質と能力の育成に向け、専門性の高い職業教育と、人間性の涵養を目的とするカリキュラムを提供し、職業観の形成と人間力の向上を目指した教育を実施しました。職業教育として、企業や行政機関のご協力を得た産学連携プログラムや、業界人講演、企業研修を全科で実施し、実践型教育を展開しました。

[企業との連携や課外活動等]

<旅行科>

(一社)全国農協観光協会様、東近江観光協会様との産学連携により、東近江市の地域おこし・町づくりを目的としたツアー企画に取り組み、地域観光の魅力と課題を学びました。

<鉄道サービス科>

JR 東日本総合研修センター様にて安全研修に参加し、鉄道業界における安全管理の重要性について深い学びを得ました。

<エアライン科>

㈱ジェイエア様の客室乗務員の方々から、業界で求められる接客応対についての特別講義をいただき、業界動向や業務内容についての理解を深めることができました。

【大阪ブライダル専門学校】

企業の協力を得た産学連携プログラムによる職業教育と、人間力を磨く教育を柱としたカリキュラムを提供しました。職業教育では、マルチタスクの必要性の高まりにより、職種に偏らない幅広い知識と柔軟性を養いました。コロナ禍で結婚式の価値が見直されたことを背景に、人物重視のカウンセリング力の向上を身につけさせる指導を行いました。

[企業との連携や課外活動等]

- ① 大阪万博記念公園内にある㈱プラネットワーク様の迎賓館の会場をお借りして「ブライダル発表会」を実施し、ブライダル企業 24 社 38 名の方にご来場いただきました。ウエディングプランナーコースは「アフターコロナを見据えた、今後の結婚式のカタチ」をテーマにプレゼンテーションを行い、ブライダル業界の方々に審査員としてご協力いただきました。コスチュームアドバイザーコースは「Time～時～」をテーマにドレスショーを展開しました。10 着のドレスを発表し、企業様に投票いただきました。
- ② ㈱クレ・ドゥ・レーヴとの産学連携により、ブライダルフェアの企画・提案・プレゼンテーションを行いました。現役ウエディングプランナーの方に審査いただき、現場の現状や最新トレンド、お客様のニーズを学び満足度の高い授業となりました。

【大阪ホテル専門学校】

「おもてなしのプロフェッショナル」育成の基盤となる汎用的能力の向上を目的とし、ホスピタリティ科目、産学連携科目に『ICT×アクティブラーニング』を活用したプロジ

ェクト型教育を実施しました。また、企業と連携を図った長期間の現場実習を通して、職業観を育む教育活動に取り組みました。

[企業との連携や課外活動等]

- ① ホテルW大阪様とタイアップし、ロビーフロアの装飾や観光マップの企画・立案・プレゼンテーションを行いました。固定観念に囚われない発想で、現代の社会需要を考慮した学生らしい新提案が生まれたと高評価をいただきました。
- ② ANAクラウンプラザホテル大阪様の全面協力のもと、実践的なレストラン運営を学ぶ機会の提供を行いました。サービスや調理について料理長から直接指導をいただき、おもてなしの極意を学びました。
- ③ ハイアットリージェンシー大阪様とタイアップし、ホテルマナー研修を実施しました。宿泊体験、業界人講演、施設見学、テーブルマナー講習等の研修を通じて、お客様・スタッフ双方の立場から、ホテルの仕事について学びました。

【大阪テーマパーク・ダンス専門学校】

テーマパークスタッフ科では、学生の主体性とオーナーシップマインドの醸成を目的に、グループワークやディベートを重視したカリキュラムを提供しました。また、豊かな表情や、感情表現の手法を体得するため、表現力を育む授業を展開しました。

ダンス・エンターテイナー科では、人前でのパフォーマンス回数を増やし、学生自身で課題を見つけ改善を促すことで、心技体の向上に結び付けることができました。

[企業との連携や課外活動等]

- ① 鈴鹿サーキット・レゴランドジャパン様の施設見学会を実施し、人事担当者や卒業生による会社説明会を開催しました。先輩からの体験談を通して、テーマパークで働く意義や、細かな業務内容を把握することができました。
- ② 鈴鹿サーキット様とタイアップし、鈴鹿サーキットのエンターテイメントショーに出演いたしました。プロと同じステージに立ち、お客様の前でのパフォーマンスを経験することで、魅せる喜びと難しさを学ぶ有意義な機会となりました。
- ③ 名古屋アンパンマンこどもミュージアム様の閉演後のステージにて、学生が企画したダンスショーを披露し、現役エンターテイナーの方々にフィードバックをいただきました。また、現役ステージプロデューサーの方から、オーディションに向けた指導をいただくことができました。

(2) 主な資格の取得実績 (4校合計)

資格名称	取得者数
総合旅行業務取扱管理者	1名
国内旅行業務取扱管理者	14名
ビジネス能力検定ジョブパス3級	205名
アマデウスシステム検定 Specialist	16名
みんなの外国語検定ゴールド	3名

みんなの外国語検定シルバー	8名
みんなの外国語検定ブロンズ	18名
サービス介助士	27名
TOEIC 900点以上	1名
TOEIC 800点以上	4名
TOEIC 700点以上	3名
TOEIC 600点以上	7名
TOEIC 500点以上	12名
ホテルビジネス実務検定ベーシック2級	61名
レストランサービス技能検定3級	46名
サービス接客検定2級	1名
ファミリーアドバイザー検定	74名
全国手話検定4級	73名
全国手話検定5級	86名
ブライダルコーディネーター技能検定3級	105名

(3) 奨学金の実績 (4校合計)

【2022年度入学者に対する奨学金】

- ① 特待生制度 17名
筆記試験とグループ面接の結果に応じて支給される奨学金
- ② 指定校推薦入学選考 11名
指定高校からの推薦入学生に対する奨学金
- ③ AO入学選考 273名
同選考を受験した入学生に対する奨学金
- ④ AO選抜生制度 49名
同選抜において優秀なプレゼンテーションを行った入学生に対する奨学金
- ⑤ 英語資格取得奨学金制度 35名
英語の資格取得に応じて支給される奨学金
- ⑥ 家族推薦奨学金 21名
入学生の家族が、本校の在校生・卒業生の場合に適用される奨学金

【2022年度2年次生に対する奨学金】

- ライセンス奨学金対象者 20名
資格の取得数、難易度に応じてポイントが加算され、規定以上のポイントを取得した学生に適用される奨学金

【アメリカ・台湾留学制度生に対する奨学金】

- 長期留学制度奨学金 27名
1年次の出席率等、一定の条件をクリアした留学制度生に対して留学中に適用される奨学金

【外国人留学生に対する奨学金】

特待生制度：1年生 1名

指定校推薦入学選考：1年生 3名

日本語資格取得奨学金：1年生 5名、2年生 4名

私費外国人留学生学習奨励金：1年生 9名、2年生 21名

(4) 就職の実績

	ホスピタリティ ツーリズム 専門学校大阪	大阪 ブライダル 専門学校	大阪ホテル 専門学校	大阪テーマ パーク・ダンス 専門学校
就職希望者数	71名	81名	109名	74名
就職決定者数	70名	80名	108名	73名
内 関連業界就職者	62名	70名	102名	66名
その他業界就職者	8名	10名	6名	7名

(5) 学生募集 (2023年度生) ※昼間部のみ

	学 科	入学定員	入学生	充足率
ホスピタリティツーリズム 専門学校大阪	観光学科	100名	59名	59.0%
大阪ブライダル 専門学校	ブライダル学科	140名	135名	96.4%
大阪ホテル 専門学校	ホテル学科	150名	87名	58.0%
大阪テーマパーク ・ダンス専門学校	テーマパーク学科	80名	89名	111.3%
	合 計	470名	370名	78.7%

(6) その他

- 私立専修学校専門課程の教員研修と生徒の修学支援に係る体制整備を目的とした「質保証・向上補助金」として、1,195千円を受給することができました(4校合計)
- (一社)日本旅行業協会様主催の「学生と旅行会社を作る海外旅行企画コンテスト」に5チームが参加し、1チームがグランプリ賞(作品名:持続可能な日本をつくるのは私たち!SDGs先進国フィンランド7日間)を受賞しました。(ホスピタリティツーリズム専門学校大阪)

3. その他の主な事業

1) グローバル化の推進

「長期留学制度奨学金」61.8万円の利用で年間学費98万円にて、アメリカ（シアトル）、又は台湾へ1年間長期留学できる制度を導入しています。この長期留学により、語学力（英語、中国語）・国際感覚の優れた学生を当学園からより多く輩出することを目指しています。

<アメリカ長期留学制度>

2022年度はアメリカ（シアトル）にある提携校を受入先として、53名の学生を送り出しました。

【留学から帰国した学生のTOEIC結果】

	東京	大阪	全体
TOEIC 平均点	551 点	574 点	562 点
渡航前の平均点	404 点	380 点	394 点
平均上昇点	151 点	189 点	168 点
最高得点	815 点	885 点	885 点
最高上昇点	255 点	350 点	350 点

<台湾長期留学制度>

2022年度は台湾にある提携校を受け入れ先として4名の学生を送り出しました。

2) 職業実践専門課程

ホスピタリティ ツーリズム専門学校 観光科

東京ブライダル専門学校 ブライダル科

ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪 観光学科

大阪ブライダル専門学校 ブライダル学科

4校は、「職業実践専門課程」に認定されており、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会を通じて外部の業界専門家の意見も参考にしながら教育内容の見直しと充実化に努めました。東京校においては、2022年度にホテル科、テーマパーク科、エアライン科の3科が新たに認定を受けました。

※職業実践専門課程とは、専修学校専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを文部科学大臣が認定して推奨するものです。

3) 修学支援

文部科学省の「高等教育の修学支援新制度（通称：高等教育無償化制度）」の対象校として、本学園が設置する全学校（東京校2校、大阪校4校）が認定されており、東京校98名（授業料減免額45,972,500円）、大阪校148名（授業料減免額66,258,400円）に修学支援を行いました。

4) SDGs（持続可能な開発目標）への取り組み

各学科での学びに加え、国際問題、環境問題、人権問題などを通して、SDGs の担い手を教育の現場から育成することが求められています。その為には、まずは教職員が SDGs に関する理解を深めるとともに、学校教育を通じて学生への指導と浸透の為の活動に学園全体で取り組んでいます。

5) 外部監査人による会計監査

内部監査については定期的実施しておりますが、学校法人会計や関連法規等に即した適正な会計処理が行われているかを外部の第三者の専門家（公認会計士）にチェックして頂くことで、学園及び学校としての財務の健全性を確保し、学生・保護者へ安心して学ぶことができる学校として認知してもらう為、外部監査人による会計監査を3年連続で実施しました。

6) 施設の有効活用

本学園の施設跡地を活用した賃貸マンション「ドミール City 東中野」、「ドミール City 東中野Ⅱ」を外部業者への一括賃貸方式で運営し、事業用賃貸ビルとして取得した「コーケン関内ビル」を法人向けに賃貸しております。

3棟での賃貸料による収益事業収入を安定確保することにより、学校経営の財政的基盤を強化して教育効果の向上に役立てることを目指しています。

7) 同窓会奨学金の活用

将来目指す業界においてどのように活躍・貢献したいかの明確なビジョンを持っている旺盛な学習意欲のある在校生をサポートする為、卒業生からの同窓会会費の一部を「同窓会奨学金」（各年次で5万円）として、2022年4月より創設しました。2022年度1年生の受給者は15名となりました。

なお、本学園の学校教育に賛同される方に広く寄付金を募り、寄付者が税制上の優遇措置を認められる「特定公益増進法人」の認定を2021年度に受けています。

8) グローバル化の推進

観光・ブライダル業界の第一線で活躍する人材を輩出するリーディングスクールとして、競合他校との明確な差別化をより一層推し進めていく為のグローバル展開を推進しています。2024年度生より実施する全校全学科1年生を対象とする英語学習に特化した1ヵ月間国内留学制度（御殿場キャンプ）だけでなく、希望制である長期留学制度においても幅広い選択肢を追加することとし、2026年度プログラム開始に向けて、2023年3月にハワイ・カピオラニ大学と提携契約を締結しました。2023年度にはメルボルンの大学と提携契約を予定しています。

9) トルコ・シリア大地震への災害支援

2023年2月6日(月)に発生したトルコ・シリア大地震の災害において、被害に遭われた皆様を支援するため、役員・教職員並びに卒業生同窓会からの義援金162,000円を日本赤十字社へ寄付させて頂きました。

10) ハラスメント防止への取り組み

すべての教職員と学生等の人権が尊重され、ハラスメントのない環境で教育しやすく、働きやすい職場を守ることを目指す為、2022年4月1日よりハラスメントの防止等に関する規程及びガイドラインを策定し、学内での啓蒙活動に努めています。

4. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 事業活動収支計算書の状況

事業活動収入計は23億701万円、予算比で3,209万円増加し、事業活動支出計は22億1,587万円、予算比で5,876万円減少しました。その結果、基本金組入前当年度収支差額は9,113万円、予算比で9,084万円の増加となりました。

《教育活動収支》

教育活動収入計は21億7,521万円、予算比で558万円増加し、教育活動支出計は22億780万円、予算比で6,683万円減少しました。その結果、教育活動収支差額は▲3,259万円、予算比で7,241万円増加しました。主な内訳は以下の通りです。

- 1) 学生生徒納付金は、進級者が予測数より増加したため、20億3,940万円となり、予算比で1,586万円増加しました。
- 2) 手数料は、入学検定料において受験者が予想数より減少したため、1,595万円となり、予算比で112万円減少しました。
- 3) 雑収入は、学生から徴収している卒業アルバム代を会計処理の変更により卒業アルバム制作費と相殺したため、361万円となり、予算比で343万円減少しました。
- 4) 人件費は、教職員の退職・休職による補充を行わなかったことにより、8億6,067万円となり、予算比で5,144万円減少しました。
- 5) 教育研究経費・管理経費は、電気代等の高騰による光熱水費の増加、校舎改修による修繕費が増加しましたが、新型コロナウイルスの影響により国内外での課外活動や各種イベント、学生募集における高校訪問ガイダンスが一部実施できなかったため、合計13億4,713万円となり、予算比で1,539万円減少しました。

《教育活動外収支》

教育活動外収入計は1億3,111万円、予算比で2,983万円増加し、教育活動外支出はありませんでしたので、教育活動外収支差額は1億3,111万円となりました。

《経常収支差額》

上述の結果、経常収支差額は9,852万円、予算比で1億224万円増加しました。

《特別収支》

特別収入計は68万円、予算比で332万円減少し、特別支出計は予算比で807万円増加した結果、特別収支差額は▲739万円、予算比で1,139万円減少しました。

② 貸借対照表の状況

留学資金引当特定資産は、アメリカ留学制度における現地への委託費用の支払用として調達し保有しているドル建て資金を新たに特定資産に計上しています。現預金は、留学資金特定資産へ振り替えを行ったため減少しました。

③ 収益事業の状況

ドミール City 東中野、ドミール City 東中野Ⅱ、コーケン関内ビルの3棟の賃貸事業に関わるものです。売上高は1億1,761万円、販売費及び一般管理費は6,772万円、営業外収益は18万円となりました。その結果、経常利益は5,007万円となりました。

(2) 主な財務比率比較

(%)

比率名	算式	2022年度	全国平均※2	比較した場合
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{経常収入}}$	88.4	79.0	—
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	37.3	42.5	低い方が良い
教育研究・管理経費比率	$\frac{\text{教育研究(管理)経費}}{\text{経常収入}}$	58.4	45.4	高い方が良い
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産 ※1}}$	8.7	21.5	低い方が良い

※1 純資産＝基本金＋繰越収支差額

※2 2020年度数値（専修学校全国平均：「今日の私学財政」専修学校各種学校編参照）

監査報告書

2023年5月18日

学校法人 トラベルジャーナル学園

理事会 御中

評議員会 御中

学校法人 トラベルジャーナル学園

監事 芦田 哲也 

監事 平鹿 雅之 

私たちは、学校法人トラベルジャーナル学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて、同学園の2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)における事業報告書、財産目録及び計算書類を含め、学校法人の業務及び財産並びに理事の業務執行の状況について監査を行いました。

監査の結果、学校法人の業務及び財産並びに理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄付行為に違反する重大な事実のないことを認めます。

以上



ホスピタリティーツーリズム専門学校
情報公開資料

－自己評価報告書－

学校法人トラベルジャーナル学園

**2021年度
ホスピタリティ ツーリズム専門学校
自己評価報告書**

2022年 7月

**学校法人トラベルジャーナル学園
ホスピタリティ ツーリズム専門学校**

■学園の現況

(1) 学校名及び設置者

学校名 : 学校法人トラベルジャーナル学園 ホスピタリティ ツーリズム専門学校
設置者 : 森谷 博
校長 : 内菌 幸一

(2) 所在地及び認可年月日

所在地 : 東京都中野区東中野 3 丁目 18 番 11 号
設立日 : 昭和 48 年 10 月 1 日
学校法人認可日 : 昭和 55 年 3 月 10 日
専修学校認可日 : 昭和 55 年 3 月 10 日

(3) 沿革と特色

学校法人トラベルジャーナル学園が運営するホスピタリティ ツーリズム専門学校は、海外旅行の自由化と東京オリンピック開催（1964 年）に伴い、旅行業界の「即戦力として活躍できる人材」の育成要望に応え、1973 年 3 月に創立した。設立時は旅行業界への人材を育成する教育機関であったが、その後、ホテル、テーマパーク、エアライン、空港ならびに航空貨物、鉄道業界の人材育成を行う学科を開講する一方、夜間部も開講し、ホスピタリティならびにツーリズム産業全般の人材育成を行う総合専門学校へと成長した。こうした学校の変容に対し、校舎移転、校名変更を行い、2013 年に創立 40 年を迎え、学園全体で卒業生約 44,000 名（2020 年 3 月卒業生含む）を数える学校となった。

■学園理念

本学は、基本理念を「ホスピタリティ」に置き、グローバルな教育サービス事業の展開を通じて、地球社会の平和と繁栄に寄与します。

■教育理念

グローバルな視点を持ち、職場現場でホスピタリティを実践し、人と社会に貢献できる人財を育成します。

■学校の教育方針・目標

私たちは、観光・サービス業界で求められるプロフェッショナルを育成するため、4つの教育を行います。

1. 相手の立場に立って考え、行動できるホスピタリティ教育
2. 職業現場で活躍できる職業実務実践教育
3. 生涯にわたって、教養を高め、自己啓発ができる動機づけ教育
4. 地域社会、国際社会で役割を果たせるグローバルな教育

ホスピタリティとは、「おもてなし」や「心くばり」、「思いやり」を意味し、本学ではホスピタリティを「相手の立場に立って考え行動する」と定義づけ、すべての教育行為の根幹としている。このホスピタリティの実現のためには、学生だけではなく、それを教育する教職員にもホスピタリティ能力の習得を求めており、学生及び教職員全体での取り組みにより、ホスピタリティマインドの習得を目指している。

基準1 教育理念 目標

(1) 評価項目

	評価項目	優れている…3 適切…2 不適切…1
01	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	2
02	学校における職業教育の特色があるか	3
03	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
04	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
05	各学科の教育目標、育成人材像は、学科などに対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	2

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

本学は、教育理念、教育目的、教育目標等は明確なビジョンを定め、常に変化する社会経済のニーズを反映し、広くビジネス社会で必要とされる能力（共通科目）と対象業界で必要とされる能力（専門科目）をカリキュラム導入し教育を展開している。今後、世界各国から様々な方が多数訪日されることを想定し、英語や手話など接客能力向上のための科目を導入強化し「02」を評価3とした。また「03」に関しては、変化に対応するために新学校や新学科を学内プロジェクトにおいて検討するなど、業界ニーズの獲得を行っており、評価3とした。学生へのボランティア活動を促進するため、教職員によるボランティア教育促進プロジェクトを発足、2019年度から、パラスポーツの見学会、体験会を実施した。「04」に関して評価を3とした。保護者通信発行（年2回）、保護者向け就職説明会（1年次）、保護者向け留学説明会を実施し、情報提供と連携を密にしている。保護者通信では、学校行事や学校生活の紹介、就職活動状況、主要資格検定結果報告、各学科別に活動状況を報告している。また、就職説明会では、各科毎に今後の活動スケジュールや、業界特性を説明、進路決定までの協調をお願いしている。

基準2 学校運営

(1) 評価項目

	評価項目	優れている…3 適切…2 不適切…1
01	目的等に沿った運営方針が策定されているか	2
02	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	2
03	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	2
04	人事・給与に関する規定等は整備されているか	2
05	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	2
06	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	2
07	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	2
08	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

本学においては、年度毎に学園理念に基づいた事業計画を部門単位で策定し、理事会において実施状況の精査が行われている。また意思決定の流れや人事給与規定、個人情報保護、研修に関しては、すべて就業規則、規定集、内規、学園内通達等において規定され、組織的に取り組んでいる。

「08」は基幹システムにより、入学から卒業までの学籍を一元管理している他、学園全体の情報共有を目的としたグループウェアと、担任と学生が相互に活用できるコミュニケーションツール及び授業支援アプリ（Microsoft Teams、ロイロノート・スクール）を導入し、情報の一斉配信や限定した対象者への情報発信が可能となり、効率化が図れたため評価3とした。

基準3 教育活動

(1) 評価項目

	評 価 項 目	優れている…3 適切…2 不適切…1	
01	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2	
02	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2	
03	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	2	
04	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	
05	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	
06	関連分野における実践的な職業教育（産学接続によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3	
07	授業評価の実施・評価体制はあるか	2	
08	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	
09	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	2	
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	2	
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2	
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3	
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	2	
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

本学の編成するカリキュラムに関しては、学園の教育理念と社会経済の変化を考慮し、ホスピタリティをベースに社会人として必須の能力を「共通科目」、対象業界で必要としている専門の能力を「専門科目」と位置付け、各科目の学習目標や評価方法、取得目標資格をシラバスに明記し全学生に履修させている。カリキュラムの編成は、各業界出身者または業界から派遣された講師が行っている。「04」

について今後の業界における IT 及び AI 活用の必然性から、2021 年度より全科へのタブレット端末導入し、テキスト等教材のデジタル化、授業支援アプリを活用し教材の配布や質疑応答をタブレット活用する工夫をおこなっており、評価を 3 とした。

「05」に関しては評価を 3 とした。2014 年度から職業実践専門課程教育編成委員会を組織し、業界で求められる人材教育について企業様と意見交換を実施し、カリキュラムの作成、見直しを行っている。「06」は評価を 3 とした。各科が単位化し実践的に実施している職業教育は下表の通りである。

科	実践的職業教育（産学連携インターン、実技・実習等）
観光科	企業実習（1 年次夏期：旅行会社 10 社にて予約・出発サポート業務を実習）
ホテル科	企業実習（1 年次夏期：ホテル 5 社／1 年次冬期：ホテル 6 社において、宿泊及び料飲業務を実習）
テーマパーク科	企業実習（1 年次夏期：テーマパーク 8 社において、案内・販売スタッフとして実習）
総合英語科	企業実習（1 年次夏期：英語を必要とする観光業界において実習） ※コロナ禍により 2021 年度は未実施
エアライン科	企業実習（1 年次夏期：航空会社 7 社においてグランドスタッフ、機内清掃、機内ケータリングの実習、航空会社 2 社において週 1 回グランドハンドリング業務の実習） ※コロナ禍により 2021 年度は未実施
鉄道科	企業実習（1 年次通年：鉄道会社 6 社において駅務を実習）

「08」は評価を 3 とした。各科が外部関係者から評価を取り入れ実施している職業教育は下表の通りである。

科	外部評価を取り入れている職業教育
観光科	国内旅程管理主任者研修（TEI）、リアルツアー企画演習（中野区・常陸太田市・農協観光）、インバウンドバスツアー研修（ODA JAPAN）、公開授業（小田急トラベル、JTBガイヤレックなど 16 社）
ホテル科	ホテルワークセッション 6 社（コンラッド東京・(株)森ビルホスピタリティコーポレーション・(株)パレスホテル・ハレクラニ沖縄・HOTEL THE MITSUI KYOTO） 公開授業（The Okura Tokyo・ハイアットリージェンシー東京・ザ・リッツ・カールトン日光など 10 社参加予定）※新型コロナの影響により中止
テーマパーク科	舞台発表（キッズニア、サンリオなど 16 社）、テーマパークサービス提案（ツインリンクもてぎ）※2021 年度コロナ禍により未招待
総合英語科	英語スピーチコンテスト（フィリピン大使館、株式会社ティエフケー）※2021 年度コロナ禍により未招待
エアライン科	スキルコンテスト、CSR 提案（全日本空輸、日本航空など 9 社） 国際空港貨物取扱士研修（JALカードサービス）
鉄道科	鉄道安全体験研修（JR 東日本総合研修センター）、運転シミュレーター研修（鉄道博物館）、車掌業務体験研修（上信電鉄）

「12」の評価を3とした。2019年度より、エアライン科での3社の業界企業と出向者契約を結び、現役で業務を行っている社員を講師として受け入れ、授業及び担任業務、就職指導まで担当させている。授業満足度の向上のみならず、産学連携強化による就職強化が図れている。世間に認知のある企業との繋がりを対外的に見せることにより募集強化にも繋がっている。

基準4 学修成果

(1) 項目評価

	評 価 項 目	優れている…3 適切…2 不適切…1	
		01	就職率の向上が図られているか
02	資格取得率の向上が図られているか	2	
03	退学率の低減が図られているか	3	
04	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2	
05	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2	

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

就職指導については、各業界を担当に持つ専任スタッフが業務として行い、採用ならびに求人情報の獲得、学内説明会の誘致、学生への個別指導などを行っている。2019年度の就職希望者に対する就職決定率は100%、卒業生数に対する就職決定率は98%と高水準を維持しているため、「01」の評価を3とした。

資格検定については、「共通科目」の中で全学生が取得目標とするものと、各科で取得目標とするものに分け、さらに英語に関してはレベル別授業を展開し、資格取得を奨励している。

「03」退学率低減の理由として、従来のクラス担任による年間2回の面談に加え、2013年度より教職員にカウンセリング講座の受講を進め、全教職員がカウンセリング資格を取得し様々な問題を抱えた学生に対応できる体制（バディティーチャー）を目指している。

「04」「05」卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価の把握について、評価を2とした。2016年から毎年科別に同窓会を企画実施することとし、2016年11月に観光科（旅行科）、2017年11月エアライン科、2018年11月ホテル科の同窓会を実施。2019年度より、毎年就職数の多い重点企業に内定した学生に対し、企業カルテ及び学生カルテを作成し、就業定着フォローアップ体制を構築、卒業生の早期離職を防止するため、在校中から卒業後最低1年間は定期的に連絡を取り合い、問題の早期発見に努め、卒業生の社会人としての自立を促している。

基準5 学生支援

(1) 項目評価

	評価項目	優れている…3 適切…2 不適切…1	
01	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3	
02	学生相談に関する体制は整備されているか	3	
03	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2	
04	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2	
05	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2	
06	学生の生活環境への支援は行われているか	2	
07	保護者と適切に連携しているか	3	
08	卒業生への支援体制はあるか	2	
09	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2	
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア・職業教育の取組が行われているか	2	

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

学生の学校生活を支援する体制は、就職担当、クラス担任、バディティーチャー、学生課が中心となっており、相談室、保健室などの施設を有している。

「01」に関しては、各業界を担当に持つ専任スタッフが業務として行い、求人情報の獲得、学内説明会の誘致、学生への個別指導などを行っているため評価3とした。

「02」は教職員のカウンセリング講座の受講と全教職員のカウンセリング資格取得を目指しており、様々な問題を抱えた学生に対応できる体制を構築しつつあるため、評価3とした。

学生の経済的および生活環境への支援に関しては学生課が中心となって、学費の納入や研修先企業の紹介など経済的および生活支援などの相談に応じている。

保護者に対しては、学生の成績表を送付し学習状況の報告（年2回）を実施している。情報提供と連携を密にしている。事故発生時の対応について内規化し、学生に問題が発生した場合の教職員の早期対応を行っている。卒業生に対しては、就業斡旋の他、同窓会組織の設立と同窓会実施、卒業生向け機関紙を発行し、卒業後の交流も盛んである。

基準6 教育環境

(1) 項目評価

	評価項目	優れている…3 適切…2 不適切…1
01	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	3
02	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
03	防災に対する体制は整備されているか	2

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

ホスピタリティ産業に特化した専門学校として、観光科、ホテル科、テーマパーク科、総合英語科、エアライン科（グラウンドスタッフコース・キャビンアテンダントコース・エアポートオペレーションコース）、鉄道科の6科を有しており、学内に演習または実技の施設を有しており、「01」は評価3とした。

- ・観光科 : カウンター実習室
- ・ホテル科 : レストラン実習室×2 フロント実習室及び客室
- ・テーマパーク科 : テーマパーク実習室×2
- ・エアライン科 : モックアップ及びチェックインカウンター実習室
- ・鉄道科 : 鉄道運転シミュレーター室
- ・総合英語科 : 語学実習室
- ・その他 : PC教室×2、サービス介助実習室、図書室、学生ラウンジ及び自習室

また、企業実習・課外活動・成果発表・研修旅行（海外）をカリキュラム編成するとともに、外国人留学生に加え海外就業を希望する学生に対応するため、就職課とは別に部署を設け、就業先の拡大を海外にまで広げており、評価3とした。

東日本大震災の教訓から、防災マニュアルを見直し策定し、一方、教職員や学生、近隣住民に対し、備蓄品を確保し備えている。また、入学時には中野区消防署に依頼し避難訓練を全学生対象に実施し、防災教育を施している。

基準7 学生の受入れ募集

(1) 項目評価

	評価項目	優れている…3 適切…2 不適切…1
01	学生募集活動は、適正に行われているか	3
02	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2
03	学納金は妥当なものとなっているか	2

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

「01」及び「02」については、募集開始時期やパンフレットの記載内容等、関係機関との申し合わせに基づき、適正に行われている。教育成果に関しても、事実や実績に基づいた正確な情報をホームページや追加送付物等で適宜発信している。

「03」は本校の教育内容を鑑みて、妥当なものと判断する。

基準 8 財務

(1) 項目評価

	評 価 項 目	優れている…3	
		適切…2	不適切…1
01	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	
02	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2	
03	財務について会計監査が適正に行われているか	2	
04	財務情報公開の体制整備はできているか	2	

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

「01」については、無借金による学校運営を実現しており、中長期的にも盤石な体制となっている。

「02」は部門毎・月次毎の予算・実績精査が役員会において毎月なされており、有効かつ妥当なものとなっている。

「03」は監査法人の公認会計士による監査を実施している。

「04」は2013年度分より公開している。

基準 9 法令等の遵守

(1) 項目評価

	評 価 項 目	優れている…3	
		適切…2	不適切…1
01	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	
02	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2	
03	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	2	
04	自己評価結果を公開しているか	2	

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

法令の遵守と適正な運営をおこなっているが、2018年度より新たに教職員の倫理規定を定め、人権（ハラスメントなど）や情報漏洩（SNSなど）に教育者として守るべき規範を定めた。

個人情報に関しては、就業規則で規定している他、ICカードによるPCセキュリティを導入していることと、学生と教職員のネットワークを分けており、不正アクセスと情報の漏えいを防いでいる。自己評価に関しては、毎年実施している。

基準 10 社会貢献・地域貢献

(1) 項目評価

	評 価 項 目	優れている…3	
		適切…2	不適切…1
01	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2	
02	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2	
03	地域社会との連携、協力体制をとっているか	2	

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

当項目については、中野区や近隣小学校のPTA、町内会からの要請で、学生ボランティアを派遣し、学修成果を発表し、引き続き好評をいただいている。また非常時に備え、備蓄品を保有し施設として提供の用意がある。結果、総合的評価として適切であると考えている。2015年度よりボランティアサークルを発足させ、ボランティア活動への学生参加を促進した。近隣清掃、神奈川県湘南地区ビーチクリーン活動、東京マラソン運営サポート、熊本地震復興支援（熊本県阿蘇地区内牧温泉）などを行った。

基準 11 国際交流

(1) 項目評価

	評 価 項 目	優れている…3	
		適切…2	不適切…1
01	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3	
02	留学生の受入れ・派遣、在籍管理などにおいて適切な手続き等がとられているか	3	
03	留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3	

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

本校は入学前から一貫した体制をとっており、外国人留学生の受け入れは、募集・教育・事務部門のそれぞれで留学生の担当者を置き、募集に関しては日本語学校との連携により、入学後はクラス担任により学習や生活の指導、各業界を担当に持つ専任スタッフが就職進路指導を行っている。また、学生課では入国管理局との事務折衝を実施している。日本人学生の海外派遣に関しては留学を制度化しており、アメリカ（シアトル）、台湾に現地法人を設置し、毎年留学生を多数派遣しているため、評価3とした。

以上



ホスピタリティツーリズム専門学校
情報公開資料

－学校関係者評価結果－

学校法人トラベルジャーナル学園

2021年度
ホスピタリティ ツーリズム専門学校

学校関係者評価報告

2022年 7月

学校法人トラベルジャーナル学園
ホスピタリティ ツーリズム専門学校

■学園の現況

(1) 学校名及び設置者

学校名 : 学校法人トラベルジャーナル学園 ホスピタリティ ツーリズム専門学校
設置者 : 森谷 博
校長 : 内菌 幸一

(2) 所在地及び認可年月日

所在地 : 東京都中野区東中野3丁目18番11号
設立日 : 昭和48年10月1日
学校法人認可日 : 昭和55年3月10日
専修学校認可日 : 昭和55年3月10日

(3) 沿革と特色

学校法人トラベルジャーナル学園が運営するホスピタリティ ツーリズム専門学校は、海外旅行の自由化と東京オリンピック開催（1964年）に伴い、旅行業界の「即戦力として活躍できる人材」の育成要望に応え、1973年3月に創立した。設立時は旅行業界への人材を育成する教育機関であったが、その後、ホテル、テーマパーク、エアライン、空港ならびに航空貨物、鉄道業界の人材育成を行う学科を開講する一方、夜間部も開講し、ホスピタリティならびにツーリズム産業全般の人材育成を行う総合専門学校へと成長した。こうした学校の変容に対し、校舎移転、校名変更を行い、2013年に創立40年を迎え、学園全体で卒業生約44,000名（2020年3月卒業生含む）を数える学校となった。

■学園理念

本学は、基本理念を「ホスピタリティ」に置き、グローバルな教育サービス事業の展開を通じて、地球社会の平和と繁栄に寄与します。

■教育理念

グローバルな視点を持ち、職場現場でホスピタリティを実践し、人と社会に貢献できる人財を育成します。

■学校の教育方針・目標

私たちは、観光・サービス業界で求められるプロフェッショナルを育成するため、4つの教育を行います。

1. 相手の立場に立って考え、行動できるホスピタリティ教育
2. 職業現場で活躍できる職業実務実践教育
3. 生涯にわたって、教養を高め、自己啓発ができる動機づけ教育
4. 地域社会、国際社会で役割を果たせるグローバルな教育

ホスピタリティとは、「おもてなし」や「心くばり」、「思いやり」を意味し、本学ではホスピタリティを「相手の立場に立って考え行動する」と定義づけ、すべての教育行為の根幹としている。このホスピタリティの実現のためには、学生だけではなく、それを教育する教職員にもホスピタリティ能力の習得を求めており、学生及び教職員全体での取り組みにより、ホスピタリティマインドの習得を目指している。

基準1 教育理念 目標

(1) 評価項目

	評価項目	優れている…3 適切…2 不適切…1
01	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	2
02	学校における職業教育の特色があるか	3
03	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
04	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
05	各学科の教育目標、育成人材像は、学科などに対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	2

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

本学は、教育理念、教育目的、教育目標等は明確なビジョンを定め、常に変化する社会経済のニーズを反映し、広くビジネス社会で必要とされる能力（共通科目）と対象業界で必要とされる能力（専門科目）をカリキュラム導入し教育を展開している。今後、世界各国から様々な方が多数訪日されることを想定し、英語や手話など接客能力向上のための科目を導入強化し「02」を評価3とした。また「03」に関しては、変化に対応するために新学校や新学科を学内プロジェクトにおいて検討するなど、業界ニーズの獲得を行っており、評価3とした。学生へのボランティア活動を促進するため、教職員によるボランティア教育促進プロジェクトを発足、2019年度から、パラスポーツの見学会、体験会を実施した。「04」に関して評価を3とした。保護者通信発行（年2回）、保護者向け就職説明会（1年次）、保護者向け留学説明会を実施し、情報提供と連携を密にしている。保護者通信では、学校行事や学校生活の紹介、就職活動状況、主要資格検定結果報告、各学科別に活動状況を報告している。また、就職説明会では、各科毎に今後の活動スケジュールや、業界特性を説明、進路決定までの協調をお願いしている。

基準2 学校運営

(1) 評価項目

	評価項目	優れている…3 適切…2 不適切…1
01	目的等に沿った運営方針が策定されているか	2
02	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	2
03	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	2
04	人事・給与に関する規定等は整備されているか	2
05	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	2
06	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	2
07	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	2
08	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

本学においては、年度毎に学園理念に基づいた事業計画を部門単位で策定し、理事会において実施状況の精査が行われている。また意思決定の流れや人事給与規定、個人情報保護、研修に関しては、すべて就業規則、規定集、内規、学園内通達等において規定され、組織的に取り組んでいる。

「08」は基幹システムにより、入学から卒業までの学籍を一元管理している他、学園全体の情報共有を目的としたグループウェアと、担任と学生が相互に活用できるコミュニケーションツール及び授業支援アプリ（Microsoft Teams、ロイロノート・スクール）を導入し、情報の一斉配信や限定した対象者への情報発信が可能となり、効率化が図れたため評価3とした。

基準3 教育活動

(1) 評価項目

	評価項目	優れている…3 適切…2 不適切…1	
01	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2	
02	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2	
03	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	2	
04	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	
05	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	
06	関連分野における実践的な職業教育（産学接続によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3	
07	授業評価の実施・評価体制はあるか	2	
08	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	
09	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	2	
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	2	
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2	
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3	
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	2	
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

本学の編成するカリキュラムに関しては、学園の教育理念と社会経済の変化を考慮し、ホスピタリティをベースに社会人として必須の能力を「共通科目」、対象業界で必要としている専門の能力を「専門科目」と位置付け、各科目の学習目標や評価方法、取得目標資格をシラバスに明記し全学生に履修させている。カリキュラムの編成は、各業界出身者または業界から派遣された講師が行っている。「04」

について今後の業界における IT 及び AI 活用の必然性から、2021 年度より全科へのタブレット端末導入し、テキスト等教材のデジタル化、授業支援アプリを活用し教材の配布や質疑応答をタブレット活用する工夫をおこなっており、評価を 3 とした。

「05」に関しては評価を 3 とした。2014 年度から職業実践専門課程教育編成委員会を組織し、業界で求められる人材教育について企業様と意見交換を実施し、カリキュラムの作成、見直しを行っている。「06」は評価を 3 とした。各科が単位化し実践的に実施している職業教育は下表の通りである。

科	実践的職業教育（産学連携インターン、実技・実習等）
観光科	企業実習（1 年次夏期：旅行会社 10 社にて予約・出発サポート業務を実習）
ホテル科	企業実習（1 年次夏期：ホテル 5 社／1 年次冬期：ホテル 6 社において、宿泊及び料飲業務を実習）
テーマパーク科	企業実習（1 年次夏期：テーマパーク 8 社において、案内・販売スタッフとして実習）
総合英語科	企業実習（1 年次夏期：英語を必要とする観光業界において実習） ※コロナ禍により 2021 年度は未実施
エアライン科	企業実習（1 年次夏期：航空会社 7 社においてグランドスタッフ、機内清掃、機内ケータリングの実習、航空会社 2 社において週 1 回グランドハンドリング業務の実習） ※コロナ禍により 2021 年度は未実施
鉄道科	企業実習（1 年次通年：鉄道会社 6 社において駅務を実習）

「08」は評価を 3 とした。各科が外部関係者から評価を取り入れ実施している職業教育は下表の通りである。

科	外部評価を取り入れている職業教育
観光科	国内旅程管理主任者研修（TEI）、リアルツアー企画演習（中野区・常陸太田市・農協観光）、インバウンドバスツアー研修（ODA JAPAN）、公開授業（小田急トラベル、JTBガイヤレックなど 16 社）
ホテル科	ホテルワークセッション 6 社（コンラッド東京・(株)森ビルホスピタリティコーポレーション・(株)パレスホテル・ハレクラニ沖縄・HOTEL THE MITSUI KYOTO） 公開授業（The Okura Tokyo・ハイアットリージェンシー東京・ザ・リッツ・カールトン日光など 10 社参加予定）※新型コロナの影響により中止
テーマパーク科	舞台発表（キッザニア、サンリオなど 16 社）、テーマパークサービス提案（ツインリンクもてぎ）※2021 年度コロナ禍により未招待
総合英語科	英語スピーチコンテスト（フィリピン大使館、株式会社ティエフケー）※2021 年度コロナ禍により未招待
エアライン科	スキルコンテスト、CSR 提案（全日本空輸、日本航空など 9 社） 国際空港貨物取扱士研修（JALカードサービス）
鉄道科	鉄道安全体験研修（JR 東日本総合研修センター）、運転シミュレーター研修（鉄道博物館）、車掌業務体験研修（上信電鉄）

「12」の評価を3とした。2019年度より、エアライン科での3社の業界企業と出向者契約を結び、現役で業務を行っている社員を講師として受け入れ、授業及び担任業務、就職指導まで担当させている。授業満足度の向上のみならず、産学連携強化による就職強化が図れている。世間に認知のある企業との繋がりを対外的に見せることにより募集強化にも繋がっている。

基準4 学修成果

(1) 項目評価

	評価項目	優れている…3 適切…2 不適切…1
01	就職率の向上が図られているか	3
02	資格取得率の向上が図られているか	2
03	退学率の低減が図られているか	3
04	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
05	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

就職指導については、各業界を担当に持つ専任スタッフが業務として行い、採用ならびに求人情報の獲得、学内説明会の誘致、学生への個別指導などを行っている。2019年度の就職希望者に対する就職決定率は100%、卒業生数に対する就職決定率は98%と高水準を維持しているため、「01」の評価を3とした。

資格検定については、「共通科目」の中で全学生が取得目標とするものと、各科で取得目標とするものに分け、さらに英語に関してはレベル別授業を展開し、資格取得を奨励している。

「03」退学率低減の理由として、従来のクラス担任による年間2回の面談に加え、2013年度より教職員にカウンセリング講座の受講を進め、全教職員がカウンセリング資格を取得し様々な問題を抱えた学生に対応できる体制（バディティーチャー）を目指している。

「04」「05」卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価の把握について、評価を2とした。2016年から毎年科別に同窓会を企画実施することとし、2016年11月に観光科（旅行科）、2017年11月エアライン科、2018年11月ホテル科の同窓会を実施。2019年度より、毎年就職数の多い重点企業に内定した学生に対し、企業カルテ及び学生カルテを作成し、就業定着フォローアップ体制を構築、卒業生の早期離職を防止するため、在校中から卒業後最低1年間は定期的に連絡を取り合い、問題の早期発見に努め、卒業生の社会人としての自立を促している。

基準5 学生支援

(1) 項目評価

	評価項目	優れている…3 適切…2 不適切…1	
		01	進路・就職に関する支援体制は整備されているか
02	学生相談に関する体制は整備されているか	3	
03	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2	
04	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2	
05	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2	
06	学生の生活環境への支援は行われているか	2	
07	保護者と適切に連携しているか	3	
08	卒業生への支援体制はあるか	2	
09	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2	
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア・職業教育の取組が行われているか	2	

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

学生の学校生活を支援する体制は、就職担当、クラス担任、バディティーチャー、学生課が中心となっており、相談室、保健室などの施設を有している。

「01」に関しては、各業界を担当に持つ専任スタッフが業務として行き、求人情報の獲得、学内説明会の誘致、学生への個別指導などを行っているため評価3とした。

「02」は教職員のカウンセリング講座の受講と全教職員のカウンセリング資格取得を目指しており、様々な問題を抱えた学生に対応できる体制を構築しつつあるため、評価3とした。

学生の経済的および生活環境への支援に関しては学生課が中心となって、学費の納入や研修先企業の紹介など経済的および生活支援などの相談に応じている。

保護者に対しては、学生の成績表を送付し学習状況の報告（年2回）を実施している。情報提供と連携を密にしている。事故発生時の対応について内規化し、学生に問題が発生した場合の教職員の早期対応を行っている。卒業生に対しては、就業斡旋の他、同窓会組織の設立と同窓会実施、卒業生向け機関紙を発行し、卒業後の交流も盛んである。

基準6 教育環境

(1) 項目評価

	評 価 項 目	優れている…3 適切…2 不適切…1
01	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	3
02	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
03	防災に対する体制は整備されているか	2

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

ホスピタリティ産業に特化した専門学校として、観光科、ホテル科、テーマパーク科、総合英語科、エアライン科（グラウンドスタッフコース・キャビンアテンダントコース・エアポートオペレーションコース）、鉄道科の6科を有しており、学内に演習または実技の施設を有しており、「01」は評価3とした。

- ・観光科 : カウンター実習室
- ・ホテル科 : レストラン実習室×2 フロント実習室及び客室
- ・テーマパーク科 : テーマパーク実習室×2
- ・エアライン科 : モックアップ及びチェックインカウンター実習室
- ・鉄道科 : 鉄道運転シミュレーター室
- ・総合英語科 : 語学実習室
- ・その他 : PC教室×2、サービス介助実習室、図書室、学生ラウンジ及び自習室

また、企業実習・課外活動・成果発表・研修旅行（海外）をカリキュラム編成するとともに、外国人留学生に加え海外就業を希望する学生に対応するため、就職課とは別に部署を設け、就業先の拡大を海外にまで広げており、評価3とした。

東日本大震災の教訓から、防災マニュアルを見直し策定し、一方、教職員や学生、近隣住民に対し、備蓄品を確保し備えている。また、入学時には中野区消防署に依頼し避難訓練を全学生対象に実施し、防災教育を施している。

基準7 学生の受入れ募集

(1) 項目評価

	評 価 項 目	優れている…3 適切…2 不適切…1
01	学生募集活動は、適正に行われているか	3
02	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2
03	学納金は妥当なものとなっているか	2

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

「01」及び「02」については、募集開始時期やパンフレットの記載内容等、関係機関との申し合わせに基づき、適正に行われている。教育成果に関しても、事実や実績に基づいた正確な情報をホームページや追加送付物等で適宜発信している。

「03」は本校の教育内容を鑑みて、妥当なものと判断する。

基準 8 財務

(1) 項目評価

	評 価 項 目	優れている…3	
		適切…2	不適切…1
01	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	
02	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2	
03	財務について会計監査が適正に行われているか	2	
04	財務情報公開の体制整備はできているか	2	

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

「01」については、無借金による学校運営を実現しており、中長期的にも盤石な体制となっている。

「02」は部門毎・月次毎の予算・実績精査が役員会において毎月なされており、有効かつ妥当なものとなっている。

「03」は監査法人の公認会計士による監査を実施している。

「04」は2013年度分より公開している。

基準 9 法令等の遵守

(1) 項目評価

	評 価 項 目	優れている…3	
		適切…2	不適切…1
01	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	
02	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2	
03	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	2	
04	自己評価結果を公開しているか	2	

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

法令の遵守と適正な運営をおこなっているが、2018年度より新たに教職員の倫理規定を定め、人権（ハラスメントなど）や情報漏洩（SNSなど）に教育者として守るべき規範を定めた。

個人情報に関しては、就業規則で規定している他、ICカードによるPCセキュリティを導入していることと、学生と教職員のネットワークを分けており、不正アクセスと情報の漏えいを防いでいる。自己評価に関しては、毎年実施している。

基準 10 社会貢献・地域貢献

(1) 項目評価

	評価項目	優れている…3 適切…2 不適切…1
01	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2
02	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
03	地域社会との連携、協力体制をとっているか	2

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

当項目については、中野区や近隣小学校のPTA、町内会からの要請で、学生ボランティアを派遣し、学修成果を発表し、引き続き好評をいただいている。また非常時に備え、備蓄品を保有し施設として提供の用意がある。結果、総合的評価として適切であると考えている。2015年度よりボランティアサークルを発足させ、ボランティア活動への学生参加を促進した。近隣清掃、神奈川県湘南地区ビーチクリーン活動、東京マラソン運営サポート、熊本地震復興支援（熊本県阿蘇地区内牧温泉）などを行った。

基準 11 国際交流

(1) 項目評価

	評価項目	優れている…3 適切…2 不適切…1
01	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
02	留学生の受入れ・派遣、在籍管理などにおいて適切な手続き等がとられているか	3
03	留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3

(2) 評価項目に対する現状と課題、改善策など

本校は入学前から一貫した体制をとっており、外国人留学生の受け入れは、募集・教育・事務部門のそれぞれで留学生の担当者を置き、募集に関しては日本語学校との連携により、入学後はクラス担任により学習や生活の指導、各業界を担当に持つ専任スタッフが就職進路指導を行っている。また、学生課では入国管理局との事務折衝を実施している。日本人学生の海外派遣に関しては留学を制度化しており、アメリカ（シアトル）、台湾に現地法人を設置し、毎年留学生を多数派遣しているため、評価3とした。

以上



<『C 当該学校に係る情報』の『ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法』
に記入した方法で公表している教育活動等の状況に関する資料についてその内容を公表し
ていることを示す資料>

【学校情報は以下 HP にて公開】

<https://trajal.jp/>

